



令和5年度  
**障害者等による  
文化芸術活動推進事業  
事例集**

# はじめに

文化庁では、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」に基づく「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」や「文化芸術基本法」に基づく「文化芸術推進基本計画」を踏まえ、鑑賞や創造の機会の拡大や作品等の発表機会の確保など、文化芸術による共生社会の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進に取り組んでいます。令和5年度から第2期の計画期間が始まった両計画では、障害者等による幅広い文化芸術活動の推進や、障害の有無等にかかわらず誰もが文化芸術に親しみ、多様な活動に参加する機会の促進、地域における推進体制の構築に取り組むこととされています。

令和元年度から始まった「障害者等による文化芸術活動推進事業」では、両計画に基づく施策を国として着実に推進していくため、障害者等による文化芸術の鑑賞や創造機会の拡大、発表機会の確保に係る先導的・試行的な取組、支援人材の育成、文化芸術へのアクセスの改善・鑑賞サポート等、共生社会を推進するための様々な取組を、各団体等に委託し、実施しているところです。

こうした取組を進めることは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」の改正による合理的配慮の提供の義務付け（令和6年施行）や、「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律（障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法）」（令和4年施行）の趣旨にも適うものです。

昨年度に引き続き、令和5年度の本事業における各団体等の皆様の創意工夫による取組の成果について、関係者間で共有し、更に各取組の改善に繋げていただくため、事例集としてとりまとめました。本事例集が、共生社会の実現に向けて、障害の有無等にかかわらず誰もが文化芸術に触れ、その豊かさを享受する活動が一層広がる一助となることを願っております。

文化庁参事官（生活文化創造担当）

## 参考

障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）  
（令和5年3月策定）（計画期間：令和5年度～令和9年度）

URL：[https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/shogaisha\\_bunkageijutsu/1415475.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/shogaisha_bunkageijutsu/1415475.html)



# Contents

- P.04... **01** 『文化の扉を開こう!』～障害児等の文化体験活動と支援人材の育成～  
公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
- P.06... **02** 宮城野区子ども舞台芸術祭フラットシアターフェスティバル vol.2 開催事業  
NPO法人アートワークショップすんぶちよ
- P.08... **03** インクルーシブアートコーディネーター養成講座開設に向けたプロジェクト  
国立大学法人群馬大学
- P.10... **04** 日本からアジア太平洋へ～認知症患者・高齢者と介護者をつくる「アートのような、ケアのような《とつとつダンス》」  
一般社団法人torindo
- P.12... **05** 舞台手話通訳者の人材育成および実践普及、観劇サポート啓発  
特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク
- P.14... **06** 劇場・音楽堂等による共生社会実現のための人材養成講座  
公益社団法人全国公立文化施設協会
- P.16... **07** 「バレエによるインクルージョン促進事業」リラックスパフォーマンス  
公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団
- P.18... **08** ～いつでも、だれでも、どこへでも～『ミュージアム・アクセス・センター』設立事業  
特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
- P.20... **09** やってみようプロジェクト  
公益社団法人日本劇団協議会
- P.22... **10** 「社会と知的障がい者施設を演劇でつなぎ地域のプラットフォームをつくる事業」  
一般社団法人日本演出者協会
- P.24... **11** プロの音楽家を介在したインクルーシブ体験と地域ネットワークの構築  
公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団
- P.26... **12** 「劇場をつくるラボ」福祉施設に鑑賞体験や創作体験を届ける試み  
一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL
- P.28... **13** 障害当事者の劇場・文化施設での芸術鑑賞及び体験を充実させる施設職員とアーティストの育成プログラム  
一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL
- P.30... **14** 新国立劇場主催演劇公演等における観劇サポート  
公益財団法人新国立劇場運営財団
- P.32... **15** 驚きとともに体験する、芸術と精神のインスピレーションプログラム  
特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ
- P.34... **16** 障害者による文化芸術活動の推進に関する基本計画にかかる調査等  
株式会社文化科学研究所
- P.36... **17** 障害者等による文化芸術鑑賞の相談窓口、および鑑賞サポートの取組  
Palabra株式会社
- P.38... **18** 社会的養護のもとにある障害児等による地域間交流から生まれるパフォーマンス作品の創作と発表  
特定非営利活動法人芸術家と子どもたち
- P.40... **19** ホスピタルシアタープロジェクト2023—すべての子どもたちと家族のための多感覚演劇『鳥の歌』（仮題）創造・巡演、質ならびに社会的認知の向上  
特定非営利活動法人シアタープランニングネットワーク
- P.42... **20** 見ル 聞ク 感ヅル みんなの対話型鑑賞会  
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
- P.44... **21** 高齢ろう者×アートプロジェクト2023  
公益財団法人現代人形劇センター
- P.46... **22** 精神障害当事者の経験に基づいたオリジナルの演劇創作、公演及び地域を超えた普及啓発活動  
OUTBACKプロジェクト
- P.48... **23** 熊川宿若狭美術館を拠点とする芸術文化推進事業  
特定非営利活動法人若狭美&Bネット
- P.50... **24** 医療的ケア児や重度心身障害者の参加するインクルーシブな芸術文化活動モデル創造事業  
医療法人社団オレンジ
- P.52... **25** 『表現未満、プロジェクト』～新しい価値創造を目指した思考と学びと実践の発信拠点「表現未満、」センター～  
特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ
- P.54... **26** 滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターによる「特別支援学校、特別支援学級へのオーダーメイド・アウトリーチ」  
国立大学法人滋賀大学
- P.56... **27** 公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材形成を軸とした基盤づくり事業  
一般社団法人HAPS
- P.58... **28** 鑑賞支援サービス 地域スモールモデル構築事業  
一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構
- P.60... **29** 日本センチュリー交響楽団 特別支援学校コンサート  
公益財団法人日本センチュリー交響楽団
- P.62... **30** みんなでダンス in Ibaraki プロジェクト「みんなでつくるダンス公演」～障害のある人もない人も一緒に踊ろう～  
公益財団法人茨木市文化振興財団
- P.64... **31** 医療リハ施設や支援学校に Outreach、身体的芸術活動（パントマイムやダンス等）の体験と、発表の機会を提供し充実させる活動  
川村義肢株式会社
- P.66... **32** 「こんにちは、<sup>ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ</sup>共生社会」  
特定非営利活動法人ダンスボックス
- P.68... **33** Art for Well-being 心身機能の変化に向きあう文化芸術活動の継続支援と社会連携  
一般財団法人たんぼぼの家
- P.70... **34** ニュートラの学校：福祉と伝統工芸をつなぐ人材育成と仕組みづくり  
一般財団法人たんぼぼの家
- P.72... **35** 生活・思い・願いを描く 戯曲表現が開く障がい者の表現と障がい理解  
特定非営利活動法人鳥の劇場
- P.74... **36** 地域と共につくる島根インクルーシブシアター・プロジェクト 2023  
公益財団法人しまね文化振興財団
- P.76... **37** 四国・中国・近畿ブロックの重度障害児者を対象とした芸術文化活動「訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学」  
国立大学法人愛媛大学
- P.78... **38** 精神障がいのある人の表現活動推進事業  
NPO法人シアターネットワークえひめ
- P.80... **39** 共生社会へチャレンジ IN FUKUOKA  
特定非営利活動法人アートマネジメントセンター福岡
- P.82... **40** パーキンソン病患者によるダンス活動の普及事業～地域拡充編  
一般社団法人パラカダンス
- P.84... **41** 「ゆいまーるミュージックプロジェクト」  
一般社団法人琉球フィルハーモニック
- P.86... **42** 音楽体験を通じた不登校児童生徒の社会的接点を作る音楽プログラムの開発と実践、及びその検証  
一般社団法人楽友協会おきなわ

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 所在地 北海道札幌市  
 団体URL: <https://koguyama.jp/> 事業URL: <https://youtu.be/2OVt44ArIAU>

文化芸術が果たす社会的包摂機能を考えた時、健常児とともに障害児と一緒に文化芸術に携わる意味とその効果は大きいと考えます。本事業では、「共にあそび・共につくる」ことを目標とし、一人ひとりが個性を発揮できる表現の場として、劇場、養護学校、特別支援学級での文化鑑賞機会、創造の機会創出といった、共生社会における文化芸術を活用したさまざまなプログラムに取り組みました。表現活動をおしてそれぞれの個性を知り、子どもから大人までさまざまな年代の人々が関わる中で、差別や偏見等の垣根を取り払う意識のバリアフリーを推し進めるものです。

## 本事業で実施した【内容】

### パペットアートヴィレッジ(舞台表現プログラム)

**開催日:** 2023年7月8日～2023年12月17日 [実施回数]全11回  
**会場名:** 札幌市子ども人形劇場こぐま座・札幌市中島児童会館  
**対象:** 障害等を持つ子ども・障害を持つ子どもとともに表現活動をするに興味のある人  
**定員:** 小学生～高校生 15名・参加費:有料  
**参加人数:** 小学生～高校生 13名 発表公演観客数104名  
**ファシリテーター:** 矢吹英孝(公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)  
**スタッフ:** 特別支援学校教諭、専門アーティスト、市内人形劇団、高校生、大学生 18名

#### 実施内容:

障害のあるなしに関わらず子どもから大人までさまざまな人たちが参加して共に創りあげること意識して取り組みました。大人は指導役ではないこと、子どもたちから湧き出る「やりたい! やってみたい」という意欲を大切にしました。

最終回には多くの観客の前で舞台発表会を実施(パペットアートヴィレッジPresentsおたのしみクリスマス会inこぐま座)・しっちゃかめっちゃかパレード・時き絵ばなし「フォーシーズン」・活動紹介・人形劇イソップ・みんなでおどろろ「ごちゃまぜだいすき」・おたのしみプレゼント

### 体験プログラム(①人形劇体験②人形浄瑠璃体験③人形劇鑑賞)

**開催日:** 2023年6月6日～2024年2月20日  
**会場名:** ①札幌市こどもの劇場やまびこ座、札幌市立元町北小学校  
 ②札幌市こどもの劇場やまびこ座、北海道真駒内養護学校  
 ③札幌市子ども人形劇場こぐま座、北海道拓北養護学校、札幌養護学校白桜高等学園  
**参加人数:** ①札幌市立元町北小学校すぎの子学級3～5年生・14名 発表公演観客数25名 全10回 参加費:無料  
 ②北海道真駒内養護学校中等部・高等部 延べ75名、札幌市立北翔支援学校高等部 36名 全3回 参加費:無料  
 ③真駒内養護学校小学部 17名、北海道拓北養護学校小学部 80名、札幌養護学校白桜高等学園 174名 全3回 参加費:無料

#### 実施内容:

学校教育現場と連携し、劇場スタッフに加え、地域で活動をする劇団に所属する専門家を派遣し、各種体験プログラムを実施。

- ①特別支援学級を対象に、廃材を人形に見立て、作品創作に取り組む。最終回には、保護者や学校関係者を観客とし、舞台発表を実施。人形劇の作品創造を通して、子どもたちの表現力や他者と関わろうとするコミュニケーション力を引き出し、物事をやり遂げることによる達成感を味わう機会を創出。
- ②人形浄瑠璃・鳴り物ワークショップ。障害によって思うように体を動かす、見る、聞く、話すことが困難な子どもたちに、人形浄瑠璃の人形や鳴り物等の伝統芸能に触れる機会を創出。
- ③養護学校での人形劇鑑賞会を実施。障害により劇場に出向くことが困難な子どもたちが通う学校で文化芸術に触れる機会を提供。

### 企画展示

**開催日:** 2023年12月9日～2024年1月14日  
**会場名:** 札幌市中島児童会館・子ども人形劇場こぐま座 資料室[MA・SO・BO]

**対象:** 子ども～大人  
**参加人数:** 延べ1,330名 参加費:無料

#### 実施内容:

発達障害のある子どもたちによる自由に想像力あふれる作品展【協力】児童デイサービス「ペンギンアート」

### 研修会

**開催日:** 2023年11月26日  
**会場名:** 札幌市子ども人形劇場こぐま座  
**対象:** 障害児の文化活動に関わる人材  
**参加人数:** 47名 参加費:無料

#### 実施内容:

障害者の積極的活動を支援する高橋義男氏(苫小牧脳神経外科小児専門脳神経外科医)による大人向け研修会

## 本事業で得られた【成果】

### 世界にたったひとつの『宝もの』

令和5年度から初めての取り組みとしてスタートした舞台表現プログラム『パペットアートヴィレッジ』は、障害のある子ども、そしていろんな大人たちがごちゃまぜになり、みんなで一緒に創りあげること意識しました。人形劇を中心に音楽、ダンス、工作、絵画、そしてあそびといった文化を通したソーシャルインクルージョン(社会的包摂)事業です。子どもたちのやりたい、やってみたいを大切に、お互いを知り、お互いを認め合い、いろんな特性を持った子どもたちの可能性を信じて取り組みました。

最終回では、『パペットアートヴィレッジPresentsおたのしみクリスマス会inこぐま座』と題して、楽しいクリスマス発表会を開催。子どもたちの手づくり楽器を持って「しっちゃかめっちゃかパレード」に始まり、ブラックライトを使った幻想的な「巻き絵ばなしフォーシーズン」、ヴィレッジの全11回の活動を紹介、そして、歌あり踊りあり、縦横無尽に舞台を駆け回り、みんなで創った人形劇「イソップ」、そして「みんなでおどろろ ごちゃまぜだいすき」の盛りだくさんの内容でした。最後にサンタクロースが登場して、子どもたちの描いた絵のコースターを観客にプレゼント。ヴィレッジの子どもたちはもちろん、会場全体があたたかい雰囲気になりました。

子どもたちの一生懸命だからこぼれ出る笑顔が、お客さまに生きるエネルギーとして届いたと思います。

す。障害のある子ども、子どもも大人もそれぞれの個性が混ざり合い、観たこともない、世界にたったひとつの心温まる『宝もの』ができあがりました。



舞台表現プログラムパペットアートヴィレッジ おたのしみクリスマス会



舞台表現プログラムパペットアートヴィレッジ 稽古風景

### 想像力が未来を創る 子どもたちのやりたいをカタチに

子どもたちにとって身近で、日常的に來られる環境を作り、様々な体験の場を設定することで、誰もが創造者として参加できることを目指しています。文化は特別なものではなく、すべての人の日常のそばにあ

る当たり前のものとなること、子どもたちのやりたいを実現できる、想像力あふれる未来社会の実現につながるものです。



舞台表現プログラムパペットアートヴィレッジ 集合写真



人形劇体験プログラムパペットアートヴィレッジ パレード



舞台表現プログラムパペットアートヴィレッジ 制作風景

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

地域に開かれ、子どもから大人まで幅広い人が集う劇場だからこそ、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な事業展開が可能となります。市民の人材育成を根幹とし、長年培ったノウハウ、ネットワークを生かし、育成する子どもから大人まで、さまざまな年代の劇団やアーティスト、ボランティアの方々の協力を得ることができました。

宮城野区子ども舞台芸術祭フラットシアターフェスティバルvol.2を開催。「いっしょにいこうものがたりのせかい」をテーマに、劇場で舞台芸術を体験する際のあらゆるハードルを取り除き、観客と劇場をフラットに繋げることを目的としています。障害や年齢の違いを問わずあらゆる子どもを対象にした作品を上演する点が特徴です。去年に引き続き、開催にあたって地域の劇場と共催することで、障害のある人を文化施設に受け入れる際のノウハウやスキルを蓄積し、障害者の社会参加を向上させる狙いがあります。

## 本事業で実施した【内容】

### フェスティバル事前ワークショップ 「市民センターでだれでもダンス」

開催日: 2023年8月19日14時～16時 事前ワークショップ①  
2023年8月26日14時～16時 事前ワークショップ②

会場名: 仙台市幸町市民センター  
仙台市宮城野区中央市民センター

対象: 小学生以上、障害のある子ども(種類問わず)  
※付き添い可

定員: 12名

参加人数: 事前ワークショップ①

参加人数: 16名(うち障害児8名、付き添い8名)

事前ワークショップ②

参加人数: 20名(うち障害児13名、付き添い7名)

ファシリテーター: 大久保潤、渋谷裕子

#### 実施内容:

障害のある子どもを対象にしたダンスワークショップです。市民センターを会場にすることで、市民センターと周辺に住まう障害のある人の接点を作ることを目的としました。



市民センターでだれでもダンス

### フラットシアターフェスティバル vol.2

開催日: 2023年9月16日～2023年9月17日

会場名: 宮城野区文化センター

宮城野区中央市民センター

対象: 障害のある人を含むすべての子ども

参加人数: 2日間動員数: 561名

フェスティバルチケット料金:

大人2,000円、子ども500円、0.1.2歳無料

#### フェスティバルプログラム:

- ①オープニングセレモニー「アフリカンリズムの旅に出よう!」  
ぼれぼれスペシャルライブ
- ②多感覚演劇「フェスタ!」/  
NPO法人アートワークショップすんぷちよ
- ③人形劇「きんいろの髪のお姫さま」/  
Divadlo501 ※舞台手話通訳付き
- ④即興コメディ「みんなと作る物語」/  
ロクディム ※字幕つき
- ⑤サーカス「Witty LookのLife's a circus!!!!」/  
チキキ\*パークウ
- ⑥工作へんしんの城「ダンボールパーティー」
- ⑦なんでもありのNo is...?な音楽隊/  
アートインクルージョンファクトリー

#### 同時開催:

ふらっとマルシェ…フード、雑貨、キッチンカーのお店の出店

## 本事業で得られた【成果】

### 市民センターで事前企画、本祭への集客とノウハウの共有

仙台市内に60館ある市民センターを会場に事前企画を行うことで、市民センター周辺に住まう障害のある人が地域の生涯学習拠点に接点を持つきっかけを生み出す取り組みを始めました。初年度は劇場周辺2館を会場にダンスワークショップを開催しました。ワークショップ開催に向けて準備段階から市民センターの職員と申し込み受付の方法や、当日の会場検討を行いました。受付は市民センターが担当し、申し込みがあった場合は障害の種類や事前情報をヒアリングするなど、障害のある人を受け入れるプロセスを共有しました。幸町市民センターでは空調や日当たりを考慮し、当日一番涼しい部屋に変更するなど、市民センター側のホスピタリティが現れており、職員もダンスに参加し、障害児と交流する姿がありました。このワークショップに参加した障害児の

うち7名が9月開催のフェスティバルにも来場しました。



多感覚演劇フェスタ!撮影: Mari Odajima

### 地元商店会との協力関係の緒を掴むことができた

当事業では申請段階から「障害者の社会参加と地域活性化」という課題が設定されています。このフェスティバルでは初年度から、劇場を含むあらゆるセクターとの協働により、障害者の社会参加を推進するプロセスを共有しています。今回は劇場から徒歩5分の場所にある原町東部商店会に入会することで、商店街での広報を実施し、オープニングでは商

店街のゆるキャラがステージを盛り上げるなど、新たな協働の緒を生み出すことができました。将来的には商店街での屋外上演により、商店街の店舗との相乗効果や、障害者のバリアフリーについて考えるきっかけを生み出し、地域活性化を一段と推進したい考えです。



ダンボール工作コーナー 撮影: Mari Odajima



フェスティバル関係者集合写真 撮影: Mari Odajima

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

2022年度の初回開催から一環して、他団体との協働、あらゆる団体を巻き込んで開催することで、障害のある人の芸術活動や社会参加を推進するためのプロセスを共有し、共にノウハウを蓄積することを続けています。その際、それぞれの団体や機関の強みを活かした参画の仕方を提示し、リソースを分散することで長く続ける土壌作りも同時に行なっています。今年度は仙台市教育委員会が共催となり、市政だよりによりイベント情報として掲載されたり、学校などへのチラシ配布もスムーズに行うことができました。

アートを核に、障害のあるなしに関係なく新たな学びの場を創造するとともに、共生社会における文化芸術活動を推進する人材育成を目的に「インクルーシブアートコーディネーター養成講座」の開設に向けた活動を実施。障害者の芸術活動を創造することの重要性を共有し、それを発信していくことを目指しています。誰もが共に学び合う場としての環境創造に向けた事業です。2023年度は、主に次年度以降の本講座開設に向けての試験的な取り組みとして、視覚障害を中心とした8回の講座を実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### インクルーシブアートコーディネーター養成講座

開催日: ①2023年6月17日、②6月30日、③7月15日、  
④7月27日、⑤9月23日、⑥10月23日、  
⑦11月20日、⑧12月18日

会場名: ①③⑥⑧国立大学法人 群馬大学(前橋市)  
②④⑦群馬県社会福祉総合センター(前橋市)  
⑤伊参公民館(中之条町)

対象: 社会人、学生

参加人数: 合計348名 参加費: 無料

#### 実施内容:

インクルーシブアートコーディネーターとはアートを通じて、だれもが排除されることなく社会参画できるように働きかける人材のこと。学生や社会人を対象に、対話による鑑賞の方法、障害者アートの現状など、本講座開設に向け、専門家や障害者を講師に、8回のプレ講座を開催しました。



インクルーシブアートコーディネーター養成講座

### 国際現代芸術祭「中之条ビエンナーレ2023に参加

開催日: 2023年9月9日～10月9日

会場名: 伊参公民館(中之条町)

対象: 一般

参加人数: 延べ8,941名 参加費: 無料

#### 実施内容:

見て聞いて触って楽しむ「CONTON\_meeting」展、  
林 耕史展などを開催しました。



中之条ビエンナーレ会場でのワークショップ

### 触れる彫刻展示と対話による鑑賞会のサポート

開催日: 2024年1月27日(土)～3月31日(日)

会場名: 群馬県立館林美術館(館林市)

※企画展「ヒューマンビーイング」の一部として  
展覧会を開催

対象: 一般

参加人数: 合計597名 参加費: 無料

#### 実施内容:

全盲の彫刻家・三輪途道(みづの ちかみち)の作品をボランティアが障害者をアテンドしながら一緒に楽しむ鑑賞会や映画「手でふれてみる世界」の上映会などを行いました。

## 本事業で得られた【成果】

### 障害者の現状を理解する機会につながる、障害者とアートをつなぐ人材育成

「インクルーシブアートコーディネーター養成講座」では、講師に視覚障害者を招いたことで美術鑑賞や創作の様子、要望等を聞くことができ、これまでアートと距離があると思われていた視覚障害者の現状を理解する機会となりました。受講者は学生、

美術や福祉に関心を持つ社会人らで、対話型鑑賞の方法、鑑賞サポートなどを、触れる彫刻展やワークショップの現場を通じて学ぶことができました。これは今後、どんな障害を持つ人にも通じる経験となることでしょう。

### 国際現代芸術祭に参加、研修の実践と活動の啓発・理解の促進を実現

国際現代芸術祭「中之条ビエンナーレ」に「触れる彫刻展」として参加しました。会場では視覚障害者を含む来場者に対して、養成講座受講者や群馬大生がアテンドを行い、「共に感じる…対話の鑑賞会」として、相互理解を促進する鑑賞会も実施しました。視覚障害者とアートをつなぐ活動だけにとどまらず、幅広いインクルーシブアートの可能性をさぐることができました。



対話による鑑賞会

### 障害者と美術館の垣根を取り払う工夫として、バスツアーを実施

視覚障害者のアート鑑賞の機会をつくるため、群馬県立館林美術館企画展へのバスツアーを開催しました。美術に関心があってもつい家にこもりがちな障害者に対し、気軽に出かけていただくための工夫として、実施しました。アート鑑賞に音楽鑑賞を加えた一日旅行として楽しんでもらうほか、バスでの移動中は全盲の人がバスガイド役をして車内を盛り上げてくださり、交流を深めることができました。その結果、参加者に一体感が生まれ、鑑賞会が和やかに開催できました。



交流を深めたバスツアー

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

当事業は障害者の目線からすべてがスタートし継続していることが特徴であり、強みです。触れる彫刻展は、従来の「見える人を対象にした展覧会」から脱し、視覚障害者にとって「知るための手段」である触察に目を向けるきっかけにもなりました。これらのことから、障害者を美術館でアテンドし共に鑑賞する必要性と、そのための人材育成ということの大切さが改めて浮き彫りになりました。また、事業を展開する中で群馬県内の公立美術館の学芸員らをはじめ、アート活動や共生事業を支援してくれる民間企業などと連携を図ることができました。私たちの活動がハブになることによって横のつながりが生まれ、「ひとつの群馬」としてアート分野がまとまることができました。

<とつとつダンス>はダンサー・振付家の砂連尾理とtorindoが、認知症高齢者・障害者と介護者とともに行うダンスワークショップ。現在までに15年間、300回以上開催しています。昨年度からマレーシアへその活動を広げ、日本の認知症ケアとダンスの手法を広く発信しています。今年度は、新たにシンガポール、鹿児島へと事業展開し、認知症患者、介護者らとともに、世界アルツハイマー月間に行われた大規模イベントにおいてパフォーマンスと公開ワークショップを実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### マレーシアでの活動

開催日: 2023年8月1日～5日

会場名: テイラーズ大学、バガン病院(高齢者ケアセンター)、ファイブ・アーツ・センター

対象: 当該地の認知症高齢者、介護者、介護・医療関係者、大学生、アーティスト

参加人数: 256名 参加費: 無料

#### 実施内容:

①認知症高齢者、介護者とのワークショップ ②大学生、介護・医療関係者へのレクチャー・ワークショップ ③アーティストとのワークショップ

### シンガポールでの活動

開催日: 2023年8月7日～10日、9月5日～9日

会場名: ニューホライズンセンター、ディメンシアソーシャルクラブ、オンライン(Zoom)、アプサラス・アーツ、アワ・タンピナス・ハブ

対象: 当該地の認知症高齢者、介護者、介護・医療関係者、アーティスト、一般参加者

参加人数: 198名 参加費: 無料

#### 実施内容:

①認知症高齢者、介護者とのワークショップ ②介護施設関係者へのレクチャー・ワークショップ ③アーティストとのワークショップ ④認知症高齢者、介護者との作品クリエーション ⑤認知症高齢者、介護者との公開パフォーマンス ⑥認知症高齢者、介護者、一般参加者との公開ワークショップ



シンガポールのデイケアセンターでのワークショップ

### 鹿児島での活動

開催日: 2023年9月22日、23日、11月2日、3日

会場名: ホームホスピスもくれんの家、ホームホスピス あんまゝの家、特別養護老人ホーム七福神、ひらやまのお家、妙行寺、あおぞら東千石、LLさねかた、ふあん2テラス七福神

対象: 当該地の認知症高齢者、介護施設職員、介護・医療関係者、一般参加者

参加人数: 135名 参加費: 無料

#### 実施内容:

①施設訪問 ②認知症高齢者、介護者とのワークショップ ③一般参加者へのレクチャー・ワークショップ



鹿児島での一般向けワークショップ

### <とつとつダンス>2023年度活動報告会

開催日: 2023年12月2日、3日

会場名: 東京芸術センターホワイトスタジオ (東京都足立区)

対象: 一般参加者

参加人数: 202名 参加費: 無料

#### 実施内容:

映像やテキストの展示。ワーク・イン・プログレスのパフォーマンス上演。シンガポール、マレーシアからのゲストとともに認知症ケアとダンスについてのトークセッション。

## 本事業で得られた【成果】

### アーティストと認知症患者・高齢者、介護者による芸術文化活動を国内外に広く展開

これまで培ってきたスキルやノウハウをもとに、マレーシア・シンガポール・鹿児島などの認知症患者・高齢者と介護者とともにダンスと音楽のワークショップ、それをもとした作品発表を行い、日本、マレーシア、シンガポールのそれぞれ異なる背景を持つ認知症ケアについて理解を深めました。

海外では、昨年に引き続きマレーシアの高齢者ケアセンター(ペナン州)やシンガポールの複数のデイケアセンターでワークショップを行いました。また、9月の世界アルツハイマーデーに合わせて大型スタジアムで行われた認知症理解促進のための大規模イベント「Family Fiesta Carnival」ではパフォーマンスと公開ワークショップを行い、シンガポール市長

をはじめ多くの方に高い評価を受けました。鹿児島では、多様な事業形態の7つの施設で現地視察を行い、うち5つの施設でワークショップを実施し、来年度へとつながる確かな手ごたえを得ることができました。



マレーシアの高齢者ケアセンターでのワークショップ



マレーシアでの介護・医療従事者向けワークショップ

### <人材育成>に対する取り組みとしてのアーティスト向けワークショップの実施

今年度の課題のひとつであった人材育成の取り組みとして、これまで行ってきた介護・医療従事者に向けたレクチャーだけでなく、アーティスト向けのワークショップを精力的に行いました。特に、マレーシア、シンガポールでは、認知症ケアとアートに興味のあるアーティストに向けて参加募集をかけ、当該地においてまだまだマイナーな分野であるにも関わらず、想定以上の反響を受け、高いニーズを感じることができました。また鹿児島で行った一般向けのレクチャー・ワークショップにも多くの方々に参加していただくことができ、こちらも同様にニーズの高さを実感しました。我々としてもこれまであえて方法論化してこなかった自分たちのダンスワークショップの手法を分析・言語化し、プレゼンする機会となりました。

また、年末に実施した活動報告会において、砂連尾理だけでなく、ダンサー神村恵やマレーシアの映像作家オクイ・ララ、車椅子ユーザーである映画監

督の石田智哉、シンガポール在住の認知症の方々(オンライン)が共同してワーク・イン・プログレスを行い、一つの作品を作り上げるプロセスを通じて認知症ケアの理解がより深まっていく様を確認できました。今年度は現地のアーティスト、認知症高齢者、介護者と、時にオンラインを通じて作品創作という形で連携がとれる可能性を確認しました。日本発信の認知症ケアとダンスの文脈には、より一層の広がりが期待できるものと思われれます。



活動報告会の様子(撮影:西野正将)

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

#### ■活動報告会における〈報告〉手法

年末に行った活動報告会では、映像やワークショップ中に認知症の方々が描いた絵の展示やテキストの配布、オンライン出演者も含めたミニパフォーマンス、トークセッションなどの多様なメディアと手法を組み合わせました。会場内で、認知症高齢者、介護者と関わっているダンサーを媒介者ととらえ、過去長年にわたって積み重ねてきた認知症ケアとダンスの経験を同時進行で体感できるよう工夫しました。トークセッションではアンケート回収により観客からの意見の共有も出来ました。

#### ■持続可能なチーム形成

今年度はマレーシア、シンガポール、鹿児島と事業を展開し、それぞれの文化や社会情勢の中で活躍するコーディネーターに協力を依頼。マレーシアのペナン州バターワースで認知症ケアの啓蒙活動をしている老年学学者、シンガポールを拠点に活動するアートフェスティバルのプロデューサー、鹿児島では旅行支援を行っている団体など、コーディネーターを基点にチームを形成しました。

団体名 特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク 所在地 東京都世田谷区  
 団体URL: <https://ta-net.org/> 事業URL: <https://ta-net.org/event/> (アクセシビリティ公演情報サイト)

事業概要 本事業では「全国への舞台手話通訳派遣公募プログラム」と題して3つの劇団と共に舞台手話通訳の実践に取り組んでいます。モデル事業として、舞台手話通訳、字幕、音声ガイドつき演劇「メゾン」を上演。同日、鑑賞サポートワークショップを行うことにより、文化施設や行政の職員、芸術団体、市民サポーター等に聴覚障害者・視覚障害者への接遇方法を学ぶ機会を提供。舞台手話通訳導入に関わる専門人材の育成や観劇サポート充実に向けた啓発を行い、聴覚障害者を取り巻く創造環境の整備に寄与します。

## 本事業で実施した【内容】

### 全国への舞台手話通訳派遣 公募プログラム

#### ①PANCETTA「ゾウ」

開催日: 2023年10月6日(金)  
 会場名: ザ・スズナリ(東京都世田谷区)  
 動員: 117名(1ステージ)

#### ②メントC「私の心にそっと触れて」

開催日: 2023年12月16日(土)  
 会場名: ザ・ポケット(東京都中野区)  
 動員: 80名(1ステージ)

#### ③FOURTEEN PLUS 14+「変身」 (スターリーシアター株式会社)

開催日: 2024年1月19日(金)~1月21日(日)  
 会場名: ぽんプラザホール(福岡県福岡市)  
 動員: 280名(4ステージ)

#### ②三重県障がい者芸術文化活動支援センター、 三重県総合文化センターとの連携開催

開催日: 2024年1月26日(金)  
 会場名: 三重県文化会館(三重県津市)  
 動員: 演劇「メゾン」149名 参加費: 500円  
 鑑賞サポートWS: 26名 参加費: 無料

#### ③丸亀市との連携開催

開催日: 2024年2月3日(土)  
 会場名: 丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス  
(香川県丸亀市)  
 動員: 演劇「メゾン」80名 参加費: 無料  
 鑑賞サポートWS: 30名 参加費: 無料

### 啓発

#### ①情報発信・観劇サポートへの認知を 高めるための啓発

- アクセシビリティ公演情報サイトでの発信(随時掲載)
- メールマガジンの配信(2種類×月2回)637名登録

#### ②聴覚障害・手話関連の大会へのブース出展

- 第71回全国ろうあ者大会inおおい(6月)
- 第56回全国手話通訳問題研究集会  
~サマーフォーラムinとくしま~(8月)



舞台手話通訳の実践 FOURTEEN PLUS 14+

### モデル事業 舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇 「メゾン」&鑑賞サポートワークショップ

#### ①ワーク・イン・プロGRESS (会場協力:セゾン文化財団)

開催日: 2023年8月10日(木)  
 会場名: 森下スタジオ(東京都江東区)  
 動員: 31名 参加費: 無料(2回実施)



ろうあ者大会でのブース出展

## 本事業で得られた【成果】

### 舞台手話通訳つき演劇のスキーム確立。作品の魅力をもり高めるための工夫を。

全国から舞台手話通訳導入に関心がある劇団を公募で募り、東京2ヶ所、福岡1ヶ所での開催が実現。基本は①詳細打合せ(オンライン顔合わせ)、②

TA-net内でのオンライン稽古と劇団の稽古参加、③劇場での最終調整・本番、④フィードバックという流れで、事業を通じてスキームを確立しました。

### 舞台手話通訳に関わるスタッフの人材育成。安定供給とクオリティ向上に必要な知識を吸収。

TA-netでは過去に全国で舞台手話通訳者養成講座を開催していますが、現場での実践回数が少ないことが課題でした。研修会や創作現場でのOJTを行

いました。劇場入りから帯同し、舞台経験の豊富なスタッフからレクチャーを受けたことにより、必要な知識を身につける機会になりました。

### 舞台手話通訳つき演劇への関心の高まり。聴者の観客からも興味深い感想が届く。

劇団側と密にコミュニケーションを取ることで、ろう者・聴者間の言語や文化の違いをこえて考えのすり合わせができるようになりました。創作現場において演出家、俳優、スタッフにも舞台手話通訳チームの

様子を見ていただいたことで、劇団側においてもそれまでの聴覚障害者に対する見方や意識、舞台手話通訳という演出も含めたステージ上の動きに変化が表れました。

### アクセシビリティ公演開催地域の行政、施設との連携により、当事者団体との協力体制も。

文化施設におけるバリアフリー化は、受付対応だけでなくコンテンツ部分にも必要であるため、TA-netが過去に創作した舞台手話通訳、字幕、音声ガイドつき演劇「メゾン」をモデル事業として企画。事前に厚労省「障害者芸術文化活動普及事業」で設置された全国の支援センター12箇所に、課題やニーズについてヒアリングを行い、アーツカウンシルや文化施設、演劇関係者、聴覚障害者、視覚障害者と意見交換もできました。そのうえで開催した2公演では、主

催団体との連携にとどまらず、聴覚や視覚の障害当事者団体との協力体制を構築できました。



意見交換会



舞台手話通訳・字幕・音声ガイドつき演劇「メゾン」

### 中長期アウトカムにつなぐ啓発を実施し、関わる人たちの継続的なアクションにつなぐ

何度も打ち合わせを重ねる中で、本事業のアウトプット(企画実施)だけでなく、中長期アウトカムも意識しながら情報提供やアイデア出しを行いました。

関わる人たちが次年度以降も継続してアクセシビリティ向上へのアクションが起きるよう、各地域の担い手が主体的に取り組めたことも成果です。

### 障害当事者が関わることの重要性を紹介

鑑賞サポートワークショップを開催することで、劇場関係者が聴覚障害者・視覚障害者への対応を学ぶ機会を持ちましたが、これらは障害当事者が担い手と

して活躍できる環境づくりの大切さも伝える機会にもなりました。



鑑賞サポートワークショップの様子

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

##### ■丁寧なヒアリングとネットワークづくり

新しい取組は一つの団体だけではできないため、様々な人に声をかけ、相談をすることで連携構築ができるように努めました。「直接的な対話」から、より良いものを作り上げることができました。

##### ■共感からアクションを引き出す事業の組み立て

劇場や演劇団体自らがアクションを起こせるように、まずは「知らない」という状況を「知って」もらい、「体験・体感」につなげられる事業設計を行い、アクセシビリティに対する認知を広げました。

##### ■事業プロセスにおける共生社会の実現

障害者の芸術活動においては「障害者は観客(受益者)」と位置付けられることが多いですが、当団体では聴覚障害者・視覚障害者自らが意思決定に関わり、事業に関わる体制を組んでいます。

劇場・音楽堂等は、障害者等による文化芸術の推進については、積極的に実施されているとは言い難い状況です。その理由として、専門的知識をもった職員がいないなどの課題があり、人材の育成は急務となっています。そこで①劇場・音楽堂等で働くすべての人(全職員向け)、②障害者を対象とした取組みを行ったことがない人等(初心者向け)、③障害者を対象とした事業を実施した経験のある人(経験者向け)と3つの段階に分け、段階に応じた研修を実施するとともに、取組事例を調査し、ウェブサイトにて公開しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 劇場・音楽堂等による共生社会実現のための人材養成講座

開催日: ①第1段階(全職員向け):2023年7月10日～  
②第2段階(初心者向け):2023年6月29日、  
7月4日、7月6日、7月20日、9月5日  
(ビデオ公開 2024年1月15日～3月29日)  
③第3段階(経験者向け):2023年10月25日、  
11月16日、11月22日、11月27日、12月5日～6日  
(ビデオ公開 2024年2月1日～3月29日)

会場名: オンライン/東京都中小企業会館(東京都中央区)  
対象、募集定員、参加人数、参加費の有無:

- ①対象:劇場・音楽堂等に勤務するすべての職員  
募集定員:- (動画公開)
- ②対象:劇場・音楽堂等の職員で、これまで障がいのある方を対象とした取組みを実施したことがない方(主たる担当として実施をしたことがない方)、これから取り組もうとしている方(初心者)  
募集定員:20名程度 参加者:25名
- ③対象:劇場・音楽堂等の職員で障がいのある方を対象とした事業を実施した経験のある方  
募集定員:12名程度 参加者:12名  
参加費:無料

### 実施内容:

- ①全職員向け:研修ビデオの公開  
劇場・音楽堂等の勤務するすべての職員を対象に、必要な基礎知識についていつでも学べるようビデオを作成し、公開しました。  
I.「劇場・音楽堂等と共生社会」 II. 合理的配慮について
- ②障害のある方を対象とした事業について初心者を対象に、「事業」を実施するために、担当者として事業を組み立てる上で必要な知識の習得をめざしました。  
オンライン講習会(4回)、対面ワークショップ(1回)
- ③障害のある方を対象とした事業の経験者を対象に、それぞれの課題をもとに戦略的・効果的な事業を実施するための手法を学び、質の高い事業の実施を促すことを目的としました。  
オンライン講習会(4回)、対面ワークショップ(1回)

### 事例調査

開催日:2023年8月～2024年3月

### 実施内容:

他の施設でも参考になるとされる劇場・音楽堂等で実施されている障害者を対象とした取組を調査(ヒアリング)を行い、ウェブサイトにて公開しました。

調査事例:6事例

鑑賞:「バリアフリー能」 横浜能楽堂(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

「バリアフリー企画」パティオ池鯉鮒(一般財団法人ちりゅう芸術創造協会)

創造:「コミュニティ・アーツ・ワークショップ」富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)(公益財団法人富山市民文化事業団)

「みんなのディスコ」ほか 可児市文化創造センターala(公益財団法人可児市文化芸術振興財団)

総合:「いわきアリオスユニバーサルデザインの取組」

いわき芸術文化交流館アリオス

人材育成:「芸術×福祉 九州ネットワーク会議の取組」

芸術×福祉 九州ネットワーク会議(アクロス福岡ほか)



第1段階 研修動画「劇場・音楽堂等と共生社会」

## 本事業で得られた【成果】

### 劇場・音楽堂等の職員の人材育成一次のステップに進むために一

劇場・音楽堂等では、令和2年度の調査結果によると「障害者を対象とした事業を実施することに意義がある」という回答が90%を超えているが、実際に事業を実施している施設は13.5%にすぎません。その差を埋めるには、事業を実施するための知識を持った人材の育成が必要であり、本年度は対象者を3つの段階に分け、それぞれ必要とされる内容を検討し、講義とワークショップを実施しました。

まず、第1段階では、全ての劇場・音楽堂等の職員に対し、必ず知っておいて欲しい基礎的な事項と合理的配慮について、解説動画を作成し、公開しました。

第2段階では、障害者に対する基礎的な知識と事業を企画する上で考慮すべき点等を学ぶことを目的とし、第3段階では既に障害者を対象とした事業を実施している方を対象に、それぞれの課題を持ち寄り、課題の解決とより効果的な事業を実施することを目指しました。

その結果、第2段階では、研修会前・後比較のアンケート結果から、障害者に対する理解が進んだという結果が得られました。また自由記述では「お金をかけた改修や機械を導入するだけでなく、ちょっとした変更、プラスアルファをするだけでも、できることが増えると感じました」「まずは自分の施設でできることに1つずつチャレンジしていきたい」といった記述が複数あり、事業を実施するにあたり抱いていた不安に対し、「小さな取組から」「できることから」実施すればよい、という安心感を持っていただき、今後の活

動の手がかりとしての役割を果たすことができたと考えています。

第3段階では、それぞれの課題についてアンケート結果からみると、「ある程度解決された」という意見が多いものの「今後、学んだことを実際に職場でやってみることで、課題の解決につながると思う」という意見のように、今後、学んだことを元に現場で実践を積んでいくことで課題が解決していくと思われま。また、「同じシーンで同様に悩みつつも前向きに進まれている皆様の出会いは大変心強く嬉しく思いました」「“戦友”を得られたことは大変有意義」といった意見も複数見られました。この研修により参加者同士のネットワークが形成されており、今後このネットワークが様々な場で活用されていくことに期待をしたいと思います。



第2段階 ワークショップ



第2段階 ワークショップ



第3段階 ワークショップ



第3段階 ワークショップ

### 障害者を対象とした事業を実施・継続するために必要なこと

劇場・音楽堂等で実施されている障害者を対象とした事業について調査を行い、事例集としてウェブサイトに公開しました。これらの事例が他の施設の参考となり、今後推進されていくことを期待しています。

調査の結果、障害者に対する事業が継続的に実施されている施設の特徴として、以下のような共通点がみられました。

- ①施設内で障害者に対する事業の位置づけがなされている。
- ②施設職員も、担当者だけでなく他の職員にも意義

等の共通認識が得られている。

③所内で障害者の理解、対応等について職員研修が実施されている。

④設置自治体から当事業に対し、一定の理解・評価が得られている。

課題としては、他の施設、地域に広げていくための方策がない、といったことがあげられます。

これらの共通事項は、まだ障害者を対象とした取組がなされていない施設や継続困難な施設に対する支援を検討するための指標になると思います。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

当事業は全国の劇場・音楽堂等の職員を対象としているため、それぞれの施設、担当者の状況によって違っていることを踏まえ、大きく3つの段階に分け、それぞれ必要な知識の習得をめざしました。オンラインを中心に実施したことで、受講生には経済的、時間的に負担が少なく、かつシリーズとして深い研修が実施できました。また、講義だけでなく、初心者向け研修、経験者向け研修はそれぞれ最終日にワークショップを行い、自ら考える場とするとともに、参加者のネットワークづくりの場となりました。

当法人では、「リラックスパフォーマンス」による公演を実践しています。リラックスパフォーマンス(原語: Relaxed Performance)とは、自閉症やコミュニケーション障害、学習障害などにより通常の劇場環境になじむことが難しい人たちやその家族が、よりリラックスした環境で舞台鑑賞を楽しめるようにと英国で発祥した公演形態です。“障害の有無にかかわらず皆で一緒に楽しむ”ことを趣旨としており、障害のある方やその家族に芸術鑑賞機会を提供するとともに、人々の多様性を認め合う社会の実現にも寄与します。

## 本事業で実施した【内容】

## リラックスパフォーマンス

**開催日:** 神奈川公演:2024年2月3日  
埼玉公演:2024年2月12日  
**会場名:** 神奈川公演:神奈川県民ホール 大ホール(横浜市)  
埼玉公演:埼玉会館 大ホール(さいたま市)  
**対象:** 3歳以上  
**参加費:** 一般4,000円/  
子ども2,000円(※子どもは3歳~高校生)  
**来場者数:** 神奈川:1,176名 埼玉:1,102名  
**実施内容:**

神奈川公演は「白鳥の湖」&「迷子の青虫さん」、埼玉公演は「白鳥の湖」&「くるみ割り人形」をリラックスパフォーマンスの形態で上演しました。  
普通のバレエ公演より少しだけリラックスした雰囲気の中、自閉症やADHDの症状などによりちょっとした支えを必要とする方々や、バレエ鑑賞が初めての方も、構えずにリラックスして鑑賞を楽しんでいただきました。

## 特別支援学校に向けたワークショップ

**開催日:** 2024年1月31日  
**会場名:** 神奈川県立保土ヶ谷支援学校(横浜市)  
**対象:** 保土ヶ谷支援学校高等部生徒  
**参加人数:** 約50名 参加費:無料  
**実施内容:**  
神奈川県民ホールとの協働により、特別支援学校に向けたワークショップを開催しました。  
ピアノの伴奏とともに身体を動かしてバレエに触れることで、表現することの楽しさを体験していただきました。



「白鳥の湖」より  
©Hasegawa Photo Pro.



「くるみ割り人形」より  
©Hasegawa Photo Pro.



「迷子の青虫さん」より  
©Hasegawa Photo Pro.



開演前に物語とマイム(手の動き)の解説  
©Hasegawa Photo Pro.

## 本事業で得られた【成果】

## 障害のある人たちに本格的なバレエの鑑賞機会を提供

リラックスパフォーマンス公演への来場者数は、神奈川が1,176名、埼玉が1,102名。多くの方に本格的なバレエ公演の鑑賞機会を提供しました。来場者のうち、「ご自身またはお連れ様の中に何らかの障害

を抱えている方」の割合は本事業で実施した2公演平均12%。知的障害、自閉症、身体障害の順に多く、普段バレエ鑑賞にハードルを感じている方々に参加いただくことができました(公演アンケートより)。

## リラックスパフォーマンスという公演形態の認知度向上

今年度は、リラックスパフォーマンスの認知度向上を目標として掲げ、PVの制作をはじめ積極的なPR

活動を行い、多くのメディアにおいてご紹介いただきました。

## ●メディア掲載実績【計153件】

おたくま経済新聞、リビング東京Web、リビング田園都市Web、リビング埼玉Web、リビング横浜Web、PR EDGE、PHILE WEB、読売新聞オンライン、TRACY、フジテレビユー!!、iza、マピオンニュース、BIGLOBEニュース、産経ニュース、STRAIGHT PRESS、シネマカフェ、フレッシュアイニュース、さんいちEye 山梨日日新聞電子版、現代ビジネス、NewsPicks、タウンニュース、eltha、エキサイトニュース、ハピママ\*、とれまがニュース、SEOTOOLS、ウレぴあ総研、BARKS、30min.、財経新聞、@niftyビジネス、東洋経済オンライン、時事ドットコム、BEST TIMES、PRESIDENT Online、JBpress、WalkerPlus、BtoBプラットフォーム 業界チャンネル、朝日新聞デジタルマガジン&、CREA WEB、@DIME、ジオルダンニュース!、八王子経済新聞、下北沢経済新聞、東京ベイ経済新聞、六本木経済新聞、調布経済新聞、品川経済新聞、自由が丘経済新聞、銀座経済新聞、吉祥寺経済新聞、立川経済新聞、NIKKEI COMPASS、市ヶ谷経済新聞、赤坂経済新聞、新宿経済新聞、シブヤ経済新聞、ORICON NEWS、暮らしニスタ、ニコニコニュース、池袋経済新聞、浦和経済新聞、大宮経済新聞、中野経済新聞、日本橋経済新聞、高円寺経済新聞、練馬経済新聞、アキバ経済新聞、findgood、オペラハーツ、PriPri、PriPriパレット、PRタイムストーリー 等

インクルージョンを促進する取り組みとして劇場関係者からの関心も高く、外部からの公演依頼の増加につながりました。

## POINT

## 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

## ①リラックスパフォーマンスとしての工夫

自閉症や学習障害をもつ人々にとって、舞台公演鑑賞には困難を伴います。急な暗転や声を出してはいけなプレッシャーなど、不安を煽るものをできるだけ除外するため、下記を実施しています。

- 事前の情報提供…当日のタイムスケジュールや劇場の様子、質問等をまとめた特設サイトを制作。公演の約3週間前には、公演プログラムとご家族・介助者のためのガイドを公開しています。
- 照明の調整…上演中も完全な暗転は避け、視覚への刺激を少なくしています。
- 上演中の客席の出入りを可能に…開演後も自由な出入りを可能とし、無理なく個々人のペースで鑑賞を楽しめる環境を作っています。
- 優先席、休憩エリアの設置…客席後方には「優先席」を設定し、希望される方にお使いいただけます。ロビーには「休憩エリア」や、舞台の様子がみられるモニターを設置しています。
- 上演前にステージ上で解説…開演前に行うプレトークにて、リラックスパフォーマンス形態(上演中の出入り、照明についてなど)の説明を行います。
- 車椅子席の設置

## ②演目の選定

バレエを初めて鑑賞する観客、特に次代を担う子どもを多く惹きつけるために、バレエといえばだれもが思い浮かべる「白鳥の湖」「くるみ割り人形」と小さな生き物たちの小さな世界を描いた新感覚のバレエ「迷子の青虫さん」を選択しました。作品はそれぞれ約45分程度、バレエを初めて観る方も飽きずに楽しめるような長さになっています。「白鳥の湖」「くるみ割り人形」は短縮版でありながら、ストーリーの流れを損なうことなくオリジナルの魅力が凝縮されるよう演出に工夫をしています。

## ③料金設定

障害のある子ども・家族のいる家庭にとっては、最後まで観ることができるかわからない公演のチケット購入は、無駄になるかもしれない出費であり、額が大きければ大きいほどリスクとなるものです。そのような心理的ハードルをできるだけ下げ、障害のある人と一緒でも「行ってみよう」と思えるような適正な価格を検討しました。

本事業は、障害のある人をはじめとする、ミュージアムに行きづらいと感じる人が、ハードルを感じることなくミュージアムを訪問でき、かつ豊かな鑑賞体験を保障するための人材育成とその基盤整備に5年計画で取り組むものです。これまで障害のある人とミュージアムとの試験的な実践を積み上げ、環境形成に必要な人材や役割の検証をしてきました。3年目となる今年度(2023年度)は、人材育成の運用を開始し、全国展開に向けた仕組み化とネットワーク構築に着手しています。

## 本事業で実施した【内容】

### ミュージアムとよりよい環境をつくる 障害当事者コーディネーター

ミュージアムに伴走し、適切な配慮と環境を提案するミュージアム・アクセス・コーディネーター（以下、コーディネーター）の実践や研修を計7件行いました。ミュージアムの希望や課題を抽出し、その解決方法等を障害のある人ならではの視点から提案しています。

#### 実践例:

**実施日:** 2023年10月1日(日) **場所:** さいたま市立漫画会館(埼玉県さいたま市) **対象:** 聴覚障害者、中途失聴者、難聴者、手話通訳士等 **協力者:** さいたま市立漫画会館学芸員1名、障害当事者コーディネーター2名(聴覚障害/中途失聴・難聴)、手話通訳者2名 **内容:** 実際を実施されているギャラリートークを体験しながら、手話と文字による情報保障を用いた鑑賞の環境づくりや工夫について考えていきました。



手話と文字による情報保障付きのギャラリートーク



研修参加者と協力者たちによる意見交換の場

### パートナーの役割検証と人材育成を目的とした 障害のある人との実践

ミュージアムに行きたい障害のある人やその支援者に伴走し、ミュージアム体験をともにつくるミュージアム・アクセス・パートナー（以下、パートナー）の実践や研修を計8件行いました。事前に障害のある人に、鑑賞方法の希望や必要な配慮をヒアリングし、事務局とパートナーが下見や情報提供などの準備を経て当日まで伴走することで、ミュージアムの利活用に難しさを感じていた人たちも、鑑賞を楽しめることが見えてきました。

#### 実践例:

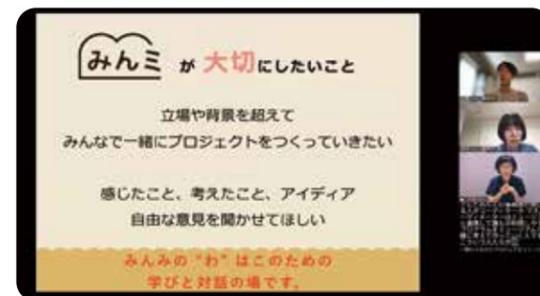
**実施日:** 2023年10月1日(日) **場所:** かわさき宙(そら)と緑の科学館(神奈川県川崎市) **対象:** パートナー2名 **協力者:** 医療的ケア(重度心身障害)児の親子2組

### 情報交流と学びの場「みんなのわ」

「みんなのわ」は活動2年目(2022年度)より継続して計11回開催しています。

約2時間のプログラムの中では、事例共有や情報交流のほか、障害のある人やその支援者・学芸員など多様な参加者がそれぞれの立場を超えて語り、経験を共有しあう時間を通して、学びや考えを深めあう場を目指しています。今年度(2023年度)開催した全5回には、全国27都道府県から合計285名の参加がありました。

**対象:** ミュージアム・アクセスに関心のある全国の人  
※手話通訳・文字通訳あり ※オンライン開催



情報交流と学びの場「みんなのわ」プログラムの様子

## 本事業で得られた【成果】

### ミュージアムや障害のある人が一歩を踏み出すきっかけを生む市民活動

「みんなでミュージアム」は、1年目(2021年度)の調査、2年目(2022年度)の試験的実践を経て、今年度(2023年度)からは人材育成の運用を開始しました。誰もが訪れやすいミュージアムの環境形成を進めるコーディネーターとパートナーには、障害の有無に関わらず、全国7都道府県から関心を寄せる人々45名の登録があり、障害のある人(視覚障害、聴覚障害、重症心身障害、発達障害、精神障害など)、市民、ミュージアムとともに現場での実践を重ねてきました。パートナーとの鑑賞をきっかけに、ほかのミュージアムへ出かけるようになった障害のある人と家族や、コーディネーターとの実践を経て、アクセス・プログラムをはじめた地方



医療的ケア児の親子2組と「パートナー」実践/写真:ナガセ ユウヤ

のミュージアムなど、自主的な活動を後押しすることにつながりました。また、ミュージアムに行きたい障害のある人や、障害のある人とのプログラムに着手したいミュージアムからの相談を受けることが増え、人材育成の仕組み化の必要性や、パートナーやコーディネーターとして活動する人材に向けた学習機会の重要性を実感しています。次年度(2024年度)は、人材育成モデルの活動フローやマニュアル等を作成し、具体的な利活用に向け、必要な情報の公開・提供にも着手します。同じ目的を持つ他団体との連携を図ることで人材が充実し、全国における障害のある人のミュージアム利用がさらに促進されることを目指します。



医療的ケア児の親子2組と「パートナー」実践/写真:ナガセ ユウヤ

### ミュージアムと市民の情報交換が現場のヒントに

国内の多くのミュージアムでは人手や予算に制約があることだけでなく、教育普及やアクセシビリティに関する理解をミュージアム内の関係者に波及することの難しさから、取り組みを推進することにハードルがあります。今年度(2023年度)は、相談窓口から寄せられた相談を含め、国立ミュージアム、大都市圏ミュージアム、地方の中小ミュージアム、企業ミュージアムとの検証や積極的な意見交換を行うことができました。各ミュージアムや市民(障害のある人、支援者、NPO、ボランティア等)の実践値はあまり共有されておらず、ミュージアムや市民とノウハウを共

有する横のつながりや、情報のネットワークを活性化する重要性も見えてきています。2年目(2022年度)から継続して開催している「みんなのわ」では、多様な参加者の学びと交流の場を醸成していますが、次年度(2024年度)以降は、中間支援組織としてミュージアム同士の連携や、市民間の交流機会を支援する活動を広げていきます。大小問わず全国的な取り組みを取り上げることで、国内のネットワークをつくる情報発信が可能になると考えています。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

これまでの本事業の実践で築いた、障害のある人やミュージアムとのつながりを活かし、アクセシビリティを高めるためのウェブサイトの構築と、課題解決に沿って事業が実施できているかを判断する評価アンケートの作成に取り組むことができました。その結果、中間支援組織や障害のある人、ミュージアムなど各立場からの視点や意見を取り入れ、具体的に事業に反映することができたと考えます。また、視覚障害、聴覚障害、重症心身障害、発達障害、精神障害を含む障害のある人が主体となって参画し、ミュージアム・アクセスの環境形成に取り組む独自の事業を、引き続き実施していきます。

団体名 公益社団法人日本劇団協議会 所在地 東京都新宿区  
 団体URL: <http://www.gekidankyo.or.jp/> 事業URL: [http://www.gekidankyo.or.jp/news/news\\_071.html](http://www.gekidankyo.or.jp/news/news_071.html)

事業概要 さまざまな社会課題を持つ人々を対象に、演劇によるコミュニケーションワークショップを通して他者とのつながりを持ち、生きづらさを感じる事のない「共生社会の実現」を目指すのが当プロジェクトです。地域の劇場やNPO・福祉施設・教育機関などと連携し、多様な「社会包摂型プログラム」を展開しています。高齢者、青少年、在日外国人、支援学校の生徒などを対象に秋田から沖縄まで11ワークショップにて、計92回実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### フリースペース・フリースクール児童・青少年へのコミュニケーションワークショップ

開催日: 2023年9月13日～2023年12月6日(全12回)  
 会場名: 名古屋市緑児童館、私塾フリースクールまなび場  
 (愛知県名古屋市)

対象: 不登校にある児童・青年  
 参加人数: 7～12名/回 参加費: 無料

#### 実施内容:

愛知県名古屋市にある「緑児童館」と「フリースクールまなび場」にて、孤立感を抱える不登校にある子どもたちを対象にコミュニケーションワークショップを実施しました。

子どもたちに居場所を提供しているものの、子ども同士の交流が少なく、つながりが生まれていないことが課題にありました。シアターゲーム等のワークプログラムにおいて、自分と他者との意思の違いを発見、普段とは違う人間関係や一つの課題を共有することなどを体感し、集団生活に不安や苦手意識を抱く子どもたちが、人とつながるプログラムによって社会生活への自信を獲得することを目標としました。



埼玉: 若者自立支援ルーム「演劇プログラム」

### さいたま市若者自立支援ルーム 演劇プログラム

開催日: 2023年6月21日～2024年1月13日(18回)  
 会場名: さいたま市若者自立支援ルーム桜木・南浦和  
 (埼玉県さいたま市)

対象: 生きづらさを抱えた施設利用の青少年  
 参加人数: 11名/回 参加費: 無料

#### 実施内容:

貧困や疾病・障がい、虐待等様々な理由で生きづらさを抱える若者たちの中には学校や職場・家庭に居場所を作れずにいる人も少なくありません。居場所を求める施設利用の青少年を対象に、定例的に仲間と共に創造し表現することで演劇の楽しさを発見する演劇プログラムを実施しました。

参加者が執筆する短編戯曲を参加者同士で演じ批評し合うことで、他者理解を深め自己表現を向上することを目的としました。

## 本事業で得られた【成果】

### 人とつながる 社会へつなげる

さいたま市若者自立支援ルーム演劇プログラムでは、継続して居場所を提供することで共感できる仲間、信頼できる大人の獲得により不安定な若者が社会につながる変化を生み出しました。

引きこもりがちな青年が定期的に開催する演劇プログラムで講師たちや仲間たちと触れ合い、外出する機会が増えました。「これまで人と会うことが怖かったが、本当は誰かと繋がりたい」「今はいろんな年齢の人と出会ってみたいし、話をしたくてしょうがない」と打ち明け、勇気を出して数年ぶりに電車に乗り、1時間以上かけて講師が所属する劇団に会いにきてくれました。

変化成長する自分を認め自信を取り戻し、社会復帰の一步へ踏み出せたこの青年の変化はこのプロ

グラムの大きな成果でもあります。

そして同様に、参加者の保護者も社会的な偏見や誤解によって交流が難しくなり、孤立感を抱えている状況が顕在化しました。同じような状況に直面しているほかの保護者とのつながりをつくり、一人で抱えていた悩みを共有することでストレスの軽減や適切な支援を受けることができると考え、今年度は保護者を対象にしたワークショップも実施しました。

保護者のストレスが和らぐと家庭の雰囲気が明るくなり、子どもたちも精神的に楽になっていきます。アンケートでは交流の過程が生まれることを評価する声もあがり、孤立しがちな保護者のたまり場として継続していく必要性を感じています。

### 体感することで対象理解へつなげる演劇の有効性

障害者と健常者の関わりを持つ場所・機会は限られており、特に施設内は閉鎖的です。また、一口に「福祉」としてもその対象者は当事者・家族・地域含め、様々な立場にあり、抱えている悩みも異なります。それらを理解し合える場を提供し、話し合うことで、防災対策の三要素の一つ「共助」のあり方を考えるきっかけになると考え、「シミュレーション演劇」を体験し避難所での助け合いのあり方を考えるワークショップを実施しまし

た。名城大学・松下聖子教授に協力いただきアンケート調査を実施。ワークショップ後の防災意識尺度のスコアは全国平均より高く、他者指向性(社会や人のために何かしようとする心)は行政職を対象にした結果より上回っていたことがわかりました。災害時の共助を育むためには、災害状況をイメージしやすく危機感を感じる事が重要であり、演劇を取り入れた当ワークショップの有効性が示唆されたといえます。



秋田: 特別支援学校  
 「シアターエデュケーション」



沖縄: 若狭公民館  
 「共助のあり方について考える演劇ワークショップ」



兵庫: 小野市うるおい交流館エクラ  
 「にほんごであそぼう!」



愛媛: 特別支援学校  
 「就労支援ワークショップ」

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

本プロジェクトはさまざまな方を対象にワークショップを行うため、対象に応じたバリアフリーの取り組みを実施しました。

外国人を対象とする場合は、ひとりひとりの生活環境、日本語習熟度を協働団体間で共有、使用する単語は言葉の壁がないようにあらかじめ各国の言葉に翻訳し、視覚的に理解しやすいピクトグラムを活用。言語・文化・宗教の違いによって本事業の趣旨が誤解されないよう専門家のアドバイスを受けてプログラムを設計し、必要に応じて協働団体から各国の通訳を配置しました。身体・知的障害を持つ方々には、車椅子や医療機器で注意する点を専門家から事前に学ぶ機会をつくり、プログラム内容の理解度等は設計段階から施設職員と連携協力し、障害の特性に合わせ参加に無理のないよう配慮しました。テキストを使用する場合は、難読症、弱視の方には音声対応し、聴覚障害・難聴のある方には読唇できるよう講師が透明マスクを着用、また、施設内への立入りの場合は当法人で定めている「新型コロナウイルス感染防止のためのガイドライン」に沿って障害・健常者すべての方々が安心安全に参加できるよう努めました。

# 「社会と知的障がい者施設を演劇でつなぎ地域のプラットフォームをつくる事業」

一般社団法人日本演出者協会 所在地 東京都新宿区  
団体URL: <https://www.jda.jp/>

「演劇で人と人、地域、社会と人をつなげる」ことを目標とした事業です。4年目のテーマワードは「とびだす」でした。2020年から活動を継続している東京多摩学園とは、奥多摩以外の地域からの一般参加者やサポーター希望の新しいメンバーとの作品創りに挑みました。また新たな施設での事業として、静岡県三島市「にじのかけ橋」とのワークショップが始まり、さらに聴覚障害部門を併設する立川学園という教育分野とつながり、次の展開のための活動を行いました。そして、ネットワークと知見を広げることを目的としたシンポジウムを2回実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 奥多摩ワークショップ

開催日: 2023年8月3日(木)～6日(日)  
会場名: 奥多摩町福祉会館ホール  
参加人数: 東京多摩学園15名、一般参加者8名、サポーター3名、施設職員6名 計32名

#### 実施内容:

『夏の奥多摩～あなたへのラブレター～』と題し、障害者と健常者による演劇創作を3グループに分けて行い、最終の4日目には見学者を招いて成果発表を実施しました。台本は準備せず、参加者の特性を探りながら、お互いに知り合うためのコミュニケーションワークショップから始め、各グループごとに交わした言葉を元にして、小さな物語を創作し発表しました。



奥多摩ワークショップ

### 三島市「にじのかけ橋」演劇ワークショップ

開催日: 全6回 2023年6月～8月  
会場名: 静岡県長泉町南部地区センター A会議室  
対象: グループホームの利用者19名、職員3名

#### 実施内容:

コミュニケーションエクササイズを行いながら、オリジナルダンスや歌を作り、みんなで話し合って決めた「レストランを日本一にする」ためにやってくるお客さんとお店の人の役割を確認し、登場順番を決めました。「美味しかった」「また来るよ」を決めたセリフにして、あとは自由に即興で劇を創り、発表をしました。



三島市「にじのかけ橋」ワークショップ

### 立川学園手話パフォーマンス

開催日: 2023年5月15日～10月23日 計12回開催  
会場名: 東京都立立川学園聴覚障害教育部門美術室、大体育館、小体育館  
対象: 東京都立立川学園聴覚障害教育部門高校生1年生 10名、2年生 4名

#### 実施内容:

身体表現のワークショップを行い、生徒たちと共に手話をベースにした身体表現作品を創作。与えられたテキストや動きを行うのではなく、参加者自らが感じたことや考えたことから手話をベースとした身体表現を生徒達自身で作りました。



立川学園の皆さん

### オンラインシンポジウム

開催日: ①7月29日(土) 10:00～12:30  
「障害のある人たちとつくる演劇の可能性」Part4  
パネリスト: 川口淳一(作業療法士)・新井英夫(体奏家)  
ゲストパネリスト: 黒田百合  
②12月9日(土) 10:00～12:00 オンライン報告会  
「障害のある人たちとつくる演劇の可能性」Part5  
パネリスト: 黒田百合・河田園子・黒木裕太  
ゲストパネリスト: 佐藤拓道(たんぼぼの家)  
参加人数: ①演出者協会会員・施設関係者・作業療法士・演劇人など65名が参加  
②演出者協会会員・施設関係者・作業療法士・演劇人など45名が参加

#### 実施内容:

①作業療法士川口淳一さん、体奏家新井英夫さんの活動内容を映像交えて紹介頂きました。  
②まず今年度に行ったワークショップの成果を実行委員3名が報告し、参加者、施設職員、学校の先生に感想を聞き、その後に質疑応答を実施しました。

## 本事業で得られた【成果】

### 4年目を迎えた奥多摩での演劇ワークショップは、地域のプラットフォームになった

初年度の令和2年、コロナ禍の中で試行錯誤してきたことで、多くのノウハウの発見と成果が生まれたと考えています。現在、過去に参加した参加者の一人が東京多摩学園の職員として働き始め、定期的にワークショップを行っています。また、奥多摩住人(子どもから大人まで)が施設で行っている表現・ダンスワークショップに加わり、地域での共生社会が実現に

至ると共に、今年度は彼らをサポートし、学びたい人たちへの扉を開きました。2023年12月には、鯨エマさんが主体となり、東京多摩学園と一般参加者によるクリスマス公演『ランプのある家』が奥多摩の古民家で上演されるなど、地域に根付いた関係がよいよ構築されてきました。

### グループホームの利用者さんとの演劇創作

今回は二か所のグループホームから約10名ずつの利用者さんと6回の演劇ワークショップを行いました。軽度の利用者さんが多く、チームビルドは早いうちに出来上がりました。自分たちのやって居る事にプライドを持ち、自分の事を知ってほしいというアピールが会話の端々から伝わったので、なるべく本人たちの日常の姿に近い形で行える演劇作品の創

作を試みました。本番は60名近い事業所の同僚が観劇し、笑いのたえない30分間となりました。参加者は職員さん含めて、自分たちのことを見てもらいたい、どんなことを考えているか知ってほしいという思いが溢れ、もっともっと表現したいという演劇に向かうエネルギーがいつそう強くなりました。

### 表現活動を通じたエンパワメント

東京都立立川学園でのワークショップでは、参加者自身の好きなものや気になった絵などを題材に、好きな理由や関連したエピソードを深く掘り下げ、参加者自身が詩を作り、身体で表現しました。最終日に、担当教員より「自己表現の幅が広がった」、「生徒の自己肯定感が高まった」という感想があり、本活動が自己肯定感の向上につながったようです。また、本活動ではワークショップの最後に映像発表や文化祭

での発表を行いました。自主的に参加者同士での意見の交換や、見せ合い、お互いの練習のサポートも行っていました。この様子から「他者理解、他者とのように協働していくかなど協調性が多く見られるようになった」というコメントが教員からあり、発表に向けたプロセスを通して、他者理解に対して手ごたえを感じました。

### 広がる演劇の可能性

part4のアンケートからは、インクルーシブ・ワークショップの先駆者たちの取り組みを知る良い機会が非常に有意義でした。「体奏家」「作業療法士」という立場から述べられていた「在るBeing」の視点に深い感銘を受け、ワークショップ活動への勇気をもらいました。part5のアンケートからは、日本演出者協

会の多様な取り組みを知ることが出来ました。進行する上での苦難や困難なども率直に共有していただき、自身の活動への参考になり、直接質問や相談が出来て、テキスト重視ではなく、即興性を大切にしていることに強く共感したなどの声がありました。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

日本演出者協会の社会包摂部員には、障害のある人との作品の創作を行ってきた演出家が多く存在します。本プロジェクトにおいても、実行委員の演出家が見学し、各拠点のファシリテーターにアドバイスをを行ったことで、経験の共有が進み、円滑なワークショップ運営に繋がっていきました。奥多摩ワークショップでは、台本を用意せずに参加者の表現したい言葉・物語を取り入れることで、多様で個性的な小作品ができてきました。そして協会が介入しなくてもその後、地域と障害者施設が繋がり、作品創りが始まるなど大きな成果がありました。シンポジウムでは、知見を広げる意味で、現場を知るファシリテーターから話を聞き、なおかつ映像で紹介することで、より分かりやすく全国に発信し、奥多摩をサポートしたいという人たちの学びの場を提供出来ました。令和5年度も、現場のバリアフリー対応として、手話通訳を入れました。今後の日本では手話通訳以外の情報保障も必要になると思いますが、私たち社会包摂部では、手話の勉強会を毎月行い、継続することで「共有」を進めたいと考えています。

本事業は演奏体験および創作体験を通じた「プロの音楽家を介在したインクルーシブ体験の場」の創造と、それを用いた地域ネットワークの構築を継続する事を趣旨とし、東京都内の特別支援学級や、共生教育を推進している地方の特別支援学校および小中高等学校において活動することを目的とします。また、児童生徒の自己意識の変化を促進するプログラムを提供するとともに、参加する奏者およびスタッフが、継続的な経験積み上げと実施効果の検証、スキル向上のための研究活動の促進を目指します。

## 本事業で実施した【内容】

### 弦楽四重奏のワークショップ

開催日: 2023年7月12日

会場名: 静岡県賀茂郡東伊豆町立  
稲取小学校 特別室

対象: 各学校の特別支援学級の児童、生徒  
(稲取小学校5年1名・6年1名、稲取中学校1年1名、熱川小学校2年2名・5年2名、熱川中学校1年1名、その他先生など)

参加人数: 16名(児童生徒8名、先生8名) 参加費: 無料

#### 実施内容:

「演奏を聴く」、「児童生徒が実際に楽器体験する」という2本立てで組み立てました。演奏を聴いてもらった後に、実際に体験用楽器を使って楽器の仕組みや音をどうやって鳴らすのかなど、順番に児童生徒に体験してもらい理解を深めてもらいました。自分が体験することによって、漠然と聴こえている音楽にたいして「ここがすごい」と具体的なイメージを持ってもらえたことが良かったです。普段はあまり積極的でない子ども、今回の体験では迷わずに手を挙げて参加しており、非常に前向きな様子が手に取れました。



楽器体験

### オーボエ四重奏のワークショップ

開催日: 2023年12月14日、15日、19日、20日

会場名: 東京都墨田区立業平小学校 さくら学級教室

対象: 特別支援学級(さくら学級)の児童  
1~6年生19名

参加人数: 25名(児童生徒19名、先生6名) 参加費: 無料

#### 実施内容:

業平小学校では昨年度までに打楽器の演奏や指揮者体験など様々なワークショップに取り組んできました。今回は管楽器にスポットを当て、前半2日間はオーボエ、後半2日間はクラリネットの奏者に来てもらい、リードの仕組みや弦楽器とは全く異なる音の出る仕組みについて一緒に学びを深めました。特にオーボエではストローリードの体験が大いに盛り上がり、どうやったら音が良く鳴るのか、長さによって音の高さが変わるのか、など、児童の方から質問や気づきが出てきて非常に有意義な時間となりました。



実際にリードを作る様子(電子黒板に手元を拡大して投影)

## 本事業で得られた【成果】

### 違いが分かるから面白い

### —楽器体験・音色や奏法の違いを知って、主体的な音楽鑑賞の体験をする

一般的な音楽鑑賞教室やワークショップでは、児童生徒が演奏を聴くだけの受動的な関わり方になりがちですが、本事業では楽器を演奏できなくても「知っているから楽しい」「違いが分かるから面白い」と感じられる取組を実施しました。曲のイメージを持って聴いてみることや、振動から伝わる音の様子など、様々な視点から曲を解釈して楽しむことをお届けできるように努めました。

また、ヴァイオリンやチェロ、ハープや打楽器の楽器体験を通じて、児童の多様な反応を得られ、積極的な参加姿勢が見られました。また楽器を児童が演奏する様子と同じ学校の児童が見ることで、得意な人が教えたり、コミュニケーションを自然に取ることができるようになりました。楽器体験も同時にはできないため、順番待ちをする必要がありますが、それでも他者の尊重・自分以外の人が取り組んでいるときに興味をもってそれを観察することが出来る児童

が多かったように思います。連続して実施している学校には、本事業を覚えている子供もいたため、「こうやってやるんだよ」と児童生徒同士で教え合っている様子を見ることも出来、先生からも驚きの声が上がっていました。



クラリネット・ストローリード体験



オーボエ・ストローリード体験



クラリネット五重奏

### 地域社会のネットワーク創出の機会

静岡県の伊豆地方での実施に当たり、NPO法人豆游義塾が教育委員会と楽団との間に入って、学校間の実施に関わる調整に大いに協力頂きました。取り組みにもあるように、複数の学校の児童生徒が集まってワークショップを実施するには多数の障壁がありますが、複数年の実施が叶っていることにより、本

事業への評価が地域の中に広がっているように思います。それによって先生方の協力を得ることが出来るため、より多くの児童生徒に本事業に参加頂くことが出来ました。この事業がきっかけで先生同士の新たなつながりが生まれたり、児童生徒だけでなく学校同士のネットワークの強化にもつながりました。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

音楽づくりなどの生徒と同じ立場になってゼロから音楽を生み出すワークショップなども存在していますが、新日本フィルが取り組む内容としては、やはりプロの音楽家の演奏を聴いてもらう事に重きを置いています。また、静岡県へワークショップに行く際は、学校同士の連絡は地域のNPO法人豆游義塾の委員の方へ内容を説明し意義を理解してもらい、先回りして学校の手配をしてもらうようにしています。学校は時間割の調整などで実施が難しい場面も多いのですが、多くの方へワークショップの意義を理解してもらう事が非常に大事なのではないかと感じており、積極的に新聞社や観覧できる先生、保護者の方を招待し、事業の内容について知る機会を増やそうと努めています。

# 「劇場をつくるラボ」 福祉施設に鑑賞体験や創作体験を届ける試み

一般社団法人 DRIFTERS INTERNATIONAL 所在地 東京都目黒区  
団体URL: <http://drifters-intl.org/> 事業URL: <https://theatreforall.net/geki-tsuku-lab/>

「劇場をつくるラボ」は、福祉施設での鑑賞体験を生み出す研究・開発プロジェクトとして2021年に始動。1年目は福祉施設内での鑑賞環境の設計、2年目は、障害者と支援者にとっての鑑賞機会の提供にとどまらず、知的障害のある鑑賞者のための作品創作にも取り組みました。3年目となる本事業は、障害特性や障害の度合いが異なる人たちが一緒に参加できる鑑賞・表現プログラムとして「音で遊べるワークショップ型上映会」を開発。全3回（一部合同により7つの福祉施設と連携）開催しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 「音で遊べるワークショップ型上映会」開発・実践

**開催日:** 2023年10月11日～12日  
「音で遊べるワークショップ型上映会」開発  
2023年10月18日  
「音で遊べるワークショップ型上映会」基本型の実践  
**会場名:** 社会福祉法人 育護会 浅間学園  
(長野県北佐久郡軽井沢町)  
**参加人数:** 31名(施設利用者25名、施設職員6名)  
**施設利用者年齢層:** 20～80代  
**施設利用者の障害:** 知的・発達障害(自閉症など)、身体障害(車椅子利用者、視覚・聴覚障害者など)、精神障害(統合失調症など)

#### 実施内容:

たんぽぽの家アートセンター HANA副施設長の佐藤拓道氏とともに、浅間学園にて障害の有無・特性・度合いが異なる人たちがともに鑑賞・表現ができる「音で遊べるワークショップ型上映会」を開発を行い、最終日に基本型の上映会を実施しました。

### 「音で遊べるワークショップ型上映会」実施

**開催日:** 2023年11月9日  
**会場名:** 地域活動支援センター 木もれ陽の里  
(長野県北佐久郡軽井沢町)  
**対象:** 社会福祉法人育護会(浅間学園)、社会福祉法人愛泉会(軽井沢治育園)、軽井沢地域活動支援センターの利用者・スタッフ  
**参加人数:** 44名(うち、施設利用者40名、施設職員4名)  
**施設利用者年齢層:** 20～60代  
**施設利用者の障害:** 知的・発達障害(自閉症など)、身体障害(車椅子利用者、視覚・聴覚障害者など)

#### 実施内容:

近隣の福祉施設3施設と合同で「音で遊べるワークショップ型上映会」を実施しました。ファシリテーターとして、同じく近隣福祉施設NPO法人リベルテの職員2名も加わって実施しました。

### 「音で遊べるワークショップ型上映会」実施

**開催日:** 2024年1月30日 ※施設内でのコロナウイルス感染拡大により中止  
**会場名:** 知的障害者通所更生施設「川口太陽の家」  
(埼玉県川口市)  
**参加人数:** 26名(うち、施設利用者20名、施設職員6名) 予定  
**施設利用者年齢層:** 20～80代  
**施設利用者の障害:** 知的・発達障害(自閉症など)、身体障害(車椅子利用者、視覚・聴覚障害者など)

#### 実施内容:

表現活動は活発であるが鑑賞活動はあまりしない施設として同施設で開催を計画しましたが、コロナの感染拡大によって中止となりました。しかし、ワークショップ実施予定日の2週間ほど前から普段の活動のなかで映像の鑑賞や楽器に触れてもらい、時間をかけて準備することで施設の職員にとっても気づきを得られる機会となりました。



木もれ陽の里（軽井沢）での上映会の様子

## 本事業で得られた【成果】

### 参加する障害者・支援者等が共に楽しめる／過ごしやすい場の創出

本事業で開発した「音で遊べるワークショップ型上映会」は、障害の有無・障害特性・障害の度合い・年齢等が異なる人たちが共に楽しめるプログラムとして、施設利用者も施設職員も共に楽しめるプログラムとなりました。言葉でのコミュニケーションが難しい人から、言葉を介さないコミュニケーションや自己表現を引き出すことができ、施設利用者と支援者との関係性にも新しい発見が生まれました。日々の生活の中に創造性を発見することで、支援に新しい視点をもたらし、お互いに過ごしやすい場づくりを考えるきっかけを作ることができました。



木もれ陽の里（軽井沢）での上映会の様子



木もれ陽の里（軽井沢）での上映会の様子



木もれ陽の里（軽井沢）での上映会の様子

### 福祉施設間の交流による、障害者の第三の居場所(サードプレイス) ニーズの発見

第2回目の開催では長野県内の近隣の福祉施設3施設の利用者・支援者が集まる形での開催となりました。実施後のアンケートから、「同じメンバーによるクローズドなレクリエーションはマンネリ化しがちだ」という声や、「日常の施設内の人間関係のヒエラルキーの外に触れたい」という、施設の外に出て活動したい、という要望が聞かれました。近年、自宅と職場あるいは学校とは別の、利害関係を持たずにリ

ラックスできる居場所として「第三の居場所(サードプレイス)」を持つことの重要性が議論されていますが、福祉施設の利用者はそのような場所にアクセスしづらいことに気付かされました。異なる施設を利用する同じ障害のある者同士の交流機会を創出することが重要であり、本事業がその機会の一つとなることができたと感じています。

#### POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

「音で遊べるワークショップ型上映会」は楽器づくり、楽器を使って音を出す練習、楽器を使って表現をしながら映像鑑賞、自由に過ごせるクールダウンの時間という基本的な流れで行われます。複数の施設で実施する中で、使用する物を選択することが難しい人が参加する場合は、楽器づくりを複数人による共作へと促したり、初めての鑑賞に戸惑う人が参加する場合は、鑑賞する映像のストーリーを鑑賞前に紙芝居で紹介するなど、ひとりひとり違った障害特性に合わせたプログラムの調整を行いました。これにより、今後展開させていくうえで想定されるケースに対する施策のレパートリーを増やすことができました。

本事業では舞台芸術分野における障害当事者の鑑賞機会と表現活動の充実と拡大を目指し、該当分野の機会提供側である劇場・文化施設職員や劇団、ダンスカンパニーなどのアーティストを対象とし、講座、上映会、視察、企画実践によって、学ぶ場を展開。障害当事者を対象とした鑑賞・表現活動の機会が増えることを目指し、誰でも参加しやすい入門編と、事業を実践する企画者を対象とした企画実践編の2コースを設定し、障害当事者のための事業の社会的意義を伝える人材育成事業を実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 【入門編】オンライン講座・上映会

開催日: 2023年9月13日～2024年2月17日

会場名: 講座: オンライン

上映会: リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館、福岡市美術館ミュージアムホール、いわき芸術文化交流館アリオス小劇場、東京芸術劇場シアターイースト、ロームシアター京都ノースホール

対象: 劇場や文化施設の職員、アーティストなど全国各地の若手からシニアまで経験不問

参加人数: 104名

参加費: 通し券 5,000円、講座1回券 1,500円

上映会1作品 1,000円

#### 実施内容:

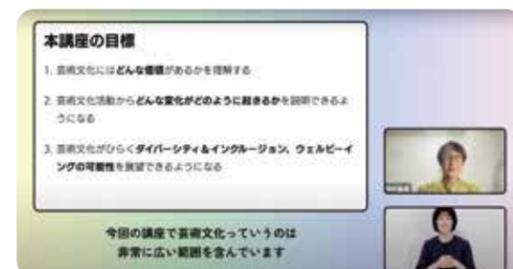
講座(全6回)とドキュメンタリー映画の上映会(3作品)を通じて、障害当事者との創作現場に必要な考え方、配慮、現状と歴史、また障害当事者の創作活動の実態や表現にかける思いについて学ぶ、入門編。

#### 講座:

1. 「芸術文化の価値とは何か」
2. 「舞台芸術系ワークショップの福祉施設での実践」
3. 「合理的配慮から考える障害の社会モデル」
4. 座談会「障害当事者の視点からいまの創造環境についてきく」
5. 「舞台芸術における音声ガイドについて」
6. 「障害当事者との企画を考えるということ」

#### 上映作品:

「音の行方」  
「こころの通訳者たち What a Wonderful World」  
「へんしんっ!」



オンライン講座 / 中村美亜氏による第1回講座の様子

### 【企画実践編】視察研修・企画検討

開催日: 2023年9月28日～2024年2月28日

会場名: 川口太陽の家 工房集 (埼玉県)、たんぼぼの家 アートセンターHANA (奈良県)、ぬかつくるところ (岡山県)、リベルテ (長野県)

対象: 舞台芸術にかかわる劇場・文化施設職員の企画者、舞台芸術団体制作者、アーティスト等

参加人数: 19名

参加費: 一般: 30,000円、U29: 15,000円

#### 実施内容:

全国4カ所の福祉施設への視察研修にて、職員の方のレクチャーと利用者との交流により、障害当事者の生活状況やケアのポイント、芸術とケアの接点や効果、アートと福祉を通じた地域社会のあり方等について学んだのち、チームに分かれ専門家に助言をもらいながら企画立案する実践編。



視察研修・川口太陽の家 工房集 / 施設職員の方との意見交換の様子



視察研修・たんぼぼの家アートセンターHANA / 施設内を見学する様子

## 本事業で得られた【成果】

### 入門編・オンライン講座と上映会の実施による、基礎知識・社会的意義についての普及啓発

障害当事者との表現や鑑賞のための企画に興味関心のある人なら、誰でも受講可能とした入門編では、6回にわたるオンライン講座と、上映会を実施しました。

オンライン講座では、社会における芸術文化の価値そのものについて改めて考え直すことからスタートし、「合理的配慮」や「障害の社会モデル」についての考え方や、音声ガイドの制作プロセスを学んだり、障害当事者アーティストの実感のこもった声を聞くことのできる講座ラインナップとしました。障害当事

者との企画を立案・運営することにおいて、大切な基礎知識だけではなく、歴史や事例を知ること、当事者の声を知ることによって深い学びを得られる機会をつくりました。

また、障害当事者の創作活動にまつわるドキュメンタリー映画の上映会を、劇場や美術館等全国5都市で実施しました。劇場で実施することにより、本講座の対象者である劇場や文化施設の職員を巻き込む場となったことで、受講生のみならず劇場関係者の意識向上にもつながりました。

### 企画実践編・福祉施設の視察研修で、現場の声を聞くことを通じた学び・対話の場の創出

企画実践編では、視察研修として全国4ヶ所の福祉施設を全19名の受講生と共に訪問しました。

各視察では、職員の方によるレクチャーで各施設の理念や日々大切にしていること、実施されている企画等についてお話しいただくとともに、施設利用者の方の日々の生活や制作の様子を見学させていただきました。施設職員の方を交え共に考えるディスカッションや、利用者の方との交流の時間を過ごす中で、受講生それぞれが抱える課題や問題意識を少しずつ言葉にしなが、受講生同士が議論を深める機会ともなりました。複数の特色ある施設を見学す

ることで、障害当事者との企画をどのように制作していくことができるか、当事者の主体性や支援者の視点に立った企画のために何を大事にすべきかなど、受講生が考えるきっかけを得られる場を作りました。

また対面での視察を経ての企画検討会(オンライン)を重ねる中で、様々なバックグラウンドや展望をもった受講生同士の議論が深まりました。今後も継続的に、障害当事者のための芸術文化プロジェクトを担うネットワークの一つとして、ここで生まれたコミュニケーションの輪を繋げていきたいと考えます。



視察研修・ぬかつくるところ / 利用者の作品を手にとる受講生の様子



視察研修・リベルテ / 利用者の方々の街歩きの様子

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

企画実践編では、「劇場に来ることへのバリアを感じている人が劇場に来たいと思えるような催し」を考えるという課題を、企画発表会へ向けて設定。様々な背景や職能を持つ受講生同士が、グループワークを通じて個々の問題意識を言語化し、自身の思考の枠に捉われず、社会にある「バリア」について考える機会をつくりました。

最終的な企画発表会は、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害当事者を含む方々に企画へのフィードバックをいただき、ディスカッションする時間を含めて構成。障害当事者をはじめとする劇場に足を運びづらい人たちとの舞台芸術表現や鑑賞のための企画を立案できる人材を育成するため、学びのポイント設定や当事者との接点作り、アウトプットの場づくりや設計において、弊団体の福祉領域でのネットワークと人材育成事業のノウハウを生かしました。

公益財団法人新国立劇場運営財団 所在地 東京都渋谷区  
団体URL: <https://www.nntt.jac.go.jp/> 事業URL: <https://www.nntt.jac.go.jp/guide/accessibility/>

障がいの有無に関わらず、良質の舞台が楽しめる機会を広げることを目指します。チケットの購入、来場、観劇、帰宅に至る各段階にあるハードルを下げ、舞台鑑賞をトータルで支援することを目的とします。従来実施してきた一部の主催演劇公演におけるサポート提供を着実に継続するとともに、過年度の踏襲だけにとどまらない新たな進展を目指します。特に今年度は新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことをうけたくサポート内容の拡充や舞台の専門家団体との共同研究の成果発表など〈事業の広報〉にも注力しました。

## 本事業で実施した【内容】

新国立劇場演劇公演「モグラが三千あつまって」、「尺には尺を」、「終わりよければすべてよし」における観劇サポート

### 開催日:

- ①「モグラが三千あつまって」:  
7月22日(土)、27日(木)(視覚)、23日(日)、28日(金)(聴覚)
- ②「尺には尺を」:  
10月29日(日)、11月16日(木)(視覚)、11月11日(土)、12日(日)(聴覚)
- ③「終わりよければすべてよし」:  
11月11日(土)、11月18日(土)(視覚)、11月5日(日)、11日(土)(聴覚)

会場名: 新国立劇場小劇場、中劇場(東京都渋谷区)

対象: 当該日の公演を鑑賞されるお客様

参加人数: 合計151名(うち障がいをお持ちの方77名)  
参加費: 無料

### 実施内容:

#### ●視覚障がい者向けサポート

##### ア) 公演前の舞台説明会開催

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことに伴い、休止していた「実際に舞台上上がって、本番で使用する大道具や小道具に触れる体験」を再開しました。

##### イ) 「声のプログラム」の提供

ウ) 触る模型の作成および模型を用いた舞台セットの解説

エ) 劇の進行と同時に物語を理解できるリアルタイム音声解説

オ) 最寄り駅改札口と劇場間の案内係による付添

#### ●聴覚障がい者向けサポート

ア) ポータブル字幕表示機貸出による、文字化したセリフ、音響情報の送付

イ) 会場内の掲示および案内サインの強化

ウ) 手話通訳、要約筆記者の配置 エ) 手話、字幕入の宣伝動画作成

オ) 電話に依存せずにインターネットやFAXでチケットを購入できる仕組みの提供

### 一般社団法人日本舞台美術家協会との共同研究

#### 実施内容:

- 視覚障がい者向け〈触る模型〉製作依頼  
対象演目: 演劇「モグラが三千あつまって」、「尺には尺を」、「終わりよければすべてよし」
- 新国立劇場・日本舞台美術家協会共同研究による「触る模型資料」作成
- 同協会が参加した展示会での本事業紹介  
新国立劇場と同協会の協働事業として「触る模型」を紹介
- ①「Prague Quadrennial」(チェコ共和国)  
※舞台美術に関連する国際的展示会(今回は100か国が参加)
- ②岡山芸術創造劇場 ハレノワ開館事業  
「伊藤熹朔記念賞in岡山」(岡山県)



「モグラが三千あつまって」舞台セットに触っている様子



「モグラが三千あつまって」衣裳に触っている様子

## 本事業で得られた【成果】

### コロナ禍を経て、アップデートされた舞台説明会

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、定員の縮小や内容に制限が加わっていた視覚障がい者向けの舞台説明会でしたが、新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、可能な限りコロナ禍以前のサービスを復活させ、よりアップデートされた舞台説明会を実施することができました。

感染症対策の観点から、「密」を避けるために定員を絞って実施していましたが、最大30名まで受け入れ可能とすることで多くのお客様にご参加いただくことができました。(昨年度は最大20名)

同じく感染症対策の観点から休止していた、お客様ご自身が舞台上上がる体験や、実際に使用する大道具や小道具に触れるサービスについても再開しました。

過年度は、代替策として本番用の物を模したサポート用の大道具、小道具を用意し、舞台とは別の場所で体験してもらうなどしていましたが、本年度は本物を体験していただくことで参加者からは「自ら体験・体感できてよかった」「コロナが終わったので、舞台上に上がれるし触られるのがよかった」といった喜びの声をいただきました。

### 専門家との共同研究で最適なサポートを提案

視覚障がい者向けの解説で用いる〈触る模型〉製作を日本舞台美術家協会に依頼しました。これにより、同協会が持つ豊かな知見にもとづく、質の高い模型を安定して準備することができました。これを用いることで舞台上の体験だけでは把握しきれない舞台セットや劇場の全体像を掴みやすくなりました。補足説明も可能となるので、舞台上での時間をより有効に使うことができました。また、本事業における「触る模型」の取り組みを、本事業の利用者以外にもひろく知っていただく広報活動も強化しました。新国立劇場・日本舞台美術家協会共同研究による「触る模型資料」を作成し、「触る模型」作成ノウハウやこれまでの研究に基づく成果を公開しました。これは同様の事業を実施する際の一助となるばかりでなく、視覚障がい者向けの観劇サポート自体への理解を深めるものになるはずで、また、同協会が参加した展示会にて、新国立劇場と同協会の協働事業として「触

また、コロナ禍で培った舞台説明会のノウハウも役立ちました。上演準備の都合上、舞台を使用できる時間には制限があります。そこで、舞台上でなくても体験できるものや補足のアイテムを用意することで、舞台上での体験を最適化することができました。代替策として実施していたサポートを適切に組み込むことで、単にコロナ禍以前に戻すだけでなく、より効果的で満足度の高い舞台説明会を実施することができました。

「終わりよければすべてよし」舞台説明会の様子

はじめての参加者も多いなかでサポート全体でも高い満足度を得られたこと・また多くのリピーターが存在することは、この事業が志向している〈舞台鑑賞をトータルで支援し、障がいの有無に関わらず、良質の舞台が楽しめる機会を広げること〉が徐々に実現していることを示しています。

る模型」を紹介しました。これにより、新国立劇場とは普段接点のない国内外の方々に、ひろく「触る模型」および本事業を認知していただくことができました。本事業に限らず、観劇サポートについて存在自体を知らないという人々はまだまだ多いと感じます。このように成果をひろく発表することで、社会全体の観劇サポートへの理解を深めることができれば、障がいの有無に関わらず観劇を楽しめるということが社会全体の意識として当たり前になっていくのではないかと考えています。



「モグラが三千あつまって」触る模型



「終わりよければすべてよし」触る模型

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

観劇サポートでは、当事者の声を重要視しています。音声ガイドや字幕ガイドの最終テストでは必ず障がい当事者の方にモニターとして参加していただき、いただいた意見を反映させて精度を高めます。また、参加者のご案内方法やチケット購入方法など、観劇に付随して生まれる事柄もいただいたご意見を基にブラッシュアップします。その蓄積で障がい当事者にとって、よりよい観劇環境を作ることができています。

特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ 所在地 東京都渋谷区  
団体URL: <https://www.a-i-t.net/> 事業URL: <https://cat-archives.a-i-t.net>

AITでは、日本とオランダの団体と協働し、芸術体験を通じてともに学び合うプログラムを実施。障害のある子どもやユースと美術館を訪問し、芸術家の作品に触れて対話を重ね、自身の表現を探求する機会を創出。夏にはオランダ視察を通じて、生きづらさを抱えるユースの芸術や自然を通じた回復プログラムや、子供の心とケアに関する取組みの調査を行いました。また、オランダよりメンタルヘルスとアートの専門家を日本に招聘し、環境音楽と瞑想を取り入れたアートのワークショップを実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 音楽と精神のインスピレーション・プログラム [Mark to the Music | マーク・トゥー・ザ・ミュージック]

開催日: 2023年12月16日  
会場名: カトリック世田谷教会 かまぼこ兵舎  
(東京都世田谷区)  
対象: ダウン症や自閉症ほか多様な子供とユース(協力: アトリエ・エー)、ファシリテーターの大人、保護者  
ゲスト: ヨレイン・ポスティムス(ミュージアム・オブ・マインド)  
音楽: 高野 寛、齋藤 紘良、安永 哲郎、藤村 頼正  
参加人数: 51名 参加費: 無料

#### 実施内容:

ユースの自殺防止プログラムや子供が自分の心について考えるさまざまな実践を行うオランダの美術館「ミュージアム・オブ・マインド」より、メンタルヘルス・プログラム・マネージャー、ヨレイン・ポスティムス氏を招き、障害のある子供やユースに向けて、音楽と瞑想を取り入れた表現ワークショップを開催。ポスティムス氏が瞑想ガイド役となり、アンビエント音楽を聴き、心を解放しながら表現することに焦点を当てた実践です。今回、ポスティムス氏のナビゲーションのもと瞑想をしたり、4名の音楽家によるアンビエントの演奏を聴きながら、感じたことを床に敷いた大きな紙にアクリル絵の具で自由に創作しました。



ゲストのヨレイン・ポスティムス氏



音楽からのイメージを絵に表現



Mark to the Musicの感想を伝える参加者  
Photo: 阪本 勇



瞑想にチャレンジ!

### 新たな気づきを得る美術鑑賞+創作プログラム [インスピレーション・ツアー 2023]

開催日: 2023年10月28日、11月5日  
会場名: アーティゾン美術館(東京都中央区)、  
上原社会教育館(東京都渋谷区)  
対象: ダウン症や自閉症ほか特性のある子供と  
ユース、ファシリテーターの大人、保護者  
参加人数: 40名 参加費: 無料

#### 実施内容:

日常のインスピレーションをさらに広げる試みとして、インスピレーション・ツアーを継続して実施。アーティゾン美術館の企画展「ジャム・セッション石橋財団コレクション×山口晃 ここへきて やむに止まれぬ サンサシオン」とコレクション展をグループやペアで鑑賞。目の前の表現について自由に対話し、気になった作品や感じ方を共有した。後日、絵の具や画用紙に、お出かけで得たインスピレーションや出会いから、子供たち自身の表現を探求し、オリジナルの作品を創作しました。

### オランダ視察

開催日: 2023年7月24日~7月31日  
訪問先: 生きづらさを抱えたユースや子供の支援を行う  
オランダ各地の美術館、ケアファーム、演劇プログラム等を実践する福祉団体ほか  
参加人数: 3名(AITスタッフ2名、精神科ソーシャルワーカー1名)  
実施内容:

障害のある人の活躍の場をつくる美術館や福祉団体、障害のある人や社会的弱者の支援の一つとして、農業を通じた支援の取り組みとしてヨーロッパで広がるケアファームなどを訪問。特に、子供やユースのメンタルヘルスや心のケアに取り組むアートの実践や、引きこもり傾向のあるユースが参加しやすい場づくりなどについて、ヒアリングと意見交換を行いました。

## 本事業で得られた【成果】

### アートと環境音楽で心を解放しながら、安心して表現できる機会の創出

アートと精神のインスピレーション・プログラムでは、アートとメンタルヘルスの実践や研究を行う「ミュージアム・オブ・マインド」の専門家とAITの日本初の共同企画として、脳や心、身体にリラックス効果をもたらす、アンビエント音楽や瞑想を取り入れた表現の機会を創出しました。元々はオランダで大人向けに行われた企画ですが、今回、ダウン症や自閉症の子供やユースが心地よく体験できるよう、スク립トや流れ、環境づくりをアレンジし、安心して参加できるよう心がけました。瞑想は無理強いせず、自由に過ぎて良いことを促しました。その結果、それぞれ寝転んだり音楽に身を任せたり、思い思いに瞑想体験や自由な表現を探求できました。また、企画に賛同する音楽家4名がアンビエント音楽を即興で演奏したことで、参加者がより臨場感のある特別な音楽体験に触られました。

ファシリテーターには、アーティストや精神科医、芸術とケアに関心のある大人がスタッフとして一人一人に丁寧に寄り添いました。サポートしすぎず寛容に見守り、必要な時に声かけや道具の使い方などをサポートすることに徹していたため、思いのままの表現を引き出すことができたと言えます。企画段階で

は、アンビエント音楽や瞑想という言葉に、子供たちが内容を理解できるか心配する声もありましたが、ワークショップが開始した途端、その環境に順応し楽しむ参加者の姿が見られ、大人が設けた枠組みや想像を、子供たちは自由に飛び越えるポテンシャルがあることを再確認しました。

環境づくりでは、床に大きな紙を敷き詰め、アクリル絵の具や画材をできるだけ多量用意し、自由に描ける創作環境を整えました。それは、心で感じた色や絵を、個性的に表現する手助けとなりました。

今回の取り組みは実験的で、障害のある子供向けに共同企画された特別な体験として、オランダの美術館関係者からも非常に大きな成果だったという声がありました。こうした活動を今後も継続して実施し、過程や記録をひろく発信し、障害だけでなく生きづらさを抱える子供やユースの支援の輪を広げていくことが期待できます。



インスピレーション・ツアー後、セザンヌからインスパイアされた作品 Photo: 阪本 勇

### 言葉だけではない些細な変化も見逃さず、長期的な変化を探る取り組み

鑑賞と創作のインスピレーション・ツアーでは、普段の子供の特性をよく理解しているスタッフが参加し、それぞれの参加者が発言しやすい雰囲気づくりと、ささやかな反応の違いに気づける体制で実施。また、今回も、どのような発言も否定せず最後まで耳を傾けることを徹底しました。今回、美術館訪問が初めての参加者や、親子で鑑賞しても意見交換をしたことがない、という人も。自閉症のあるユースは、鑑賞した作品から次々にオリジナルの物語を想像し、共有しました。また、言葉ではうまく発言できない特性のある参加者は素早く動き回りながら、気になったいくつかの作品の前で立ち止まり、目線や表情の些細な変化で、関心の有無や言葉にならない感情

を、寄り添う大人が気づき、じっくりと待つことを大切に過ごしました。

音楽とアートのプログラムにおいても、言葉ではなく身体の動きや表情で、その子供が感じた感覚をファシリテーターが気づく場面もありました。そうした微妙な空気感や雰囲気は、文字や写真のみでは伝え切れないため、音声記録や動画記録によるアーカイブで、全体の取り組みを雰囲気とともに外部に伝えていきます。こうした個々の変化や記録の蓄積から、芸術プログラムの意義の再確認やメンタルヘルス向上の研究につながっていくと感じているため、今後も長期的な視点で継続したプログラムづくりを行いたいと思います。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

本事業に関わるファシリテーターには、ケアとアートに関心のある人で、可能な限り多様な大人が参加し、それぞれの視点で眺めていくことを大切にしています。精神科医、精神科ソーシャルワーカー、芸術家やデザイナーなど、医療やケア、表現に日常的に関わっている大人の視点、本人の気持ち、そして、保護者や普段寄り添う人の視点、多角的な視点で障害のある人のメンタルヘルスの状態について、イベント実施前後だけでなく、長期的な視点での記録を心がけています。また、今回のプログラム実施後のアンケートには、やさしい日本語を用い、ふりがなをつけた上で、参加者の気持ちを絵で表現する欄も設け、できるだけフィードバックをもらえるよう工夫しました。

文部科学省及び厚生労働省では、令和5年3月、障害者文化芸術推進法に基づく第2期障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画(以下、第2期基本計画)を令和5年3月に策定しています。本事業は、この基本計画に則り、障害者との向き合いを中心に、その実態を把握するものです。本事業の具体的な目的は、①文化施設(美術館・博物館等)における共生社会の実現に資する取組の実態把握②計画策定に向けた地方自治体等への普及啓発、となっています。

## 本事業で得られた【成果】

### 全国的美術館・博物館の障害者対応、障害者向け事業の実施状況の把握

全国の中核市以上の美術館・博物館1425施設にアンケート調査を実施しました。

- ①回答状況 770施設から回答。登録博物館45.2%、博物館指定施設12.9%、博物館類似施設39.4%。
- ②法律計画の認知 障害者文化芸術推進法の認知率は46.8%。計画の認知は41.3%に止まりました。
- ③施設を円滑にできるようにするための取組 バリアフリー等の施設設備の対応を行っている割合は88.4%と高いですが、展示に関するルビや音声ガイドなどは50.0%、支援機器・用具の整備は26.5%。また、職員に対しての研修を行っている施設は33.4%でした。
- ④障害者を対象とした事業の取組 障害者を主な対象とした事業については、2019年以降に実施しているが27.5%、19年以降は実施していないが、それ以前に実施したことがあるが8.2%となっています。実施事業内容で多いものは、障害者向けのワークショップなどの教育普及活動(36.0%)、障害者が観賞しやすい常設展の工夫(35.6%)、障害者観賞機会拡大のための企画展(28.0%)、障害者が制作した作品の展示活動(25.8%)などです。事業実施において57.8%が施設単体での実施と回答していますが、17.7%は特別支援学校を含む学校・教育委員会と、13.9%は社協やNPO法人と連携しています。自治体の福祉担当部署との連携があるという回答は10.8%でした。

- れました。
- 自治体において、法律に基づく地域計画等を策定するなど推進体制を作るよう促していくことで、地域の美術館等での法律や計画の認知が広まり、取組が進んでいく可能性があります。
- このため、自治体や美術館等に対して、法律の普及啓発策(ツールの開発や頒布、オンラインも含む説明会イベント開催など)を積極的に推進していくことが重要です。

#### (考察2) 人材育成や障害者団体などの連携促進に重点を置いたサポート体制の強化

- 来館促進についての取組としては、バリアフリー法を踏まえた、施設のハード面での整備が進んでおり、音声ガイド・ルビ等の展示等に取り組む施設は一定割合ありますが、その他の取組の実施率は低くなっています。
- 研修・障害者からの意見聞き取りなどの実施施設は5割に届かず、福祉について知識や経験のある職員がいる比率も少なくなっています。
- 障害者事業を実施する際の連携先も6割弱がないと回答しています。
- 「好事例・ノウハウ」「研修」「補助金」「専門家や支援団体、相談窓口等」に関する支援事業自体の充実に加えて、美術館等が適切なサポートを受け取れる工夫を進めていくことが必要です。

#### (考察3) 共生社会進展に向けた姿勢・考え方の普及

- アンケートの自由回答や美術館等へのヒアリングでは、「大きな予算をかけることを前提にせず、まずは障害者に寄り添う姿勢から始めればよい」「特定のガイドラインに従う必要はなく、学芸員同士が話し合い、柔軟にできることをやればいい」「こうした考え方は障害者に限定せず、高齢者などの他の困りごとをもつ人に対しても同じである」「展示は鑑賞する人にいかに届けていくかという活動であり、美術館等の全ての活動の原点である」「自施設単体でできることは少ないので施設外の人間と協働することに慣れるべき」等の様々な意見があり、こうした考え方も含めて、合理的配慮の提供の在り方について関係者間で対話を行いながら考えていく必要があります。

#### (考察1) 障害者文化芸術推進法の普及啓発と地域における推進体制構築の重要性

- アンケート結果では、各施設の事業担当者が法律・計画を認知している比率は半数に届かない一方で、認知している担当者がいる美術館等では、実際の来場促進についての取組や障害者向け事業の実施の比率が比較的、高い状況にあります。
- またヒアリング調査では、障害者向け事業実施の契機として、当該地域の自治体の障害者の文化芸術活動についての方針や実績と関係している事例が見ら

## 本事業で実施した【内容】

### 障害者による文化芸術活動の推進に関するアンケート調査

調査実施: 2023年10月16日~2023年11月8日  
会場名: 全国  
対象: 全国的美術館・博物館1425施設  
実施内容:

文化施設(美術館・博物館等)における共生社会の実現に資する取組の実態把握

文化施設のうち、美術館・博物館等を対象に、共生社会の実現に資する取組としてどのようなものを行っているかについて、アンケート及び事例調査によりその実態を把握しました。

### 障害者による文化芸術活動の推進に関するヒアリング調査

調査実施: 2023年12月4日~2023年12月26日  
会場名: はじまりの美術館(福島県耶麻郡猪苗代町)、横須賀美術館(神奈川県横須賀市)、大阪市立自然史博物館(大阪府大阪市)、多治見市美濃焼ミュージアム(岐阜県多治見市)、新潟県立歴史博物館(新潟県長岡市)、長野県立美術館(長野県長野市)、九州国立博物館(福岡県太宰府市)、滋賀県立美術館(滋賀県大津市)、徳島県立近代美術館(徳島県徳島市)、鳥取県立バリアフリー美術館(鳥取県鳥取市)

対象: 各施設の障害者関連の事業担当者

実施内容:

上記アンケートの設問だけでは捉えきれない背景要因や具体課題などを探るとともに、他施設や自治体等の啓発に有効な好事例を収集しました。

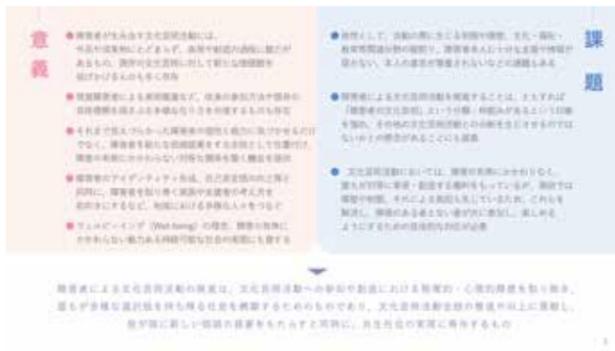


計画策定に向けた地方自治体等への普及啓発用スライド。同じ内容の動画及び、概要版リーフレットと手話付き動画も作成し、文化庁ホームページにて公開しました。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

- 1) 「障害者による文化芸術活動の推進に向けた全国的美術館等における実態調査(令和元年度)」(以下、前回調査)に続くものとして、最新の实態を把握するための調査設計としました。
- 2) 前回調査以降の法制度や基本計画、環境変化等の変化の影響の把握
- 3) 記述式回答、事例調査による現状・課題把握の深掘りと地方自治体等の啓発に役立つ知見や参考例の収集  
本事業では、上記の問題意識を踏まえ、アンケート調査で各取組ごとに記述式回答を設定して具体内容を収集するとともに、参考となる事例の候補や共生社会への取組に豊富な知見を有する専門家(有識者会議の委員を含む)・機関などにヒアリング調査を実施しました。



調査による文化芸術活動の推進は、文化芸術活動への参加や創造に必要となる環境を整え、誰もが活躍できる機会を創出する必要があるためのものであり、文化芸術活動全体の普及以上に重要とし、早急に取り組む必要があるものと見られ、共生社会の実現に資するもの

Palabra株式会社 所在地 東京都新宿区  
団体URL: <https://palabra-i.co.jp/> 事業URL: <https://udcast.net/>

障害者等に対する文化芸術活動の支援・拡充は、共生社会を目指すうえで欠かすことができない事案です。芸術的表現への参加もさることながら、演劇やパフォーマンス、映画など文化芸術活動へのアクセスにおける情報格差の解消と、作品理解のための鑑賞サポートが必要です。本事業は、前年度に引き続き相談窓口による当事者及び事業者支援と、モデル公演の実施をとおして対応事例を増やし、障害者が気軽に文化芸術鑑賞に参加する機会が拡充することを目的としています。

## 本事業で実施した【内容】

### 鑑賞サポート相談窓口

開催日・会場: 通年実施

対象: 文化芸術鑑賞に困りごとをかかえる当事者、  
鑑賞サポート提供を検討する事業者

実施内容:

東京・大阪の2か所において、障害者の文化芸術活動へのアクセスや情報保障について相談や必要に応じて支援する窓口として開設した相談窓口(UDCastサポートセンター)を継続。全国各地の鑑賞サポート付き公演・上映などの情報収集と提供、また、障害者への鑑賞サポートを試験的に実施しました。2023年4月～12月の相談件数は205件。相談者の内訳は、聴覚障害者が最も多く65%(133件)、視覚障害が11%(23件)、当事者団体8件、一般4件、不明5件。さらに、今年度は事業者からの相談が16%(32件)ありました。また障害当事者の申し込み受付支援として、クラシック音楽コンサート9公演12日、その他演劇・演芸・朗読・美術展30公演37日をサポート。総参加人数(同伴者含)は415名。

昨年度に引き続き、相談窓口の進捗や鑑賞サポートの取り組みについて障害者の文化芸術活動を支援する団体の有識者から定期的にフィードバックをいただきました。

### 事業者向けセミナー

「障害のある観客に向けた鑑賞サポートアンケートの調査結果報告会～文化芸術における合理的配慮を学ぶ～」の実施

開催日・会場: 2023年7月25日(火)、オンライン

対象: 演劇関連事業者、当事者 238名

実施内容:

前年度実施した「障害のある観客に向けた鑑賞サポートに関するアンケート調査」の結果を報告するとともに、改めて鑑賞サポートを当事者の視点で捉え直すことでサポート実施に向けた具体的なイメージを持ち、障害のあるお客様を迎えるための準備をしてもらうことを目的として開催。トークゲストに、舞台公演で鑑賞サポート提供の実施を続けている株式会社momocan代表の半田桃子さんと、特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長の廣川麻子さんをお招きし、実際の現場のお話を当事者視点で伺いました。

### モデル公演の実施

モデル公演① 「ディズニー・オン・アイス100 Years of Wonder[手話通訳付きSS席]」

開催日: 2023年7月15日(土) 18:30、16日(日)

18:30開演 ※全2公演

会場名: 有明アリーナ

対象: 聴覚障害者とその同行者 計24名

実施内容:

全国ツアーを行うアイスショーの公式サービスとして、手話通訳エリアを設けたモデル公演を実施。前年度は個別対応として相談窓口が手話通訳を支援。今年度は当事者から要望が届いたことをきっかけに、手話通訳つき座席を正式導入しました。主催団体から予め台本を借りて、内容を確認し、手話監修者と手話通訳者を派遣。東京公演での限定的な導入ではありましたが、座席は即日完売し、他地域からも実施の要望が多数届き大きな反響がありました。大規模な興行における座席数や申込方法などの検証に繋がり、事業者としてもニーズが把握される結果となりました。

モデル公演② 「タカハ劇団第18回公演『ヒトラーを画家にする話』」

開催日: 2023年9月29日(金)18時、30日(土)13時公演

会場名: 東京芸術劇場 シアターイースト

対象: 視覚・聴覚障害者、盲ろう者、肢体不自由者、事業者

実施内容:

バリアフリー日本語字幕・音声ガイド、舞台の事前説明会、駅からの移動サポートを実施。またグネプロでは事業者にも鑑賞サポート体験会を実施、各公演後には感想共有会を行いました。前年度の有識者会議に参加した当事者団体の代表を招き、実際の鑑賞サポートも体験いただきました。特に盲ろう者の鑑賞について音声ガイド台本の再構成を実施。当日は劇団・劇場と連携し、対応を検証する機会となりました。

## 本事業で得られた【成果】

### 「合理的配慮」「鑑賞サポート」に対する認知拡大

前年度の相談件数は150件でしたが、今年は200件まで増加しました。また事業者相談も昨年度に比べ増加しました。

当事者間の口コミによって相談者が増えており、リピーターとして何度も相談にこられる方もいらっしゃいました。解決の方法をともに探り、事業者と連携して現場での個別サポートまで行うことから、実効性のある相談窓口としての信頼感に繋がりました。相談者が交流できるコミュニティでは、要望経験がある方が別の当事者にアドバイスするような場面もみられており、今後も事例の紹介や横の繋がりと場づくりを実現していきたいと思えます。

事業者に対しては、前年度でアンケートや助成金

活用に向けたセミナーを行い、今年度はアンケート結果を紹介するセミナーや鑑賞サポートの体験会を行いました。社会的な風潮もあいまって、前年度に比べて「合理的配慮」や「鑑賞サポート」への関心がある事業者が増えた印象がありました。相談においても前年度は鑑賞サポートの意義や目的の説明が不可欠だったのが、交渉を重ねることにより事業者の理解が進み、やりとりが円滑に進む場面が増えました。

ノウハウやリテラシーの普及が社会全体を押し上げるものであり、相談窓口の事業による当事者・事業者双方への認知拡大は一つの成果と言えると考えています。



台本タブレットでの鑑賞の様子



「ディズニー・オン・アイス100 Years of Wonder[手話通訳付きSS席]」手話通訳の様子



タカハ劇団第18回公演「ヒトラーを画家にする話」舞台説明の様子



タカハ劇団第18回公演「ヒトラーを画家にする話」舞台説明の様子



タカハ劇団第18回公演「ヒトラーを画家にする話」鑑賞サポート説明会の様子

### リアルタイムの情報保障を視野に入れたスモールステップでのサポート支援

当事者からは、リアルタイムの情報保障(字幕・音声ガイド・手話通訳・歌詞の表示)を要望されるケースが多いものの、人件費や機材など、ある程度の費用が必要なため、事業者に提案を行っても、後付けによる予算化が難しいことを理由に要望を断られてしまうという実態があります。

リアルタイムの情報保障が難しかった場合にも、要望に対して何もできないという状態をなくしたいと考え、「合理的配慮」の提供につながるよう事業者・相談者双方に代替案を提示しました。台本貸出や、舞台の事前説明会の開催、音楽ライブでは曲順や歌詞の情報提供など、予算がなくても、マンパワーで実施できた事例が多々ありました。機材やマニュアルを準備して貸出パッケージの運用を夏から始めた

ころ、毎月2件ほど、コンスタントに事業者からの利用希望が届いています。

このようなスモールステップでのサポート支援を相談窓口が行い、成功体験を積むことで、次のサポートに繋げる事業者も出てきました。一方で、サポートを継続させることや、リアルタイムの情報保障に取り組むことは負担が大きく、事業者の自助努力だけでは解決できないという声も実際に寄せられています。中小規模の事業者は作品製作で手一杯であり、サポートのための資金調達は非常に困難です。当事者が本来切望するリアルタイムの情報保障の提供を進めるためには、国の支援や、劇場設備としての導入など横断的な対応が必要だと考えています。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

相談窓口として単に相談代行や紹介を行うだけでなく、要望を聞き、催し内容を調べ、ノウハウをもとに事業者への鑑賞サポート実施方法の提案、交渉、現地で相談窓口スタッフ自らが当事者の個別支援に何うなど、実効性のある相談窓口として運用してきました。この点が、当事者や事業者からのご相談のリピーター率増加に繋がっていると推察しています。また、事業者との関係構築に向け、相談を待つのではなく、セミナーや体験会などを通し、積極的に相談窓口の活動について、アウトリーチを行ってきたことも工夫した点です。

弊社は、映画・演劇を中心にした字幕・音声ガイド制作の過程やイベント等で当事者と積極的に関わることによって日常的に当事者のニーズを実感してノウハウを蓄積してきました。相談窓口を通して事業者が当事者のニーズを知ることで文化芸術鑑賞の機会拡充につながると考えています。

東京都小平市にある児童養護施設やファミリーホームで暮らす子どもたちや、地域の自立援助ホームや通称寮で暮らす施設退所者、障害者グループホームで暮らす若者等が、音楽やダンス、美術などの文化芸術活動を通して交流し、共に作品創作を経験するワークショップを行いました。そして、最終回に地域のホールで創作したパフォーマンスの発表公演を開催。また、集大成として記録冊子を発行することで、広く社会に成果を伝えとともに、本事業の理解者や支援者を拡大しつつ、彼らの文化芸術活動による社会参加を促しました。

## 本事業で実施した【内容】

### ワークショップの実施

開催日: 2023年6月10日、7月15日、9月9日、10月1日、10月29日、12月2日

会場名: 二葉むさしが丘学園体育館(東京都小平市)、ルネ小平レセプションホール

参加人数: 児童養護施設 二葉むさしが丘学園 小学1年生～高校3年生 8名  
ファミリーホームしろやま 小学2年生～19歳5名  
地域で暮らす児童養護施設退所者 2名、  
障害者グループホーム利用者 1名  
参加費: 無料

アーティスト: セレノグラフィカ(隅地菜歩・阿比留修一/ダンスカンパニー)、新井英夫(体奏家・ダンスアーティスト)、板坂記代子(身体表現家)、はしむかいゆうき(音楽家)、水内貴英(美術家)

### 実施内容:

ワークショップでは、2施設の子どもたちや、地域で暮らす施設退所者や障害のある若者などが音楽やダンス等の表現活動に取り組み、創作活動を通して相互の関係を深めていきました。身体表現においては、個々の自然な身体の動きを認めながら自由な表現を引き出したり、言葉によらない身体のふれあいなどを通じたコミュニケーションにより他者と関係性をつくる体験をしたり、障害が障害とならないような、その人らしい表現を受け止めながら創作しました。音楽では、誰かと一緒に合奏する楽しさを味わったり、ダンスの動きに合わせて即興で演奏したり、ジャンル横断的な時間も設けながら多様な表現の方法を体験してもらいました。また、美術では『わたしの木』をテーマに、一人ひとりが等身大の木を製作し、それを舞台美術として発表公演で活用しました。

### 発表公演

開催日: 2023年12月26日

会場名: ルネ小平レセプションホール(小平市)

### 実施内容:

ワークショップで創作したダンスや音楽、美術を一つのパフォーマンス作品として、発表公演を開催しました。参加者は、一人ひとり興味関心が少しずつ異なりましたが、ダンスが得意な子は身体を使った表現をのびのびと楽しみ、音楽が好きなのはその動きに呼応するように即興で演奏したり、アーティストや施設職員を含むバンド演奏に挑戦したり、ワークショップで製作した美術の作品を舞台美術で活用するなど、多様な表現が混じり合った発表となりました。終演後には、出演者と観客による振り返りのトークセッションを行い、作品に関するフィードバックや作品に込めた想いを共有できました。障害児者や社会的養護の当事者が、他者との創造的な関わり合いを通して、自己肯定感やコミュニケーション能力を高めることにもつながったと考えます。

### 記録冊子の発行

開催日: 2024年3月

### 実施内容:

ワークショップや発表公演の様子、参加者へのインタビュー記録を冊子として発行し、事業の成果や今後の課題などを広く社会に発信して、支援者の拡大と持続可能な事業の実施につなげていきます。

## 本事業で得られた【成果】

### アートを通して人や社会とのつながりをつくる

社会的養護のもとにある子どもたち、障害のある子どもたちや若者たちなど、多様な背景を持つ人たちがワークショップに参加しました。参加者たちが、多様な他者との出会いや関わりを経験しながら、参加者とアーティスト、もしくは障害児者と健常児者が、支援する／されるの関係ではなく、どんな立場の人たちも、「一人の表現者」としてフラットで対等な関係に立ち、音楽やダンスなどを用いたオリジナルの表現を生み出す場を創ることができました。

社会的養護の当事者や、障害児者の中には余暇活動の過ごし方を自分で選択していくことが難しく、生活範囲が限定されがちな方もいます。社会とのつながりが希薄になると、助けを求めることができず支援が行き届かなくなりがちですが、彼らが普段の生活の範囲から一歩を踏み出して、いろいろな場所があることをお互いに知ることができるようにし、様々

な背景を抱えた同じような境遇にある当事者同士が自発的に、彼らにとっての「地域」を広げ、当事者間のつながりを広げて深めるとともに、社会とのつながりを創出する場となりました。



美術の回には一人ひとりの「マイツリー」をつくりました



水の中をイメージしていろいろな動きを考えました



アーティストのダンスを見る時間も設けました

### 発表公演や、記録冊子を通じた活動の周知

発表公演は、施設内の職員のみならず、こうした活動に感心のあるアーティストや文化団体の職員等が観覧しました。施設職員にとっては、子どもたちの普段の生活とは少し違う新たな一面を知る機会になり、職員以外の観客にとっては事業の一つのモデルを知る機会となりました。

また、記録冊子には、ワークショップや発表公演の様子、施設職員や参加したアーティストによる本事業についてのエッセイを掲載。こうした活動の理解者や支援者の拡充につなげるツールとして活用して、活動の周知につなげました。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

ワークショップでは、身体表現、音楽、美術という異なるジャンルのアーティストが講師となり、参加者が多様な表現に出会うことができるようにしました。参加者の興味・関心や年齢、障害などの実態に応じてグループ活動も取り入れ、個々のニーズに丁寧に寄り添いながら交流を生み出していくように工夫しました。

また、毎回ワークショップが終わった後には、施設職員とアーティスト、スタッフの三者による振り返りの打合せを行い、参加者一人ひとりの変化や気づきについて共有しながら改善点や対応策を協議し、随時ワークショップの内容に反映していきました。

団体名 特定非営利活動法人シアタープランニングネットワーク 所在地 東京都多摩市  
 団体URL: <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~tpn/index2.html> 事業URL: <https://tpn170.wixsite.com/htp2023>

事業概要 劇場等から疎外されがちな知的障がいや重度重複の障がいをもつ子ども、医療的ケアを必要とする子どもたちと、その親、健常の兄弟姉妹、祖父母(認知症を含む)等、家族が揃って楽しめるインクルーシブ・シアターを創造し、巡演を行いました。沖縄県那覇市で開催された「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」に協賛しての公演を皮切りに、兵庫県豊岡市の芸術文化観光専門職大学における公演を経て、東京&神奈川ツアーを展開し、全8か所、14日間、28回の公演を実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 多感覚演劇『鳥の歌 The Songs of Birds』

開催日/会場名:

- 令和5年7月29日、30日/  
那覇文化芸術劇場なはーと小スタジオ(沖縄県那覇市)
- 令和5年10月14日、15日/  
芸術文化観光専門職大学静思堂シアター(兵庫県豊岡市)
- 令和5年10月28日、29日/  
パルテノン多摩クリエイティブラボ(東京都多摩市)
- 令和5年11月4日、5日/  
シャロームみなみ風(東京都新宿区)
- 令和5年11月19日/  
島田療育センターはちおうじ(東京都八王子市)
- 令和5年11月23日、26日/  
放課後等ディサービスブルーワン(東京都江東区)
- 令和5年12月10日/  
高津老人福祉・地域交流センター(神奈川県川崎市高津区)
- 令和5年12月16日、17日/  
なかはら障害福祉施設ひらま(神奈川県川崎市中原区)

対象:

知的障がいや肢体不自由、重度重複障がいを持つ子どもたち、医療的ケアを必要とする子どもたちとその家族(健常のきょうだい児や高齢者を含む)。あわせて、関心をもつアーティスト、教師、学生といった見学者。

募集定員: 各回6~8家族

(会場の広さと子どもの総数によって調整)

参加人数: 家族数:112組(内招待15組、外国人家族3組)  
 内訳:大人175名、子ども169名、見学者78名、施設利用者20名、招待・学生 62名

参加費: 大人1名+子ども1名 2,500円

追加チケット 大人1名1,000円/子ども1名500円  
 見学 2,500円

実施内容:

美しいクラシック音楽、きらめく光、ダイナミックで優美な身体表現に包まれながら、不思議な感触を体感する、ノンバーバルの参加型パフォーマンスです。目が見えなくても、耳が聞こえなくても、じっとしていらなくても、身体を動かさなくても様々な感覚に働きかけていくことで、一人ひとりの子どものセンス・オブ・ワンダーを刺激しました。各会場にアクセス・コーディネーターを配置するとともに、事前に一人ひとりの子どもの苦手なものの配慮すべき事項を相談するとともに、事前資料(ソーシャルストーリー)を用意いたしました。

空間と人になじむためのプレ・パフォーマンスを含め、約1時間のプログラムです。

また、アートマネジメントインターンシッププログラムには、2名を採用しましたが、実際に参加したのは、1名(都内音大3年生1名)。東京&神奈川ツアーに同行し、アーティスト、プロデューサーやアクセス・コーディネーターをサポートしながら、子どもたちと家族に寄り添いました。

さらに、参加アーティストやスタッフ、会場の関係者等が集まり、オンラインでシェアリングのミーティングを実施し(令和6年1月17日)、それぞれが体験し、考えたことをわちあいました。事例をあげながら、それぞれの障がいへのサポートのあり方、参加費の意味するもの、劇場空間での上演とコミュニティの場での上演の意味など、議論は多岐にわたり、深いものとなりました。



那覇公演から—ダイナミックな風を起こす(撮影:奥秋圭)



那覇公演から—光るシャボン玉の卵(撮影:奥秋圭)



那覇公演から—全景(撮影:奥秋圭)



那覇公演から—ネームソング(撮影:奥秋圭)

## 本事業で得られた【成果】

### 美しく、質の高い子どもたちと家族の体験をめざすチーム

対象が障がい児だからという理由で芸術性が低い作品が許されるわけではありません。鑑賞機会が限られているからこそ、質の高い鑑賞体験が求められていると考えています。令和5年度は、作曲家にテーマ音楽とネームソングを委嘱、また音楽家チームを3名編成(バイオリン、ピアノ、コントラバス)としました。音楽性の充実、観客のアンケートにも大きく反映されるだけでなく、カンパニー全体の士気をあげるものになりました。

長期にわたる、かつ、ほとんどが週末のみの公演となるため、参加アーティストのスケジュールリングは

困難が伴いましたが、全日程に参加するコアとしての2名のダンサーと3名の音楽家に、2つの役に対して5名のアソシエートのメンバーが交互に出演することで長丁場を乗り切りました。コアのダンサーと音楽家が創り上げる世界観に、アソシエートとはいえ、全メンバーが創造から参加していることから、作品を深く理解し、目的をわかちあうことができたことが大きいと考えています。結果として興味深いのは、様々な領域で活動を行っているメンバーが揃ったことによる相互作用の存在でした。

### さらなる可能性に向けて

今年度は対象となるご家族の集客に苦戦したものの(一気にイベント等が帰ってきたからでしょうか)、一方で、これまで観客になることのなかった新たな観客層が増加しました。

公立文化施設の担当者や、インクルーシブの活動を行う他の芸術団体からの参加者が増加したことです。

また、国際交流基金のコーディネーションにより、シンガポールの国立アートセンターの子ども・青少年部門のヘッドが令和6年1月に来日した際に、意見交換を行いました。どちらも将来的なコラボレーションへと発展させたいと願っています。

子どもの通う特別支援学校での公演をしてほしいという強い要望が寄せられるとともに、一方で、高齢者向けや、大人の障がい者向けにも上演してほしいという声が多数寄せられるようになりました。タイトルに「子ども」と銘打ってはいるものの、高齢者も大人の障がい者も疎外するものではありません。ただ

重要なポイントとして、他に類例がほとんどないからこそ、「家族揃っての鑑賞」の価値を謳い続けていきたいと願っています。また障がい者施設での上演では、客席に余裕があれば、施設の利用者(大人)の参加を促してきました(無償)。このことからスタッフへの教育的側面が得られたと施設から喜ばれました。



川崎市中原区平間公演から(撮影:奥秋圭)

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

ホスピタルシアタープロジェクトの特徴は、劇作家や演出家といった存在を置かず、参加するパフォーマー、ミュージシャン、スタッフらが皆、「すべての子どもたちが演劇的体験を楽しむ」という同じ目的をシェアして、公平に意見を出し合い、ゼロから作品を生み出し、小道具等も創り上げ、仕込みを行い、ツアーを行っていく集団体制にあります。それぞれの担当する仕事において、一人ひとりがリーダーとなり、何が大切なのかを判断できる存在となっています。このような体制の必要性は、つねに想定外の反応が返ってくることに対応していく能力に関わる者すべてに求められるからです。

実際に、神奈川県川崎市での公演では次のようなことがありました。昨年度の公演では10分もいらなかった自閉症児がいます。そのご家族は再チャレンジを期して参加されました。その子どもは出たり入ったりしていたものの、あるシーンで率先して参加し、その小道具を占有しました。その際、パフォーマーらはそれぞれが、その子の参加をさらに促しながらも、他の参加者の楽しみが疎外されないようあの手この手を使う行動にでました。それを見ていた見学者が驚きの声をあげました。その子はそのシーンの後は笑顔で、会場に留まりました。また、小道具等を手作りするのは、ご家族が家に戻ってから、遊びを「再現する」ことができるようにするためです。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 所在地 神奈川県横浜市  
 団体URL: <https://p.yafjp.org/> 事業URL: <https://artazamino.jp/series/artto>

高齢者・認知症の方が、病気や環境の変化に左右されることなく、その家族、介護者などの関係者とともに、日常のなかで美術館やギャラリーに出かけて新しい経験をする楽しみを享受し続けられることを目指して、2022年度より取組をおこなっています。2023年度は「アート+認知症 やさしい美術鑑賞プログラム」として、認知症の基礎やアートと認知症の関係について知る講座や、高齢者・認知症の方を対象とした鑑賞会等を実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 取組紹介&美術鑑賞体験会

開催日: 2023年10月25日(水)、29日(日)  
 会場名: 横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ、展示室1  
 募集定員: 各8名  
 参加人数: 15名 参加費: 無料  
 実施内容:

福祉・医療関係者や、高齢者・認知症の方とお出かけを検討されている方等、当事者とのつなぎ手となる方々に取組を知っていただくための体験会。事業の趣旨や2022年度の実践を紹介したのち、対話を用いた美術鑑賞をおこないました。

### 座学

- ①認知症の基礎知識とコミュニケーション
- ②健康で幸せ(ウェルビーイング)になるアートの活動

開催日: ①2023年11月4日(土)  
 ②2023年11月12日(日)  
 会場名: 横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ  
 募集定員: 各30名程度  
 参加人数: ①24名 ②24名 参加費: 無料

- 実施内容:
- ①講師: 上野 優美(横浜市立みなと赤十字病院 看護師長)  
 現場での経験も豊富な看護師を講師に迎え、認知症についての基礎と、認知症の方と接するときのポイントについて学びました。
  - ②講師: 稲庭 彩和子(国立アートリサーチセンター 主任研究員)  
 健康で幸せ(ウェルビーイング)になるアートの活動とはどのようなものなのか、国内外の事例の紹介とともに、アートと認知症の関係についてお話いただきました。

### 「やさしい美術鑑賞会」サポーター養成研修

開催日: 2024年1月12日(金)、16日(火)、17日(水)、19日(金)  
 \*全3日間の研修。1/17,1/19の参加日はどちらかを選択。  
 会場名: 横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ、展示室1他  
 募集定員: 14名程度  
 参加人数: 17名 参加費: 無料  
 実施内容:

講師: 三ツ木紀英(アート・エドゥケーター、NPO ARDA代表理事)  
 基礎的な対話型鑑賞の理論や認知症の方と鑑賞する際のポイントについて学びました。「やさしい美術鑑賞会」当日は、運営サポート及び、参加者と一緒に作品鑑賞を楽しみました。

### やさしい美術鑑賞会

開催日: ①2024年1月17日(水)  
 ②2024年1月19日(金)  
 会場名: 横浜市民ギャラリーあざみ野 アトリエ、展示室1他  
 募集定員: 8組程度  
 参加人数: ①GRASP(若年性認知症通所施設) 26名  
 (うちご家族及び施設スタッフ9名)  
 ②一般1組(2名)、横浜市荏田地域ケアプラザ15名  
 (うちご家族及び施設スタッフ9名)  
 参加費: 無料

- 実施内容:
- おしゃべりをしながら美術鑑賞と施設内のお散歩を楽しみました。
  - アイスブレイク(作品カードを用いた自己紹介)
  - お散歩(展示室やロビー等)
  - じっくり作品鑑賞  
 (対話型鑑賞を応用して複数の作品を鑑賞)
  - お茶タイム(お茶をのみながら雑談の中で振り返り)

## 本事業で得られた【成果】

### 「鑑賞」という選択肢を持ち続けていただくために

市民ギャラリーという場所ならではの多様な作品を約90分のプログラム中で高齢者・認知症の方と一緒に鑑賞しました。当館所蔵のカメラコレクション、横浜美術館のコレクション画像、現代作家による作品、障がいのある方の作品、小学生以下の子どもたちの作品等、技法もモチーフも様々です。特にじっくりと時間をかけて鑑賞した長谷川繁氏の絵画《楽奇異庶虎羅無武流麗ちゃん》は、犬をモチーフとしたシンプルな作品ですが、参加者の思い出ともリンクしやすく、身近な題材に会話が弾んでいました。はじめは緊張されていた参加者も、このプログラムでは何を話しても良いということが徐々に理解され、「いつもは寡黙なのにすごくたくさん話をしていた」「楽しかった!」などの感想がみられました。参加者の中には認知症の中程度から重度の方もいらっしゃり、反応が顕著に表れなくても、普段接しているご家族の方から「きっと楽しんでます」とのお言葉もいただき

ました。また、ご家族の方自身も対話の中に入り楽しまれていました。日常の中に「鑑賞」という選択肢があることで、生活がより楽しく活気のあるものになるように、今後も地域に根差した開かれた施設として何ができるかを考えます。



やさしい美術鑑賞会の様子

### みんなで学びを深め、認知症とともに生きる社会を実現する

当館の所在地である青葉区は、平均寿命が高い地域で、近隣に病院や高齢者支援施設も多くあります。鑑賞会の参加者も主に青葉区の方でした。また、「認知症の人にやさしい街あざみ野実行委員会」という団体もあり、認知症周知の取組も積極的におこなっています。今後ますます増加していく高齢者や認知症の方を支援していくには、支援施設や家庭だけでなく地域全体でサポートしていく必要があります。そのため、当事者の方を対象とした鑑賞のプログラムだけではなく、認知症について一緒に学ぶ機会もつくっています。

当館における認知症に関するプログラムを紹介する講座の実施や、認知症についての基礎を知る講座、認知症とアートとの関係について国内外の事例をお話いただく講座等をおこないました。認知症の方といっても人によって症状が異なるため、その方の気持ちを汲んで接することの重要性や、地域で支えていくための仕組み、事業を継続することの意義

について皆で学びました。少しずつではありますが認知症について地域住民の学びの場になりつつあります。

一人で作品を観たとき「よくわからない」と思っても、誰かと一緒に観たり、知識を得たりすることで視野が広がる可能性があります。歳を重ねていくことや認知症について、一人で考えこんだり全くの無知だったりでは恐れが増すばかりですが、誰かと一緒に学び、自分にできることを実践してみることで不安が希望に変わることもあります。高齢者や認知症に「やさしい」社会をつくるために当館にできることを今後も模索したいと思います。



講座の様子 健康で幸せ(ウェルビーイング)になるアートの活動



サポーター養成研修の様子

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

当財団は横浜市内の複数の文化施設を管理運営しており、美術や音楽、伝統芸能等ジャンルも様々です。共生社会の実現に向けて日々様々な事業に取り組んでいますが、今回は財団の横浜美術館、横浜市民ギャラリー、横浜能楽堂、アーツコミッション・ヨコハマに所属する職員9名がサポーター養成研修に参加し「やさしい美術鑑賞会」でファシリテーターを担いました。研修で得たことを各職場に持ち帰ってすぐに同様のプログラムを実施するのは難しいかもしれませんが、対話型鑑賞を用いたコミュニケーションについて学び、認知症の方と接し一緒に鑑賞を楽しんだことがあるという経験は今後の事業展開に活かされることと思います。

本事業は、芸術家チーム(デフ・パペットシアター・ひとみ/花崎攝)と一般の高齢ろう者が一緒にアート活動に取り組むプロジェクトです。2023年度は、施設利用者と共同での人形劇創作・発表をより発展的な形で実施したに加え、各地の高齢ろう者を対象にこれまでのプロジェクトでの蓄積を活かした普及版ワークショップを実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 施設利用者と共同での人形劇上演

開催日: 2023年7月20日

会場名: 文化フォーラム春日井 多目的ホール

出演者: 18名(聴覚・ろう重複センター桃 利用者)

来場者: 115名(定員120名)/参加費:無料

#### 実施内容:

5月から7月にかけて、芸術家チームが愛知県の聴覚・ろう重複センター桃を訪問。当該施設の利用者 約20名と共に、2時間×16回の人形劇創作ワークショップに取り

り組みました。はじめに、昔話「浦島太郎」に登場する竜宮をもとに、利用者それぞれが過去の思い出や日常の体験と結びつけながら「理想の竜宮」を絵に描きました。その内容を手話や身振りで相互に発表したのち、それぞれの絵を合体させて巨大な「竜宮ガイドマップ」を作成しました。

ガイドマップを参照しつつ、施設利用者と芸術家チームが力を合わせて人形や舞台美術を手づくりし、浦島太郎が竜宮を旅するお芝居の稽古を進めました。

7月20日の本番では、来場者にも縮小したガイドマップを配布。また約60分間の劇のあとには出演者や施設スタッフを交えたアフタートークを実施し、企画背景や創作過程を含めて受け取ってもらえることを目指しました。

### 普及版ワークショップの実施

開催日: 2023年10月~2024年2月(全3回)

会場名: いこいの村 栗の木寮(京都府綾部市)

ももハウス(岡山県岡山市)

田尻苑(福岡県福岡市)

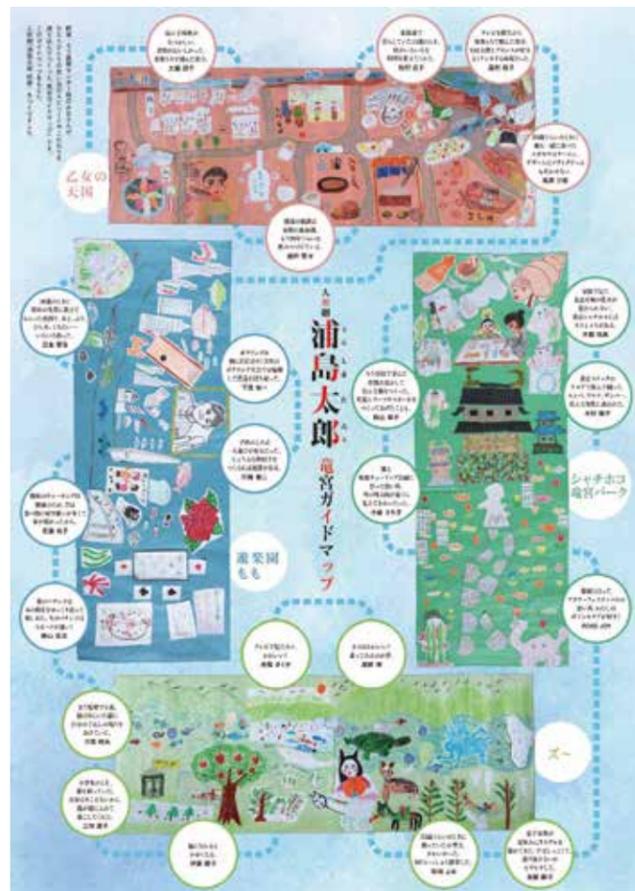
対象: 各施設、サロン活動を利用する高齢のろう者

参加人数: 各回13名~37名

#### 実施内容:

連続ワークショップの蓄積を活かし、高齢のろう者がより気軽に表現活動に取り組むことができ、なおかつ継続的な表現活動の端緒ともなりうるワークショップとして実施しました。最初に、「学校」「仕事」「遊び」などのテーマに沿って思い思いに絵を描くことを通して、各参加者の思い出を掘り下げ、絵に描いた内容を共有しあうことで参加者相互のコミュニケーションに繋がりました。

ワークショップ後半では数人ずつのグループに分かれ、絵の内容に沿った身体表現を考え、グループ同士で発表しあいました。



竜宮ガイドマップ

## 本事業で得られた【成果】

### 高齢ろう者の歴史や生活についての発信

今回、ワークショップで創作した人形劇の上演では、夏休み期間とはいえ平日の日中にもかかわらず100名を超える来場がありました。アフタートークの質疑応答も充実し、アンケートの回収率や回答内容からも来場者の熱量と高い満足感が伺えました。終演後のロビーでの対話やアンケートの回答を通し、聴者の来場者からは「高齢のろう者は遠い世界の存在だと思っていた。この公演で彼らを身近な存在として知ることができた」という声もいただきました。上演中には出演者がアドリブで客席におどけて見せる場面も多々あり、多くの来場者に、出演者への親しみを覚えてもらえたと感じます。

また「家族や知り合いにも見せたかった」「隣県でも実施してほしい」という反応も多く寄せられました。今回の企画中では追加公演のようなことはできなかったものの、より幅広い波及の可能性が感じられました。

なお本公演の内容は撮影し、編集したのちに一般に公開します。



人形劇の様子



人形劇の様子

### 普及版ワークショップを通じた、表現活動へのハードル引き下げ

普及版と称したワークショップの実施は、今年度ではじめての取り組みです。これ自体は1日限りで終わる内容のワークショップですが、参加者や施設スタッフが様々な表現活動に感じるハードルを引き下げることのできる土壌を醸成する狙いがあります。内容的には、絵や身体表現を通して個々の体験談を交換するということが主となります。こうした素朴な取り組みをワークショップという枠組みの中で行うことで、長年の付き合いのある施設スタッフや友人ですら知らなかったその人の側面が明らかになる場面が多く

みられました。参加者の中には手話等の言語的なコミュニケーションが得意でない方もおられましたが、そうした場合には特に、話し手と受け手のみが直線的につながる関係よりも、絵のような視覚情報をいちど介在させることで表現したいことが明確になる効果がありました。ワークショップを実施した施設のスタッフの中にも、こうしたメソッドを応用して表現活動に取り組むことに興味を持たれた方がおられ、まだまだ不完全ではありますが一つのモデルケースとしての役目を担うことができたものと思います。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

今年度の人形劇創作ワークショップを始める前に、題材とする昔話の候補をいくつか、一般的によく知られているものを中心に選定し、施設スタッフを通して参加者に提案しました。

しかし参加者の反応は薄く、施設スタッフによれば「高齢のろう者には、幼少期に言語的なコミュニケーションをとれる環境がなかったために、昔話や民話、聴者でいう口承文芸にあたるものに触れてきていない方が多い。書記日本語が苦手な方も多く、年齢を重ねた今でもほとんどの昔話には馴染みがないのだ」ということでした。

そのような状況で「浦島太郎」を題材に選んだのは、物語やモチーフが魅力的であるというだけでなく、それが比較的多くの方に認知されている物語だったからです。とはいえ実際のところ、「浦島太郎という名前は知っていても中身は知らない」という参加者も多く、ワークショップの初めのうちは毎回、紙芝居「うらしまたろう」の手話による読み語りから始まることとなりました。

これまでは昔話とすこし距離のあった参加者たちが、既存の昔話「浦島太郎」と出会い、それをさらに換骨奪胎することで「わたし(たち)の物語」をつくってゆく、というプロセスに意識的に取り組みました。

精神疾患・精神障害のある人に対する差別・偏見は、日本で未だ無くなることはありません。一方で、4人に1人はうつ病とも言われており、ある意味多くの方が「当事者」であるとも言えます。そのため、広い意味での「当事者」が集い、問題を共有していく場として最も適しているのが、演劇であると考えました。本事業では、演劇を通じて、当事者が抱える問題を社会に提示すると同時に、当事者自身が自尊心を取り戻す場にしたと考え、①演劇創作のワークショップ、②公演+アフタートーク+上映会、③報告会を実施しました。

## 本事業で実施した【内容】

## 演劇ワークショップ

開催日: 2023年4月~8月、計16回  
会場名: 反町地域ケアプラザ(神奈川県横浜市神奈川区)  
対象: 精神疾患・精神障害当事者  
募集定員: 10名程度  
参加人数: 各回10~13名 参加費: 有料  
実施内容:

精神疾患・精神障害当事者一人一人が病気、障害の経験を語り合い、そこで出てきたエピソード、言葉をもとに劇を作っていくためのワークショップを開催。互いの信頼関係を構築していくようなワークや、体を動かしたりするようなゲームなどを重ねていきながら、オリジナルの劇を創作しました。

## 公演+アフタートーク+上映会

開催日: 2023年9月2日(土)  
会場名: シアターねこ(愛媛県松山市緑町)  
対象: 一般市民  
観客数: 75名  
入場料: 1,500円  
実施内容:

精神障害当事者、家族、支援者、一般市民など、さまざまな人たちが観にこられ、満員となりました。上演作品は、精神科病院を舞台に、そこに入院している患者のエピソードや思いが、ラップ、コント、演技でつづられていく構成。ワークショップに参加しているメンバーの実体験をベースに作られた作品は、障害当事者の思いだけでなく、日本の精神医療が抱えている構造的な問題も透けて見えるものに仕上がりました。上演後のアフタートークでは、出演者と観客が意見交換するような形で実施。その後の上映会では、令和4年のOUTBACKアクトーズスクールの活動を追ったドキュメンタリー映画「わたしを演じる私たち(仮)」(飯田基晴監督)を上映。

OUTBACKにはどんな背景(障害)を持った人たちが参加し、どんな思いを持って参加しているのかなど、はじめての人々に活動内容がわかりやすく伝わったと思われます。



「愛と変容についてのラップバトル」(松山公演)①/撮影・佐藤光展

## 本事業で得られた【成果】

## 精神障害当事者を取り巻く様々な困難・問題をユーモアをもって提示

精神疾患、精神障害というと、シリアスに捉えすぎのあまり、簡単には語ってはいけない、触れてはいけない話題として考えられがちです。実際、ワークショップをやっている中では、他人には言いづらいこと、表現しづかったことなど、シリアスな話題について当事者同士たくさん意見を交換しながら演劇づくりをしてきました。そのような中で、「ラップ」という手法を取り入れたことで、そこにリズム感が生まれ、

跳躍力を得ることで、ユーモア、笑いに転化しながら、自分自身と問題との距離を置く手段を得ることができました。結果として、観客に対しては当事者の抱える問題を普遍的なテーマとして提示することができ、観客からも、「当事者、非当事者関係なく楽しむことができた、考えさせられた」などといった感想をもらうことができました。



「愛と変容についてのラップバトル」(松山公演)②/撮影・佐藤光展



「愛と変容についてのラップバトル」(松山公演)③/撮影・佐藤光展

## 地域を超えて当事者たちがエンパワーメントされていく

精神疾患・精神障害当事者にとって、新しいことに会ったり、挑戦したりすることは、病気の症状、経済的な理由を含め、容易なことではありません。そのため、狭いコミュニティの中で過ごさざるを得ない現状があります。そのような中で、当事者が遠方に出かけ、他地域の当事者に出会い、交流できたことは、訪れた松山の当事者の人たちには大きな希望、ロールモデルを提示できたと考えています。実際、公演前に実施した交流会や公演でのアンケートでは、「自分

もやってみたい、横浜へ行ってみたい、何かできるかもしれない」といった非常に前向きな感想を多く聞くことができました。また、シアターねこが実施している事業に関わる人からも、次年度以降一緒に何かできればという希望の声も聞くことができ、検討していきたいと考えています。また、松山以外の他地域の福祉団体からも公演依頼が来ており、精神保健福祉の領域に風穴を開けることに貢献でき始めていると感じています。

## POINT

## 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

プロジェクトに関わる全ての人(障害のあるなし関係なく)対等な関係、信頼関係を築くことが、精神疾患・精神障害のある当事者と表現活動を行う上で非常に重要であると考えています。精神疾患・精神障害のある当事者たちは、どこにどのような困難を抱えているか、他の障害に比べてわかりづらい側面があります。だからこそ、当事者、非当事者関係なく、全員が対等に丁寧に対話を重ねることで、安心安全な場をつくることを心掛けました。そのことは、表現のあり様にも直接つながることだと考えています。また、「当事者」という言葉の示す意味について問い続けることが重要であると思っています。「当事者」であることを尊重するあまり、「当事者/非当事者」という二項対立にとらわれてしまう危険性があります。「当事者」個人としての経験は絶対的なものであり、そのことに敬意を忘れないこともとても大切なことです。が、一方で「当事者」という言葉の範囲を時に広げながら、誰が何の当事者であるかを常に問い続けていくことが重要であると考えています。そのことが、生み出された表現、作品が障害当事者自身だけのものではなく、そこから遠くにいる人たちにも伝わるものになっていくのではないかと考えています。

特定非営利活動法人若狭美&Bネット 所在地 福井県三方上中郡若狭町  
団体URL: <http://wakasa-monozukuri.net/> 事業URL: <http://gallery-kumagawa.main.jp/>

本事業は、障がい者の生活に潤いと生きがいを与える障がい者アートの活動の制作拠点「若狭ものづくり美学舎きらりアート部」活動を全県的に拡充させ、障がい者アート制作活動支援に取り組みます。第14回福井県障がい児・者アート作品公募展「きらりアート展」は、若狭町社会福祉協議会と手をとり合って開催しました。熊川宿若狭美術館では、障がい者アート、子ども美術、現代美術を同時同列に展示する企画展を5回開催し、真の共生社会実現を目指すメッセージを発信し続けます。

## 本事業で実施した【内容】

### 「若狭ものづくり美学舎きらりアート部」の障がい者アート制作活動支援の拡充

開催日：2023年4月～2024年3月

会場名／利用者数：

- 若狭ものづくり美学舎きらりアート部(若狭町)利用者16名
- 若狭ものづくり美学舎きらりアート部サテライト春江アトリエ(坂井市)利用者6名
- 若狭ものづくり美学舎きらりアート部サテライトピーぷるファンアトリエ(越前市)利用者12名
- 若狭ものづくり美学舎きらりアート部サテライト一陽会アトリエ(越前市)利用者7名

計41名が利用し、全県的に活動が拡充してきています。参加費は1回500円

### 第14回福井県障がい児・者アート作品公募展「きらりアート展」の充実

開催日：2023年9月～2024年3月

会場名：パレア若狭ギャラリー(若狭町)、熊川宿若狭美術館(若狭町)、福井県立美術館(福井市)なびあす(美浜町)、ネットヨタ福井・産業会館(福井市、越前市)、福井県庁ロビー(福井市)

応募者：225人(225点)

観客数：約2,500人(パレア若狭ギャラリー)、2,110人(まるまるつながるアートてんまる展、県立美術館)、他の移動展は不明。

実施内容：

作品搬入：9月8日～10日 審査：9月14日

展示：10月12日～23日 ～若狭町主催「福祉と文化の祭典」と連携して実施

表彰式・講評会：10月15日 ～作品集発行

### 熊川宿若狭美術館企画展

開催日：2023年4月～2024年3月末日

会場名：熊川宿若狭美術館(若狭町)

観客数：1回(2,400名)、2回(3,100名)、3回(1,320名) 4回(985名)、5回(831名)

実施内容：

熊川宿若狭美術館は、障がい者アート、子ども美術、現代美術を同時同列に展示する企画展を開催し、真の共生社会実現を目指すメッセージを発信し続けました。

1回：4月28日～6月26日

主に「きらりアート5人展」

2回：7月16日～9月16日

主に、現代美術「東極の磁場 in WAKASA 2023展」、障がい者アート「杉田優子展」

3回：11月23日～12月24日

主に、きらりアート「第14回きらりアート展入賞作品選抜展」、12月23日、若狭ものづくり美学舎きらりアート部、サテライトアトリエ利用者研修会および指導者・サポーターの研修会を実施。

4回：1月27日～2月25日

主に「きらりアート&子どもアート展」

5回：3月2日～3月25日

主に「子どもアート展」、「若狭ものづくり美学舎展」



## 本事業で得られた【成果】

### 障がい者アート制作活動支援の拡充

障がい者アート制作活動支援に取り組む「若狭ものづくり美学舎きらりアート部」の利用者は41名。多くの利用者の所属事業所から、美術作品制作に取り組むことによって、作業を頑張るようになったとの多くの声が寄せられています。これは、美術作品制作によって、生活に潤いと生きがいを得ていると考えられます。また、制作した作品の多くが、第14回福井

県障がい児・者アート作品公募展「きらりアート展」での入賞、熊川宿若狭美術館での企画展示、福井県立美術館での「まるまるつながるアートてんまる」展での展示などによって、誇らしい気持ちと心を高揚させています。そのような利用者の姿を見て、サテライトアトリエ開設の要望が他地区から寄せられています。

### 第14回福井県障がい児・者アート作品公募展「きらりアート展」の充実

福井県障がい者アート公募展「きらりアート展」を若狭町主催「福祉と文化の祭典」と連携して、若狭町社会福祉協議会と手をとり合って開催し225名が出品。展示会とともに表彰式・講評会を開催し障がい者アートの理解を広げ深めることが出来ました。熊川

宿若狭美術館(「入賞作品選抜展」、県立美術館(「まるまるつながるアートてんまる」)に出品)を好評のうちを終了。現在、美浜なびあす展を開催中。今後、ネットヨタ福井、県庁ロビー、と移動展を開催します。

### 熊川宿若狭美術館企画展が県主催の大きな展覧会に発展

熊川宿若狭美術館は、障がい者アート、子ども美術、現代美術を同時同列に展示する企画展を5回開催し、真の共生社会実現を目指すメッセージを発信し続けています。企画展に合わせ、講師を招きギャラリートークを行い、障がい者アート等の理解を深めるとともに、支援・指導者やサポーターの資質向上につなげることができました。今年度は福井県主催

で「まるまるつながるアートてんまる」展が福井県立美術館で大々的に開催されました。当法人が委託を受け、準備、展示を行い、全国初となるコラボ展が実現。障がい者アートは、富山、石川、福井の3県の作品182点を展示。展示総数は382点で新聞、テレビで報道され、2,110名の来場者を迎えました。

### 個性豊かな作品を求めての指導者・サポーターの資質向上

『きらりアーカイブ管理台帳』を活かした研修会、当美術館展覧会時のギャラリートーク等の研修会や県外指導者との交流研修会などが効果を発揮して、本校及びサテライトアトリエの指導者・サポーターが

多様な障がい者アートの理解を深め資質向上が図られました。その結果、利用者に寄り添い、主体性を尊重した支援・指導姿勢が確立されました。

### きらりアート作品のコレクターを増やす

当法人内の「きらりアート推進協議会」が核となって、熊川宿若狭美術館での展示作品や「まるまるつながるアートてんまる」に展示された県内外の障がい者

アート作品などをもとに、「障がい者アート作品を我が家の玄関に」をキャッチフレーズにコレクションの輪を広げています。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

当法人は不登校、ひきこもり対応の適応指導教室(フリースクール)、高等部(通信制高等学校)、幼児から40歳過ぎの方を対象としたサポートセンター(居場所づくり)、幼児から高齢者までが学び合う各種美術講座、障がい者アート活動を支援するきらりアート部、障がい者就労継続支援B型事業所(若狭ものづくり美学舎きらり)、熊川宿若狭美術館、熊川宿若狭美術館併設カフェ(ガレットKirari)を運営しています。このように教育、福祉、芸術・文化を連携させてそれぞれの活動を補完させながら活性化を図っています。障がい者アート活動を支援・指導し、生み出された作品を美術館に展示、併設カフェや県の施設(東京)にも展示、これらの作品をコレクター運動につなぐなどすべてを連携して取り組むために大きな成果を上げることが出来ます。このような教育、福祉、芸術・文化を連携させる当法人の取り組みは、現代の社会の要請に応え、地域社会や町、県の行政からの期待も大きく、多方面からの応援の眼差しがあります。

団体名 医療法人社団オレンジ 所在地 福井県福井市  
団体URL: <https://orangeclinic.jp/> 事業URL: <https://hotch-pr.com/n/n54c8d464fe2a?gs=6c78cb465ce1>

事業概要 本事業は、長野県軽井沢町で医療福祉・アート・まちづくり活動を組み合わせた事業を展開する「ほっちのロッヂ」と、長野県松本市を拠点に活動する芸術団体「ジャグリング・ドット信州(JDS)」が連携し、医療的ケア児や重度心身障害児者が参加するソーシャルサーカスプログラムに取り組みました。サーカスは、美術・音楽・舞踊・演劇などの芸術要素を持ち、多様な人が参加しやすくなります。また多様な参加者にアプローチし、ケアとアートの相乗効果について考える連続講座を行いました。

## 本事業で実施した【内容】

### プレイベント「気球とエアリアルで空とぶ体験!」

開催日: (1回目) 2023年5月20日  
(2回目) 2023年10月9日  
会場名: (軽井沢町) 軽井沢72ゴルフ北コース向かい広場  
(安曇野市) 安曇野市立豊科北小学校  
対象: 県内外に在住のあらゆる年齢、状態の方  
募集定員: 気球搭乗体験: 各100組程度  
エアリアル体験: 各10組20名(全3回)  
参加人数: 軽井沢: 約150名、エアリアル体験16組41名  
安曇野: 悪天候により気球搭乗体験中止、エアリアル体験のみ9組37名(応募67組203名)

#### 実施内容:

障害の有無に関わらず誰もがはじめての「空とぶ体験」として、気球搭乗体験と空中芸エアリアル体験を実施。天候条件が合わず気球搭乗体験は2回とも見送りとなりましたが、県内外の様々な年齢・状態の参加者が混ざり合うインクルーシブな空間となりました。



軽井沢で行われたプレイベントの様子



安曇野で行われたプレイベントの様子

### ムーンナイトサーカス2023

開催日: (オーディション)  
2023年7月1日～2023年7月2日  
(サーカス公演)  
佐久会場: 2023年12月9日  
松本会場: 2023年12月22日～2023年12月24日  
会場名: 佐久会場: 交流文化館浅科 穂の香ホール  
松本会場: 信毎メディアガーデン  
対象: 決められた期間稽古に参加でき、障害や病気・医療的ケアと共に生きている、またはそうした人との活動に興味と共感を持っている個人。年齢・パフォーマンススキル不問。  
参加人数: オーディション: 14名 公演: 12名  
公演動員数: 佐久公演288名(全1回)、  
松本公演630名(全4回)  
参加費: オーディション: 5,000円/人  
公演: 大人3,500円、25歳以下2,500円、  
15歳以下・障害者手帳をお持ちの方と介助の方1名まで1,500円

#### 実施内容:

東京2020パラリンピック開閉会式のキャストが、一般公募オーディションで選ばれた「つながるキャスト」と共に創るサーカス公演を実施しました。



ワークショップ形式でのオーディション



ムーンナイトサーカス佐久公演にて空中芸に挑戦する医療的ケア児

## 本事業で得られた【成果】

### 障害の有無や程度に関わらず誰もが参加できるイベント空間の実現と、ケア従事者の協働による相乗効果

現在の日本では、障害の有無や程度によって学校や地域、制度の中で生活圏や暮らしのあり方が分かれてしまい、インクルーシブな社会イメージが共有されません。本事業では、プレイベントや公演づくりの過程で参加者同士が同じ挑戦や成功体験、好きなことを共有しながら、障害の有無や程度に関わらず自発的にコミュニケーションをとる関係性が生まれていきました。こうした成果の背景には、参加者の得意なことや個性を生かしながら演出を行うアーティストの世界観やスキル、人間性が大きく関係しており、自由度や即興性の高い企画運営で誰もがのびのびと表現を楽しむことができました。サーカス公演を共にしたキャストの家族からは「稽古当初はお互いに遠慮していて見えない壁があるように感じたが、稽古を進めるにつれ、その壁が薄くなっていくのを感じました。もっとお互いに関心を持ち、最初から遠慮せずに接して良かったのだと気づきました」「できない

ことがあっても、その人ができることを生かせるように工夫して、難しいところを支えてあげればこんなにも楽しく生き生きと活動できるということを実感しました」といった感想が寄せられ、参加者の今後の実生活にも生きるインクルーシブな視点や姿勢が継承されました。

イベント運営や稽古に医療従事者が参加したことにも大きな相乗効果を感じられました。例えば、人間ピラミッドの上段に登る障害のあるアーティストを怪我なく姿勢保持できるかについて理学療法士が助言を行ったり、エアリアルティシュー（布状の吊り具）と車いすの移乗に介護士のスキルが生かされたりしました。また、日頃から障害のあるキャストと接しているケアスタッフが稽古に同席することで、キャストが稽古場で実践したことを日常のケアに取り入れることができ、パフォーマンスだけでなく本人の日常動作の向上にもつながりました。

### 分野横断的な知見の交換とネットワークの広がり

ケアとアートの相乗効果について考える連続講座では、毎回、文化芸術分野から1名、医療福祉・保育・教育分野から1名のゲストを招き、それぞれの現場での課題や取り組みをもとに、互いの分野に共通する視点を見出すディスカッションを行いました。結果として、言葉を介さないコミュニケーション方法や、アクセシビリティを高めるためにより広く共有されるべき専門知識、医療的安全性とクリエイティブ活動の自由度のバランスについてなど、示唆に富む議論が繰り広げられました。

今後はこうした議論の成果を出版物やウェブ記録として公開し、分野横断的な取り組みを行う諸団体・個人の参考に資する文献としていきます。また、ガス

トおよびイベント参加者とのネットワークをさらに発展させ、共同企画や情報交換のプラットフォームを構築していきたいと考えます。



視覚障害者のキャストが土台となり、体幹を生かした新しいスキルを発見した

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

本事業では、参加者の属性を障害の有無や程度で区切らず、オープンスペースや文化施設で実施するよう心がけ、地域に生活する様々な住民が顔を合わせ、インクルーシブな社会イメージが具体的に体験できるように心がけました。

また、一般向けの広報物では属性を強調する言い回し（「障害者」「医療的ケア児」など）をなるべく言い換えるように努め（「あらゆる年齢、状態の方」など）、アクセシビリティに関する情報やサポートを充実させました。より多くのサポートを必要とし、参加決定に時間や下準備を要する当事者にはいち早く情報を届けるよう努め、イベント参加を決めるまでの意思決定を支援しました。

医療福祉現場のスタッフからは、日々のケアにおいて大切にしている姿勢についてヒアリングを行い、必要に応じてアーティストに伝えるようにしました。また、安全性を確保するため衣装や小道具設計に福祉用具設計者の知見も取り入れつつも、アーティストならではの創造性を医療的判断が妨げないよう、演出面の説得は制作担当者が橋渡ししました。

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ 所在地 静岡県浜松市  
団体URL: <http://cslets.net>

2016年から当法人が提唱する「表現未満、」は一人一人にある自分を表す行為を「表現」ととらえ大切にしていって文化を育てることを提唱しました。これは人の存在そのものを認めていく活動です。当法人は静岡県浜松市において、「表現未満、」を軸とした文化活動によってつながる新しいコミュニティ形成を目指しています。コロナ禍後、新しい価値観や生き方が求められている中で、今年度は、新しい価値創造を目的とした思考と学びと実践と拠点づくり(表現未満、センター構想)の実験を行いました。

## 本事業で実施した【内容】

### 表現未満、センター試行実験

開催日: 2023年5月～2024年2月

会場名: 浜松市内

実施内容:

昨年度に引き続き、浜松市中心市街地に「ちまた公民館」を継続して運営しながら、近隣の協働センターに毎週「出張ちまた公民館」として実施し、多様な人がともにいる場の実験を行いました。

- ちまた公民館の実験事業(4月～3月)
- 出張ちまた公民館(浜松市中部協働センター10月～3月 28回、フェス等に出店3回、月平均200名来場。【東京】ヒカリエ1回 合計27回)
- ちまた公民館縁日・イベント(縁日1回、浜松国際交流協会共催イベント12月～3月計5回)1回30名×20回 600名
- 新春ちまたスクール(1月～2月)(地元アーティストとコラボレーション)3講座×8名定員 24名
- ちまたトーク(8月～2月)(文化、教育、ビジネス、子育て、福祉、ジェンダー、街づくり、産業、農業、など。計20回)400名参加
- 地域と仲良くなる!お祭りごっこ～みんなでつくる凸凹まつり!(10月13～14日)

### 人材育成・ラーニングプログラムと派遣事業

開催日: 2023年5月～2024年3月

教育関係者プログラム(7月～12月)、学生プログラム(8月)、福祉関係者プログラム(12月～)、ビジネスパーソンプログラム(浜松市)(12月～)、文化関連関係者プログラム(2月～)

会場名: たけし文化センター連尺町、ちまた公民館、オンライン

参加人数: 教育関係者70名、学生6名、福祉関係者20名、ビジネスパーソン40名(12月)、公開シンポジウム30名、ツアー10名(3月)、文化関係者10名

#### ■派遣事業(かしだしたけし)

開催日: 2023年5月～12月

参加人数: 京都大学:参加者50名、その他大学:90名×3回 出張者10名×3回、市内中学校2校:125名 出張者55名、市内小学校:参加者200名×10回 出張者20名×10回

実施内容:

共生社会を担う人材を育てるためのラーニングプログラム開発を、教育関係者、学生、福祉関係者、ビジネスパーソン、文化関係者、5職種を対象に、それぞれの関係団体とともにプログラム開発と実践を行いました。また、重度知的障害者が各所に出張し、それぞれの現場で共生社会について共に考える場をつくり出す「かしだしたけし」を、大学4回、中学校2回、小学校10回を実施しました。



学校関連団体と協働で制作したプロモーション映像



京都大学と行った「かしだしたけし」(派遣事業)

## 本事業で得られた【成果】

### 『表現未満、』の活動を通して、文化活動でつながる「新しいコミュニティ」の形が見えてきた

その人がその人らしくそこにいることを全肯定することを推奨する「表現未満、」を軸とした場づくり(ちまた公民館)を街に実装したことで、子どもから大人まで、多様な人が集い、交流することにつながり形成されていきました。また、講座、イベントとともに、利用する人自ら発する表現活動、モノづくりが生まれ、それによって主体的に事業にかかわる人の輪が広がってきたことも、大きな成果です。地域住民と協働で作上げる「凸凹まつり」は、障害者も健常者も協働で作業を行うことで、同じ時間を共有し、顔見知りになるところから始めました。そもそも中心市街地は住民の減少など地縁や自治活動が希薄で孤立しがちで、同時に、他の地域から流入してくる人も多くいます。そのため、安心して人とつながる居場所を求めて参加する人が多く、今後も継続させていく必

要があります。これは同時に、文化活動を通して形成されていく新しいコミュニティのかたちが見えてくる可能性があります。

今年度の事業では、積極的に街にある公共施設や公共空間に出張することによって(出張ちまた公民館)、いままでない出会いが生まれました。(外国人、ビジネスマン、公民館関係者、子供、高齢者などとその団体)、そうした団体と新しい事業が続々と誕生していることも大きな成果です。



地域住民と多様な人びとと協働で行った凸凹まつりの様子



公共施設(クリエート浜松)で毎週1回実施している出張ちまた公民館

### 重度知的障害者とともにいることが双方向の学びや思考の機会をつくり出す

本事業では重度知的障害者がいる現場(たけし文化センター連尺町)に全国から一般の人々(教育者、学生、福祉関係者、ビジネスマン、文化関係者)が滞在し、重度知的障害者と過ごすことで多くの気づきと対話の機会が生まれました。同時に、ほとんどの人々が重度知的障害者に会ったことも触れあったこともない現実も浮き彫りになりました。本事業の「直接出会う機会を設け、そこから自分との差異や共生について思考する機会を提供する」といったプログラムは、共生社会の実体を肌で感じ、自分事としてとらえる機会となりました。

派遣事業では、障害を知らない、興味のない、若い世代を対象としたことで、お互いがお互いの存在を知り、今までとは全く違う学びを実体験する機会となりました。継続して学校側からオファーがあるなど、さらなる展開がみられています。

#### 事業全体を通して

ほとんどの人たちは重度知的障害者と出会ったこと、交流したことがありません。それは教育の問題、社会構造の問題が大きいのですが、昨今の障害福祉

の発達によってその棲み分けはますます進んでいることも影響していると考えられます。多様な人が交流する場は公共施設や事業として行われていますがその中に重度知的障害者が包括されることはほとんどありません。これでは共生社会の実現は本当に難しいと言わざるを得ません。

本事業では浜松市の中心市街地を拠点として、文化活動を通して多様な人びとと交流し、新たなコミュニティづくりのために、まず地域住民と文化プログラムを通して交流する機会を創り出しました。公共施設や大学等にも出かけ、共生社会を思考し、学び合い、対話する機会を設けていきました。

コロナ禍後、人々が新しいつながりや生きがい、幸せの在り方を思考している中で、「表現未満、」を軸とした活動は、自己肯定感の獲得や安心できる場づくりなどに期待と関心が集まっています。重度知的障害者をはじめ、社会的に距離をとられている人々、生きづらさを抱えている人々を包括する方法としての「表現未満、」のような文化活動が徐々に理解されていると感じています。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

本事業の大きな特徴は、重度知的障害者の障害福祉施設を運営する当法人が核となり行っていることです。重度知的障害者との日常の営みの中で獲得されていく、ともにいる場の作り方や考え方、学び合いの精神を、「表現未満、」という文化的思考をもとに組み立て、事業化しました。この事業を通して、多様な人がともにいる社会を思考し、それぞれの存在の肯定、自己肯定感の獲得、居場所づくり、さらには文化によるコミュニティづくりへと進めています。地域に必ず一つはある障害者施設、福祉施設がこうした文化的な手法を用いながら、多様な人を包括し、居場所となり、活動の場所となれば、日本の社会状況は大きく変わっていく可能性があります。

障害児者の音楽教育を目的とした滋賀大学教育学部の附属センターとして、特別支援学校・特別支援学級を対象とした音楽のオーダーメイド・アウトリーチを実施しました。学校や参加者の希望に寄り添ったプログラムを制作・派遣しています。また、音楽や特別支援学級の教員を対象とした研修会も実施し、障害の有無にかかわらず、みんなで楽しめる音楽の授業づくりについて、学びの機会を提供。2023年度は、オーダーメイド・アウトリーチと教員研修会で、約1,300名の子どもたちや教職員に音楽をお届けしました。

## 本事業で実施した【内容】

### 特別支援学校・特別支援学級への オーダーメイド・アウトリーチ（音楽）

#### 開催日・学校名・参加者数：

- ①7月11日 滋賀大学教育学部附属特別支援学校(96名)
- ②7月14日 大津市立瀬田南小学校(61名)
- ③9月25日 大津市立南郷小学校(42名)
- ④9月26日 滋賀県立三雲養護学校(211名)
- ⑤9月28日 滋賀県立八日市養護学校(211名)
- ⑥10月5日 草津市立志津小学校(60名)
- ⑦10月17日 草津市立笠縫小学校(45名)
- ⑧10月27日 草津市立渋川小学校(38名)
- ⑨11月9日 滋賀県立新旭養護学校(70名)
- ⑩11月17日 滋賀県立聾話学校(56名)
- ⑪12月4日 大津市立瀬田北小学校・大津市立瀬田北中学校(45名)
- ⑫12月12日 大津市立堅田中学校・大津市立唐崎中学校(32名)
- ⑬1月15日 大津市立藤尾小学校(160名)
- ⑭1月22日 草津市立矢倉小学校(34名)
- ⑮1月30日 大津市立志賀小学校(48名)
- ⑯2月15日 滋賀県立盲学校(24名)

#### 実施内容：

滋賀県内の特別支援学校と、滋賀県大津市と草津市の小中学校の特別支援学級を対象に公募し、18校(共同開催もあるため全部で16回実施)にオーダーメイド・アウトリーチを派遣しました。学校とは事前に丁寧な打ち合わせを行い、ニーズや希望に沿ったプログラムを制作していることが特徴です。打楽器や鍵盤ハーモニカによるコンサートや和楽器のコンサートなど、内容は学校が選択できるようにしています。リクエスト曲以外はある程度プログラムが決まっているセミオーダーメイドと、子どもの実態に合わせて全てを作り上げるフルオーダーメイドのプログラムがあります。聾話学校と盲学校ではフルオーダーメイドのプログラムを実施しました。

例えば、聾話学校では視覚や振動で音を感じ取れるように、盲学校では楽器にさわって手からも情報を得られるように、ニーズに沿ったプログラムを提供しています。

### 教員研修会

#### 開催日・対象・参加者数：

- ①7月24日 大津市領域部会 小学校音楽部会 特別支援領域部会(50名)
- ②2月5日 京都市音楽教育研究会総合育成支援教育部会(13名)

#### 実施内容：

滋賀県大津市と京都府京都市の教員研究会と連携して、特別支援教育に豊富な経験を持つ音楽専科の教員と音楽療法士による実践的な研修を実施しました。



みんなでボディパーカッション！



演奏者と近い距離で音楽に聴き入る

## 本事業で得られた【成果】

### 多様なニーズや希望に対応するオーダーメイド・アウトリーチ

特別支援学校・特別支援学級を対象に実施したオーダーメイド・アウトリーチとは、対象者の障害や発達を考慮するだけでなく、ニーズや希望に寄り添ったアウトリーチです。例えば、盲学校の子もたちには、楽器にさわって、材質や構造を確かめ、音を出してみることができるように、聾話学校では手話歌やボディーパーカッションなどを用いて、視覚や響きで音を感じ取れるように、各学校のニーズや希望をもとに、教師と演奏者とセンター教員が時間をかけて打ち合わせをし、プログラムを作り上げることが特徴です。音楽のジャンル、演奏者、内容を一から作り上げるフルオーダーメイド・プログラムと、演奏者や内容がある程度決まっていたり、リクエスト曲などで学校の希望に対応するセミオーダーメイド・プログラムがあります。セミオーダーの場合も、子どもたちの状況や学校の希望を丁寧に聞き取って、学校全体で扱っている曲を入れてみんなで歌ったり、演奏したりしています。自由に表現できる空気を大切にしており、曲に合わせて好きなように指揮をしたり、踊ったり、歌ったりする子どももよく見られます。演奏に合わせて、教師の手を取って教室の真ん中でダンスをした生徒もいました。大きな動きではなくても、教師が小さな表情の動きや変化を感じ取ることもあります。子どもが音楽に浸る姿に出会う時、音楽を真ん中に周囲の人々も幸せな気持ちを共有することができ

ます。

障害児者の音楽教育を目的とした大学教育学部附属センターが、地域の学校の実態に合わせたアウトリーチを派遣する体制は、大学の知的・人的資源を活用して、音楽を普及するひとつのモデルとなり得ると考えます。アウトリーチの手法や子どもの反応など、具体的な研究成果については、論文や報告書などで広く社会に公表していきます。



教師と踊り出した生徒



聾話学校でのコラボ演奏

### 障害のある子どもへの音楽教育について学べる教員研修会

教員養成大学がもつ教員研修の経験や教員研究会とのつながりを活かして、滋賀県大津市と京都府京都市で、音楽や特別支援学級の教員を対象に研修会を実施しました。特別支援学級の子どもたちへの音楽教育については、現場の教員もどこで学んだらよいかかわからないという切実な声があり、特別支援教育に豊富な経験を持つ音楽専科の教員と、音楽療法士による実践的な授業の手立てについて研修を実施したところ、大変好評でした。日々多くの子どもたちと接する教員に研修の機会を提供することによって、障害のある子どもたちへの音楽教育の波及効果が期待できると考えます。



音楽療法士による教員研修

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

教員養成大学の知的・人的資源を活用して、音楽アウトリーチ研究の第一人者の研究成果を活かしたアウトリーチ、地域の学校とのつながりを活かした教員研修を実施しました。教師への徹底した聞き取りと打ち合わせで、参加者の希望に寄り添うオーダーメイド・アウトリーチでは、内容、演奏者など、全てを作り上げるフルオーダーメイドに加え、リクエスト曲などでカスタマイズするセミオーダーメイドで、より多くの子どもたちに普及できるよう工夫しています。

本事業は、公立美術館における障害者等の関わる文化芸術活動(発表、鑑賞)に関する多面的な手法を大きく発展させ、積極的に活動に取り組める状況を創出することを目指しています。公立美術館の学芸員、教育・普及担当員等の職員、アーティスト、現代美術のキュレーターらとともにその基盤を作ることを目的とし、カンファレンス(交流・共有・学びの場づくり)、リサーチ、パイロット事業、未来の美術館構想講座、アーカイビングに取り組んでいます。

## 本事業で実施した【内容】

### カンファレンス

開催日: 第1・2回 2023年11月23日(木・祝)、  
第4・5回 2023年12月23日(土)

会場名: HAPS HOUSE(京都府京都市)他

参加者: 尺戸智佳子氏(黒部市美術館学芸員)、藤川悠氏(茅ヶ崎市美術館学芸員)、中尾智路氏(福岡アジア美術館学芸員)、河原功也氏(東京都現代美術館文化共生課(渋谷公園通りギャラリー)学芸員)、渡辺亜由美氏(京都国立近代美術館学芸課特定研究員)

ゲスト講師: 新澤克憲氏(ハーモニー施設長)、田中みわ子氏(東日本国際大学健康福祉学部教授)

#### 実施内容:

公立美術館の学芸員及び教育・普及担当者等が、交流や学び、相互の働きかけを通して障害者等の関わる文化芸術活動についての経験、知識等を蓄積する機会とする全4回の研究会を実施しました。

### リサーチ

リサーチ先: 京都国立近代美術館、京都市京セラ美術館、滋賀県立美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館、国立国際美術館、一宮市三岸節子記念美術館、広島市現代美術館

#### 実施内容:

リサーチが全国8館の公立の美術館に出向いて担当者にインタビューし、質的調査を行った成果をレポートとしてまとめ、1冊の報告書としました。

### アーカイビング

事業全体を包括するデジタルアーカイブを設計し、事業データベースを関係者間で適切かつ効果的に記録、管理できる仕組みを作り、将来的にも有効な資料を保存することを目指しています。今後、公開可能な資料については、慎重に検討を重ねたうえで公開していきます。

### パイロット事業

展覧会: 「君のための絵」  
(キュレーションを公平に拡張する vol.2)

会期: 2024年1月13日(土)~2月12日(月・祝)の  
金・土・日・祝日12:00~18:00

会場名: HAPS HOUSE(京都府京都市) 入場料: 無料

ゲストキュレーター: 藪前知子(東京都現代美術館 学芸員)

#### 実施内容:

現代美術、とりわけキュレーションの諸実践を通して、障害のある人が関わる文化芸術活動を拡張する基盤をつくる先駆的な取り組みとして、ゲストキュレーターに東京都現代美術館学芸員の藪前知子氏を招聘し、阿部美幸氏、田湯加那子氏の二人展を開催しました。開幕初日には画家でアイドル愛好家の松村早希子氏をゲストに、ファンアート、コンテンポラリーアート、オール・ブリュットの境界について考えるトークイベントを開催し、その様子をアーカイブ公開しています。

### 未来の美術館構想講座

「ももぞする現場2—芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワークづくりのためのアセンブリー」

開催日: 2023年10月13日(金)、27日(金)、11月3日(金・祝)、10日(金)、24日(金)、12月8日(金)、22日(金)、2024年1月12日(金) (全8回)

会場名: 京都市立芸術大学 カフェ・commons

ゲスト講師: 中村美亜(九州大学大学院芸術工学院未来共生デザイン部門 教授)

竹久侑(水戸芸術館・現代美術センター 芸術監督)

## 本事業で得られた【成果】

### 学芸員同士の交流・共有・学びの場づくりとしてのカンファレンス

全国各地の公立の美術館で展覧会や教育普及を担当する研究員の方々5名を迎え、全4回のカンファレンス(研究会)を実施しました。障害のある人の文化芸術活動(発表・鑑賞)を巡り、参加者それぞれの経験や考えを振り返ることから始め、ゲストを招いた回では、「(障害のある人との)合意形成」「合理的配

慮」をテーマにレクチャーと参加者の各館の事例や実践の共有など、時間をかけて意見交換を重ねることができました。ゲストも参加者も、それぞれ試行錯誤の過程にあり、それらが共有される機会が継続的に必要であることがわかりました。

### 美術館の敷居を低くするための取り組みに関するリサーチ

美術館と障害者等の芸術の関係について、リサーチが8館の公立の美術館に出向いて担当者にインタビューしレポートをまとめ、質的調査をしました。美術館を利用しづらい人々のアクセシビリティを高める取り組みのほか、そこから生まれた新たな企画など、極めて多様な活動の実態が明らかとなりました。

今後、昨年度の12館と合わせ20館分の調査内容を取りまとめて出版しその成果を広めていきます。



広島市現代美術館にて訪問調査  
(2023年12月1日) 撮影: 中川真

### 現代美術を専門とする学芸員が障害者アートを手がけることで見えてくること

今年度は東京都現代美術館学芸員の藪前知子氏に担当いただき、「君のための絵」展を開催しました。プロジェクト型の作品やパフォーマンスを含む作品、アーカイブの展示など現代美術を専門とする学芸員は従来の展覧会制作にかかる業務を拡張してきたと言えます。彼らの知見を実際の障害のある人の現場と接合し、新しい展覧会のあり方を探る試みとなりました。また、従来通りにはいかない作家との交渉について、展示の決定をキュレーターの専断事項とする際のルールや倫理についての問題が提起され、作品だけではなく、そういった背景までも鑑賞できる非常

に有意義な展覧会を開催することができました。



「君のための絵」展示風景  
撮影: 守屋友樹



### 美術館の未来について語り合う未来の美術館構想講座

美術館のあり方が大きな分かれ道にあるとも言われるいま、芸術と障害という問題意識をベースにしながら、美術館の未来について語り合いました。2回のゲストによるレクチャーを挟みながら、話し合いは延々と続き、最後にみんなの思いを一つの小さな冊子にまとめました。



「ももぞする現場」ミート・アップ⑥ 竹久侑さんから水戸芸術館「アートセンターをひらく」展のお話をきく(2023年12月8日) 撮影: 一般社団法人HAPS

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

本事業は「美術館」と「障害者等の芸術文化活動」の関係性の進展・改善に焦点を当て、企画展示に焦点を当てたパイロット事業、展示企画を行う学芸員らによる学びの場であるカンファレンス事業、鑑賞者などに位置する市民に焦点をあてた講座事業まで、多様なレイヤーで同時進行したことが特徴です。また、主催者のHAPSの強み(相談事業)を活かし、対話を重視しました。ポイントとしては、記録の公開・非公開を参加者に明示したことです。活発な議論を促すために非公開措置は重要だと感じています。本事業ではアーカイブを重視し、各事業において様々な記録を残しています。社会に広く共有することで、美術館における障害のある方の芸術活動の推進につながるものについては今後積極的に開示していくこととしています。

本事業は、地方ならではの事情や状況に応じて、障害のある人たちの鑑賞を支援するサービス付き事業を地域の人材と一緒に作る事業です。ホール客席での鑑賞に限らず、エントランスでのワンコインコンサートやアウトリーチ事業にも鑑賞支援サービスの可能性を広げて取り組みました。また、実施を通じて生まれた地域スモールモデルをWeb版報告書にまとめ、広く周知しました。

## 本事業で実施した【内容】

### いわきアリオスとの連携事業「演劇公演」

**開催日:** 2023年12月3日(日) \*鑑賞支援サービス対象公演  
**会場名:** いわきアリオス 小劇場(福島県いわき市)  
**参加人数:** 48名 鑑賞支援サービス利用者7名(うち、聴覚障害当事者5名)  
**参加費:** 有料(一般/3,000円、U25割/2,000円、やさい割/2,500円)

#### 実施内容:

いわきアリオスとの連携事業として実施。連携事業に劇団こぶく劇場 第17回公演「ロマンス」を選定。劇場職員が鑑賞支援サービスを実施していただけるように支援しました。

#### (具体的な支援内容)

- 対象公演への字幕、音声補聴サービス導入を支援
- サービスが必要な人に情報を届けるための専用チラシ作成を支援
- 当事者を迎えるための運営研修を実施
- 技術スタッフを対象とした研修を実施



いわきアリオスとの連携事業「劇団こぶく劇場 第17回公演「ロマンス」」

### 酒田市民会館との連携事業「アウトリーチ事業」

**開催日:** 2023年12月14日(木)  
**会場名:** 酒田市特別支援学校(山形県酒田市)  
**対象:** 酒田市特別支援学校児童・生徒

#### 実施内容:

希望ホール(酒田市民会館)と連携して実施。連携事業に酒田市特別支援学校への音楽アウトリーチ事業を選定。プロデューサーならびに劇場職員と一緒に支援学校の児童・生徒に音楽を届けるアウトリーチ事業に鑑賞支援サービスを導入しました。

#### (具体的な支援内容)

- リアルタイム字幕サービスの導入を支援
- 鑑賞マナーリーフレット作成を支援
- 劇場の技術職員と連携してアウトリーチ先で遠隔リアルタイム字幕の実施環境を構築
- アーティストと協力して鑑賞体験や想像支援を充実



酒田市民会館連携事業「アウトリーチコンサート」

その他、2024年2月23日(金・祝) 荘銀タクト鶴岡での取り組みあり

## 本事業で得られた【成果】

### 地域社会との連携

いわきアリオスとの連携事業「劇団こぶく劇場 第17回公演『ロマンス』」では、聞こえない・聞こえにくい人たちも参加できる演劇公演づくりに取り組みました。この事業では、字幕や音声補聴のほか、台本の貸し出しサービスやアフタートークへの手話通訳の配置、障害のある人たちにとって必要な情報が記載された専用チラシの作成など、様々な工夫を凝らしました。これらの取り組みを劇場職員が中心となり、自らが主体となって提供できたことは、誰もが参加できる劇場を築く上での大きな進展であったと思います。



荘銀タクト鶴岡との連携事業における体験研修



荘銀タクト鶴岡との連携事業における基礎研修



いわきアリオスとの連携事業における運営研修

鑑賞支援サービス付き公演の実施は今回がはじめてでしたが、地域の福祉団体等と連携して当事者に情報を届けることができました。当日は、聴覚障害のある5名の当事者がポータブル字幕や音声補聴を利用して観劇しました。参加いただいた当事者からは、「また参加したい」という声をいただきました。鑑賞支援サービスがきっかけで、これまで劇場に参加することができなかった障害のある人たちと劇場職員の会話がスタートしました。当事者との会話を継続させることこそが劇場を変化させていく原動力になると思います。

### 障害者を鑑賞者に育成するという視点

希望ホール(酒田市民会館)との連携事業では、地域支援学校への音楽アウトリーチ事業に鑑賞支援サービスを導入しました。アーティストと連携して、より深い鑑賞体験につながる工夫を考えました。

具体的には、イラストパネルを使い、視覚的な支援を実施しました。聴覚障害クラスではリアルタイム字幕を実施するほか、振動でより音楽を感じてもらう工夫を取り入れました。

鑑賞支援サービスをはじめ導入する場合、劇場にとって市民の入口となっている事業を選定してほしいとアドバイスします。この背景には、これまで劇

場に訪れた経験がない、または非常に経験が少ない障害当事者は、鑑賞者として育成されていない可能性が高いからです。障害のある人たちの鑑賞の機会を広げることを目標にすると同時に、障害のある人たちを鑑賞者として育成することも重要な視点になります。今回の事業では、アウトリーチ事業に鑑賞支援サービスを導入するという新たな取り組みをスタートさせることができました。むしろ、アウトリーチ事業にこそ、鑑賞支援サービスを導入することが重要で、そのことが、障害のある人たちが劇場に足を運ぶことにつながるように思います。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

これまでの経験から、障害者の鑑賞の機会を拡充していくためには鑑賞支援サービスの導入が必須であるといえます。しかし、鑑賞支援サービスを導入したからといって、障害のある人たちが劇場に足を運んでくれるとは限りません。大切なのは、障害のある人たちを「鑑賞者として育成する」という視点を持つことです。このことを共有しながら、地域と一緒に鑑賞支援サービス付き事業をつくっていくことが重要です。そこで、本事業では、次の取り組みにも力を入れました。

- 地域人材の育成を目的に研修や勉強会を並行して実施しました。(基礎、広報、運営研修など)
- 研修だけでは伝え切ることができないことをフォローするために、オンライン打合せや電話・メールでのサポート、参考資料の提供などを無制限におこないました。
- 制作過程で事業担当者が障害当事者と直接お話しする機会を設けました。
- 実演団体やアーティストにも取り組みを共有し、多様な人が鑑賞に訪れる事業であることを理解いただきました。

当事業は、日常的にコンサートホールでオーケストラの生演奏を聴く機会が少ない、大阪府下の特別支援学校の児童生徒・教職員を対象としたコンサートです。当団の自主事業として10年以上継続して実施し、昨年度までの参加は、延べ12,010名。知的障がいや肢体不自由、視覚支援学校や聴覚支援学校など、様々な障がいのある児童生徒の参加が可能です。公演は60分プログラムとし、演奏中の出入りや休憩も自由で、演奏曲目には聴き馴染みのある幅広い内容を組み込んでいます。

## 本事業で実施した【内容】

### 学校訪問型アウトリーチ室内楽コンサート

開催日・場所・編成・参加人数・演奏曲

- 2023年5月10日(水) 大阪府立堺聴覚支援学校  
編成:ヴァイオリン2名  
参加人数:中学部1~3年生 計24名  
演奏曲:エルガー/愛の挨拶  
ドヴォルザーク/ユモレスク 他
- 2023年5月11日(木) 大阪府立刀根山支援学校  
編成:オーボエ、クラリネット、ファゴット  
参加人数:高等部3年生1名、  
(ZOOM鑑賞)小学部20名、中学部10名 計31名  
演奏曲:アンダーソン/ワルツィング・キャット  
ガーシュイン/アイ・ガット・リズム 他
- 2023年5月19日(金) 大阪府立思斉支援学校  
編成:クラリネット(バセットホルン)、ピアノ  
参加人数:中学部1~3年生120名、  
高等部2年生46名 計166名  
演奏曲:ブルッフ/ロマンツェ  
バーンスタイン/クラリネット・ソナタ 他
- 2023年5月31日(水) 大阪府立交野支援学校 四條畷校  
編成:ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ  
参加人数:高等部2年生 計60名  
演奏曲:バッハ/G線上のアリア  
オペラ座の怪人メドレー 他
- 2023年6月13日(火) 大阪府立寝屋川支援学校  
編成:クラリネット、トロンボーン、ヴァイオリン、打楽器  
参加人数:高等部1~3年生 計113名  
演奏曲:ルパン三世のテーマ  
Clip Beat Clap!(手拍子共演曲) 他

対象:大阪府下の特別支援学校の児童生徒・教職員  
参加費の有無:無し(事前申し込み制、5校)

#### 実施内容:

大阪府下の特別支援学校全校を対象に公演案内を郵送し、メールにて申し込みを受け付けました。今年度は過去最多の15校から応募があり、過去の実績を参考に可能な限り偏り無く開催できるよう留意しながら開催校を

5校選定しました。スタッフが各校に伺い、会場の下見・打ち合わせを行い、1公演あたり45分のプログラム内容を検討しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響が落ち着き、1公演あたりの参加学年やプログラム内容などを従来の方法に戻しながら、無事全校開催することができました。

### オーケストラコンサート

開催日:2024年2月5日(月)  
会場名:国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)  
対象:大阪府下の特別支援学校の児童生徒・教職員  
参加人数:延べ1,053名 参加費:無し  
演奏曲:ビゼー/歌劇「カルメン」より第1幕への前奏曲  
楽器紹介コーナー  
ハーライン/映画「ピノキオ」より星に願いを  
指揮者体験コーナー(オフエンバック/喜歌劇「天国と地獄」序曲よりカンカン)  
チャイコフスキー/バレエ組曲「くるみ割り人形」より花のワルツ  
(アンコール) シュトラウスI/ラデツキー行進曲  
(60分プログラム・休憩なし)

#### 実施内容:

コンサートホールでオーケストラの生演奏を聴く機会を設けることが難しい支援学校の児童生徒に向け、楽しんで参加できるコンサートを目指して準備を進めてまいりました。

各楽器の音色を一つずつ紹介していく「楽器紹介コーナー」や、代表生徒が舞台上でオーケストラを指揮する「指揮者体験コーナー」など、鑑賞以外の内容も取り入れ、よりオーケストラを身近に感じていただけるよう工夫しました。また、メインには聴き馴染みのあるクラシックの名曲を選曲し、アンコールのラデツキー行進曲では、指揮者主導のもと手拍子を行い、会場全体で盛り上がりました。客席に関しては、完全バリアフリーの設備を活用し一部をフラット面に変更することで、車椅子やパギーベットの使用している児童生徒も安心してコンサートに参加できるようにしました。

## 本事業で得られた【成果】

### 学校訪問型アウトリーチ室内楽コンサート

この室内楽コンサートは、普段コンサートホールへ出かけることが難しい子どもたちにも音楽を届けたいという思いで毎年継続的に行っている事業です。演奏者が各校へ出向いて、演奏会を行うため、慣れ親しんだ環境で安心して楽しんでいただけます。また室内楽という2~4名の小さな編成のため、身近な距離で楽器を観察でき、音の振動や迫力をより間近で体感することができます。

毎年実施しているオーケストラコンサートでは、会場(国際障害者交流センター ビッグ・アイ)の立地的に大阪北部からの参加校が少ない傾向にありますが、この室内楽コンサートで直接学校へ伺うことにより、立地の都合や、障がいの程度によりオーケストラ公演に出向くことが難しい児童生徒の皆さんへも音楽を届けることができています。公演内容については、趣向を凝らした様々なプログラムをお届けしました。病弱な児童生徒の皆さんが通い、リモート授業を積極的に取り入れている支援学校では、高校生1名を除きZOOM鑑賞としました。鑑賞されている児童生徒の様子を大型テレビで演奏者に見えるように

し、感想をいただいたり質問を受けたりと、演奏者と鑑賞者はリモートにて交流することができました。聴覚支援学校では、学校の先生の手話通訳のもと、楽器や曲の紹介を交えながら演奏会を行いました。音が全く聴こえない生徒、かすかに聴こえる生徒など様々でしたが、演奏姿や演奏者同士のアイコンタクトを観察したり、音の振動を感じたりと、各々の方法で楽しんでいただけたようです。聴覚障がいの支援学校において音楽イベントが開催されることは滅多に無く、貴重な体験ができたこと喜んでいただきました。



(弦楽三重奏)



(木管三重奏)



(ヴァイオリン、クラリネット、トロンボーン、打楽器)

### オーケストラコンサート

当団の自主事業として、10年以上継続して行っています。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年・一昨年は1,000名に満たない参加者数となっておりますが、今年はコロナ前の様子に戻り1,053名の参加者数となりました。参加している特別支援学校には、年に1回の学校行事として当事業を捉えていただいております。音楽がもつエネルギーや迫力を肌で感じることで、感性、音楽を楽しむ力の育成に寄与できればと考えています。また、各学校の教職員やオーケストラ事務局は、運営するスタッフ不足が近年起こっています。安心安全にコンサートを楽しめるよう、今年度からはホール、学校、

オーケストラ間でこれまで以上に連携を深めるよう工夫しました。その中での新たな試みとして、多くの支援学校がバスにて来館する中、バス誘導のための警備手配をいたしました。当日は、バスの誘導を警備会社に委ねることで、教職員が児童生徒のケアに専念することができ、スムーズにホールへ入館していただくことができました。



(楽器紹介)



(演奏の様子)

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

#### 【室内楽コンサートについて】

事前にスタッフが学校に伺い、児童生徒の特徴や気をつけるべき言葉遣いのヒアリング、演奏会場のレイアウトや動線、生徒と演奏者の適切な距離などについて打ち合わせを行い、各校の要望に寄り添った形で実施いたしました。学校の先生による手話通訳が入った聴覚支援学校では、司会を行う演奏者はゆっくりと分かりやすい言葉で、表情豊かに話すことを心がけました。

#### 【オーケストラコンサートについて】

今年度は司会者を設けず、指揮者が司会を行いました。楽器紹介の際には、舞台上の様子を視覚で認知することが難しい児童生徒にも、楽器の形・色・大きさがイメージしやすい言葉を選ぶことと、「あれ」「これ」などの指示語を極力使わないようお願いしました。指揮者体験に登壇する生徒については事前に特徴を伺い、安心して体験ができるよう工夫しました。

「みんなでダンス in Ibaraki プロジェクト」は、ダンサー・俳優の森田かずよ氏と、追手門学院大学地域創造学部草山ゼミ、茨木市文化振興財団が協働し、障害の有無、年代問わず、「多様な人と踊ってみたい」という参加者を募り、ダンスを通じて相互理解を深めながらステージを作り上げていく市民参加型の取り組みです。プロジェクトの中心的活動は、2020年より毎年開催している「みんなでつくるダンス公演」です。2023年度は、新たな事業として、公演にむけた取り組みのドキュメンタリー映像の上映会を開催しました。

### 本事業で実施した【内容】

#### みんなでつくるダンス公演 「だから、あなたと奏でるカラダ」

**開催日:**公演:2023年12月3日(リハーサル12月2日)  
 稽古期間:2023年9月3日～2023年11月25日計12回  
**会場名:**大阪府茨木市 茨木市市民総合センター(クリエイティブセンター)センターホール、多目的ホール  
**参加対象:**小学生以上  
**募集定員:**一般公募20名  
**参加人数:**一般公募21名ゼミ生17名  
**参加費:**3,000円  
**観覧対象:**誰でも  
**定員:**300名  
**観覧者:**123名  
**入場料:**500円  
**実施内容:**

障害がある方ない方、小学生から80歳代まで、多様な出演者、総勢38名による「みんなでつくるダンス公演～だから、あなたと奏でるカラダ」を開催しました。学生主導の稽古運営や、様々な鑑賞サポートに取り組みました。作品は、アコーディオン生伴奏で行われ、講師のソロパートも組み込まれた芸術性が高いものになりました。

#### 「だから、あなたと奏でるカラダ」 ドキュメンタリー上映会

**開催日:**2024年2月3日  
**会場名:**大阪府茨木市 茨木市市民総合センター(クリエイティブセンター)センターホール  
**対象:**誰でも  
**募集定員:**300名 参加費:無料  
**観覧者:**65名  
**実施内容:**

12回に及ぶ稽古、公演本番の様子を捉え、参加者たちの公演にける想いや努力を、ドキュメンタリー映像を用いて伝えました。上映後は、アーティスト、有識者を招き、「みんなでつくるダンス公演」開催意義についてトークセッションを開催しました。



公演の様子 撮影:井上嘉和



公演の様子 撮影:井上嘉和

#### ～障害のある人もない人も一緒に踊ろう～ ワークショップ

**開催日:**2023年6月～2024年3月  
**会場名:**大阪府茨木市 茨木市市民総合センター(クリエイティブセンター)多目的ホール  
**対象:**誰でも  
**募集定員:**一般公募20名 参加費:無料  
**一般参加者人数:**6月10日13名 7月15日16名 8月12日16名  
 1月28日25名(ゼミ生含まず)  
**実施内容:**

「公演」とは別に、気軽に集う「居場所」となることを目的に、定期的に同じ会場で単発ワークショップを実施しました。大学機関との連携により、学生主導で運営を行う等、人材育成に繋がる試みも行いました。



単発のワークショップ 撮影:茨木美術協会

### 本事業で得られた【成果】

#### 「みんなでつくるダンス公演」を通して創出した共生社会への一歩

今回の公演では、障害がある方12名、小学生から80歳代まで幅広い年代の方に参加していただくことができました。多様な方々が「ダンス公演」という共通の目標を持ち、意見を出し合い創作活動を行いました。その中で身体を通して他者のあるがままの存在に気付き、共生社会の意義を考えるきっかけを提供することができました。

参加者のご家族からは「参加して、娘と共に地域に

受け入れられたと感じた」との感想をいただき、開催意義を実感しました。

また、学生からは、「偏見や固定観念をなくし相手を知ることの大切さを感じた」「お互い苦手なことをフォローし合う関係ができた」との感想がありました。若い世代が、多様性を受け入れ尊重すること、協力の重要性に気づく機会ができたと考えます。



ミーティングの様子 撮影:茨木美術協会



創作の様子 撮影:茨木美術協会

#### 公共施設のcommons化と社会的な影響

ダンス創作を通し、誰もが気軽に集う「居場所」づくりができました。

本事業では、月1回ワークショップを開催しました。参加者からは、地域にもたらす効果として、障害者にとって「友好的な地域づくりに繋がる」「舞台芸術活動への参加が促進される」等の意見がありました。新規の参加者には、子ども、高齢者、障害がある方も増

えており、この活動が、誰もが集う「居場所」として確立されてきたと考えます。今後は多様な方に係る接遇研修を実施し、対応する側の人材育成にも尽力します。本事業の継続により、地域の様々な人が集い、繋がり、共に活動することで、互いの違いを受け入れる姿勢が醸成され、共生、共感の意識が促進される機会になると考えます。

#### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

##### ■新たな機関との連携

スタッフのネットワークを活かし、福祉関係の自治体、市民活動団体、支援学校との連携を行いました。当事者やその家族、関係者と直接対話することで、今後の課題を知る大きな一歩となりました。

##### ■大学との連携強化

今年度は、運営、広報活動、観賞サポートに学生と協働で取り組みました。

##### ■参加者へのヒアリング

公演の稽古、ワークショップ終了時に、感想や意見を気軽に伝えてもらえるよう簡易な記入用紙を用意して随時ヒアリングを行いました。その結果や意見を次の稽古に反映させ、参加者がいつも心地よく創作活動ができるように努めました。

##### ■評価検証に挑戦

参加者、関係者等、属性ごとに事前事後のヒアリング、アンケートを実施し評価検証に努めました。

パントマイムやブレイクダンスや和太鼓の専門家が、文化芸術に触れる機会の無い病院やリハセンター、療育園、支援学校に訪問レクチャーに出向き、文化芸術の鑑賞と体験の機会を確保・充実させる取り組みを行います。また公的施設(大阪市の障がい者スポーツセンター)にて、ワークショップ(キッズカーニバルワークショップ)を実施。ダンスと和太鼓とパントマイムの3つのワークショップを開き、最後に発表会を行い参加者同士や介護者や親御さんに成果を披露することで自己肯定感を育みます。

## 本事業で実施した【内容】

### キッズカーニバルワークショップ

開催日: 2023年10月7日(土)

会場名: 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター  
“アミティ舞洲”(大阪府大阪市此花区)

対象: 障がい(肢体・精神・発達)を持つ児童とご家族  
参加人数: 15組(20名) 参加費: 無料

#### 実施内容:

大阪市の公共施設にてキッズカーニバルワークショップ「ダンスと和太鼓とパントマイムの3つのワークショップを開き、参加者はそれぞれ好きなワークショップに参加し1日の最後に発表会を行いお披露目する。」を開催しました。

個々の障がい特性から発表会に参加が難しい子供たちが、自然と人前に出てしまうストーリー仕立ての催事にしました(講師の持つ鉢植えの花の具合が悪くなって【写真2】、それを習ったパフォーマンスで元気付けるために自然と参加する)。

障がいの種類を限定せず、好きなジャンルに分かれて身体表現や楽器演奏の講師(ダンサー、パントマイム、和太鼓)から、指導を受けました【写真1】。ワークショップ終了後には参加者同士が仲良くなって講師無しで一緒に踊ったり太鼓を叩く様子が見られました。



【写真1】キッズカーニバルワークショップ講師スタッフ



【写真2】キッズカーニバルワークショップ鉢植え



【写真3】ボバース記念病院、講師と病院側スタッフ

### 訪問レクチャー(ダンス、パントマイム、太鼓)

開催日: 2023年11月11日(土)

会場名: ボバース記念病院(大阪府大阪市城東区)

対象: 入院病棟の障がい児者

参加人数: 20組(30名) 参加費: 無料

#### 実施内容:

病院・リハセンター・療育園・支援学校・支援学級に訪問して文化芸術を伝える活動です。約20ヶ所の施設へ訪問しました。ボバース記念病院では、病棟の入院児・者を対象に3種類の身体表現や楽器演奏の講師(ダンサー、パントマイム、和太鼓)のパートに分かれて別室での練習を行いました。【写真3】

立位可能、座位可能、重度肢体不自由の3種類に指導を分けています。「障害が文化芸術のバリアにはなりえない、誰でもダンスはできて楽しい」をベースに指導しています。

レッスンの最後に各パート毎に発表会を行いました。訪問レクチャー後もお互いに教えてもらったパートを教えあって楽しんでますと報告を聞いています。活動内容に挙げた4つの項目(①鑑賞の機会の拡大、②創造の機会の拡大、③作品等の発表の機会の確保、④文化芸術活動を通じた交流の促進)に満足してもらえた取組になりました。

## 本事業で得られた【成果】

### 障がいにより閉鎖的にならざるを得ない施設へ文化芸術に触れる機会の提供

以前より障がい者のスポーツ文化芸術活動の来場型催事を社会貢献活動として色々な対象者に向けて開催してきました。これらの催事は移動の可能な当事者には参加できます。しかし入院や病棟生活、療育園内で生活する障がい当事者、重複障害や重度障害で移動が困難な障がい当事者、また心の障害(知的・精神・発達)で静かに鑑賞する事ができない場合は劇場へ行くのは難しいです。コロナ禍では会場が感染対策されていても、移動行程での感染リスクは人工呼吸器使用者には非常に高く、彼らの文化芸術の鑑賞、体験、発表の機会は損なわれていました。

そこで我々はパントマイマーやブレイクダンサーや和太鼓奏者を、入院病棟、病院やリハセンター、支援学

校や療育園へ派遣して、文化芸術の鑑賞と体験の機会を確保・充実させる取り組みを行いました。ダンスは足を動かさずステップはできなくても座って踊る(手だけ、指だけ)、寝転がって踊るなど、パントマイムも複数の芝居形式や、1人で行う身体表現など、個々の障害と身体状況に合わせてリハビリ医の指導から個々の動作に合った動作を実現できました。訪問レクチャーの最後に発表会を行い、自由な表現を参加者同士で見せ合い、介護者や先生方に見てもらうことで自己肯定を促すことができました。この事業の目標であり趣旨である①鑑賞の機会の拡大、②創造の機会の拡大、③作品等の発表の機会の確保、④文化芸術活動を通じた交流の促進、を大きく実現できたと言えます。

### 医療・リハビリ・教育とアーティストの両方に表現の可能性を知ってもらえた

10月に文化芸術とは異なる障がい者スポーツセンターでダンス他のワークショップを行い、その前後で20ヶ所の施設(医療・リハビリテーションセンター・療育園・支援学校)へ訪問レクチャーに伺いました。

文化庁の委託が決まる前から支援学校、リハセンター、病院施設に、広報活動や聞き取り調査を行い大阪府全域の施設で広げられるよう進めてきました。その結果、活動を始めて直ぐに、教育委員会の報告書や医療従事者の横のつながりで本事業を知ってもらい、府外からの問い合わせや開催依頼もいただきました。

またアーティスト側のダンサーやパフォーマーや楽器奏者も、彼らが障がいの種類や内容に理解が乏しいため心身の障がい児者にレクチャーする方法やきっかけが無かったのが、監修をリハビリ医師にした本事業により安心して安全に楽しくレクチャーすることが可能となり、彼らアーティスト自身が活躍できるステージを広げることができました。

文化芸術を提供する側、享受する側の両方を拡大できたのは本事業の大きな成果だと考えられます。

ブレイクダンスやパントマイムは立ってステップ

を踏めないし“できない”と思われてますが、実際は足が動かなくても手と指が動けばダンスは“できます”し、体躯の一部を使って感情表現するパントマイムは目の動きだけでも演技が“できます”。ダンスもパントマイムも発達障がいと肢体障がいのリハビリテーションに大きな効果があり、また多種の障がい児者が一緒に参加できる催事となり、自己肯定と相互理解を促す効果も大きいです。

今回の委託事業によって関西の支援学校教育と医療リハビリテーション施設に、文化芸術が能動的動作の獲得(リハビリの実証)につなげることを広めることができました。地道ではありますが、関西での成功を全国に向けて発信することで、医療関係者や文化芸術関係者に障がい当事者のダンスや身体表現の啓蒙活動を続けていきます。



岸和田支援学校、講師と先生



奈良県立養護学校、講師8人太鼓と先生

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

我々は企業として医療福祉施設に訪問して日常業務や社会貢献活動を行っており、そのネットワークを通して事業を進めるべく、本事業が採択される前から、活動内容やアーカイブ動画を大阪府内の支援学校、リハセンター、病院施設に持参して、広報活動や聞き取り調査を進め、文化庁の委託が決まれば大阪府全域の施設で広げられるよう準備しました。役所や医療資格の学校にも開催の報告と案内のお願いに回り、関係者のSNSなども有効活用して広報と案内をし募集ができる体制を整えました。実際には、委託が決まり活動を始めてから、訪問先が「医療従事者の集まり・学校間の横連携・教育委員会への報告」を通じて事業の情報を多方面に広げられました。具体的には大阪府外の奈良県立養護学校からの依頼があったり、その奈良県立養護学校の開催を教育委員会で聞いて隣の奈良県西養護学校からの依頼がありました。支援学校や医療施設での開催はハードルが高いと思われるがちですが、先進的な催事ほど説明が必要でずし、認知さえされれば文化芸術活動の少ない医療福祉施設や支援学校での広がりは早いと感じます。

特定非営利活動法人ダンスボックス 所在地 兵庫県神戸市  
団体URL: <https://db-dancebox.org/> 事業URL: <https://diversity.db-dancebox.org/>

一人一人の差異を優劣という物差しではなく独自性ととらえ、循環していく関係性を生み出すこと、そして、強者がつくる社会が社会的弱者を包摂するのではなく、みなが同じ目線で受け止めあう寛容性と多様性のある社会になることを目的に事業を展開しています。劇場ArtTheater dB KOBEを拠点に、今年度は、発表する機会の確保、鑑賞・体験する機会の拡充、文化芸術活動を通じた交流を促進するとともに、地域住民とのネットワークを形成・強化、人材の育成にも注力し開催しました。

## 本事業で実施した【内容】

### やさしいコンテンポラリーダンスクラス

開催日: 月1回(全12回実施)  
会場名: ArtTheater dB KOBE(神戸市長田区)  
対象: 踊ってみたい方はどなたでも。踊ったことのない方も、障がいのある方も大歓迎。ベビーカーなどのお子さん連れの参加も参加可能。  
参加人数: 各回25名前後 ※参加無料(カンパ制)  
ナビゲーター: 西岡樹里  
実施内容:

今年度で3年目を迎える、踊ってみたい方はどなたでもウェルカムなダンスクラス『やさしいコンテンポラリーダンスクラス』。参加者のうち、参加率の高いレギュラーメンバーが8割ほど、そして必ずすべてのクラスに新しい参加者が来られます。知的障がい者、身体障がい者、様々な国籍の人、多世代(2歳~70代まで)の人たちが、それぞれの目的でこのダンスクラスに参加しています。

### ミックスエイブルダンスカンパニー Mi-Mi-Bi 『未だ見たことのない美しさ』神戸凱旋公演

開催日: 2023年10月26日~28日  
会場名: ArtTheater dB KOBE(神戸市長田区)  
観覧者数: 191名  
実施内容:

演出: 森田かずよ 演出補佐: 内田結花  
振付・出演: 内田結花、KAZUKI、武内美津子、福角宣弘、三田宏美、も、森田かずよ  
映像出演: 福角幸子  
音楽: 日野浩志郎  
舞台衣裳: bde  
協働メンバー: 竹口郁美、中村風太  
手話通訳: 三田宏美、箕浦伸子

2022年豊岡にて上演した『未だ見たことのない美しさ』をリ・クリエイションし、Mi-Mi-Biの拠点である神戸・新長田の劇場ArtTheater dB KOBEにて凱旋公演を行いました。出演は、義足、骨形成不全、脳性麻痺、視覚

障がい者、聴覚障がい者、病理体の者、手話通訳士、コンテンポラリーダンサーの計8名。前説時に来場者と拍手などの簡単な手話をいくつか共有する他、見えない人のための鑑賞ガイドや手話通訳付きのアフタートークも実施しました。

### みんなのフェスティバル2023

開催日: 2023年7月22日~23日  
会場名: 劇場、商店街、漁港、コミュニティスペースをはじめとした、神戸市長田区内の全15カ所  
実施内容:

アート、教育、福祉、多文化共生、まちづくりの視点を融合させたローカルフェスティバル。  
『みんなのフェスティバル』を、夏の2日間、まちに暮らす人やこのまちに活動拠点を置く方々と協働して実施しました。1日目は、サービス付き高齢者住宅、防災空地、廃園になった保育所、漁港の倉庫、ゲストハウスやバーなど、まちなか11カ所の会場で行われる、展示、ダンス公演、トーク、ワークショップなどのイベントを回遊するプログラム。2日目は、ダンスボックスが運営する劇場ArtTheater dB KOBEを中心に、ダンスクラス、パフォーマンス・ショーケース、展示、ワークショップなどのプログラムを実施しました。



様々な人の交流の場にもなった「みんなのフェスティバル2023」撮影: 鈴木優

## 本事業で得られた【成果】

### 家庭でも職場でもない新たな居場所を創造する。継続することで見えてきた広がり関係性の深まり。

月1回のペースで3年間続けて開催している『やさしいコンテンポラリーダンスクラス』。最近では参加率の高い参加者が、新しい参加者に声をかけたり、場を仕切ったりする場面もよく見られます。このクラスがひとつのコミュニティであり、障がいのある参加者にとっては、学校卒業後の家庭と職場以外の大事な居場所となっています。今年度から、クラス参加者の中から有志の人のみで集まる『やさコンプラス』(ナビゲーター: 西岡樹里)をはじめ、これまでクラスで行ってきたダンスのワークを基に、短いパフォーマンス作品をつくり、地域で行われたイベントで発表しました。また、



屋外に出かけてダンスクラスを実施 撮影: 鈴木優

『旅するクラス』という出前クラスや、このクラスの内容をベースにした特別支援学校でのワークショップの機会も増えています。



やさしいコンテンポラリーダンスクラスの様子

### 当事者が主導するダンスカンパニーMi-Mi-Bi 障がいの有無、国内外問わず注目される存在に

2022年春より本格的にカンパニー活動を開始した、障がいのある人もない人も含む、ダンスカンパニーMi-Mi-Bi(ルビ:みみび)。カンパニーメンバーを募集し、新たに3名が加わった10名で、『未だ見たことのない美しさ』神戸凱旋公演を実施しました。客席は、車いすの方、ろうの方、外国籍の方、近畿圏外からの方にもご来場いただけ、様々な方から注目いただいていることが実感できました。また、2022年に行った豊岡での旗上げ公演までのクリエイションの様子が、2023年11月にTBSテレビで放送され話題を呼びました。2024年3月には、TBSドキュメンタ



Mi-Mi-Bi 神戸公演 撮影: 岩本順平

リー映画祭2024参加作品として再編集され、約1時間のドキュメンタリー映画『旅する身体~ダンスカンパニーMi-Mi-Bi~』(監督: 渡辺匠、志子田勇)が全国6都市の映画館にて上映。また、オンライン配信用に編集したメイキングと公演記録の映像が、2024年1月から、日本の舞台公演を世界に届ける『STAGE BEYOND BORDERS』(国際交流基金と一般社団法人EPADの共同プロジェクト)にて多言語字幕付きで配信されており、Mi-Mi-Biの活動を広く知ってもらえる機会を頂くことができました。



TBSドキュメンタリー映画祭のチラシ

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

今年度は、表現者側にも観客・参加者側にも障がいのある人や、様々なルーツを持つ人がいるプログラムを積極的に行いました。そして、昨年度に引き続き、字幕や音声認識アプリ、手話通訳を含む情報保障の充実とともに、どのプログラムも、出来る限りオープンな状態を保ち、劇場に出入りするアーティストやスタッフなど、その場に居合わせる人がアクセスできる状況の整備と、WEBサイトやSNSアカウント(X(旧Twitter)・Instagram)での広報にも注力しました。

病気や事故、加齢や障害の重度化など、心身がどのような状態にあっても、創作や表現することができるように、テクノロジー活用の敷居を下げ、文化芸術を楽しむ・挑戦することを生涯にわたり可能にする社会づくりをめざしています。そのために、先進事例をつくることや、障害のある人やその支援者が技術について学び考えることができる勉強会や体験会、社会に広く発信する展覧会やシンポジウムを開催。これらにより全国各地の障害のある人と技術力のある人が連携しやすいネットワークを構築していきます。

## 本事業で実施した【内容】

全体監修: 小林茂 (情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授)

### 音との新たな出会いを生み出す AI

監修: 徳井直生 (株式会社Qosmo代表、株式会社Neutone代表)  
概要:

- バイオリン、マリンバ、鳥の鳴き声など、さまざまな音色を学習しているAI「Neutone」を使用
- 例えば、自分の声を「Neutone」におすと、自分の声バイオリンの音色に変換されて聞こえる
- 文字ではなく、音や声といった身体的なインプットと、AIとの協働関係による音楽制作をめざす

### これまでの動き・今後(2024年3月まで)の動き:

- ① 障害のある人とフィールドレコーディングで採取した音をAIで変換して楽しみ、作曲した(8月31日) @たんぽぽの家
- ② 障害のある人のほか、音楽に触れている人、一般参加者(公募)と作曲ワークショップを開催(1月13日) @大阪音楽大学
- ③ 重度障害のある人たちがいる福祉施設でAIを使った音遊びワークショップの計画 @大阪/和らぎ苑、耳原総合病院

### WAVE: なみのダンスとMR

監修: 緒方壽人 (デザインエンジニア、Takramディレクター)  
概要:

- VRゴーグル(Meta Quest 3)のパススルー機能(ゴーグルをかけていても外の視界も見える)を活用
- 現実世界にある物理的/身体的な制限を超えて、現実では見ることができない・起こりえない現象を起こすことによる表現
- ジャワ舞踊家佐久間新さんとたんぽぽの家ひるのダンスチームとで、VRを用いたダンスの可能性をさぐる

### これまでの動き・今後(2024年3月まで)の動き:

- ① MR機能にフォーカスし、人の手の動きに反応して動く、リモコン要らずのプログラムを開発
- ② 「箱」をつかみ動かすVR(11月22日)と「水」のVRを体験(1月17日)
- ③ 公開ワークショップを開催し(2月20日)、新しいダンスの成立を試みる

### とけていくテクノロジーの縁結び

監修: 筧 康明 (東京大学大学院情報学環教授)  
概要:

- 体奏家・ダンスアーティストの新井英夫さんはALSを発症し、身体が徐々に動きにくくなっており、パートナーの板坂記代さんが日常のケアをしている
- ジャワ舞踊家の佐久間新さんと一緒に、誰かに動かされている/誰かを動かしている感覚ではなく、ともに踊る感覚をうみだす
- 能動でも受動でもない間主観的な動きの生成感覚を感じる装置を筧さんが開発する

### これまでの動き・今後(2024年3月まで)の動き:

- ① 装置開発のヒントを得るため、新井×板坂×佐久間×筧の初顔合わせワークショップの開催(11月23日)
- ② 環境を可視化する装置を体験できる限定公開パフォーマンスの実施 2月8日リハ → 2月15日本番

### Good Job! Digital Factory

企画・協力: 株式会社日本総合研究所  
高瀬俊明 (株式会社TART、NFT担当)

概要:

- アートとデジタルの力で、障害のある人とともに、社会に新しい仕事・文化(Good Job!)をつくるNFTプロジェクト
- 福祉のなかでデジタル技術をつかうというよりは、デジタル空間のなかで福祉を実現する
- Good Job! をつくりだしている人や、つくりだそうとしている人、応援する人、ねぎらう人などを象徴するNFTアートを販売する

### これまでの動き・今後(2024年3月まで)の動き:

- ① デジタルコミュニティ(デジタル共同体)の成立をめざし、公式XとDiscordを立ち上げ、展開する(10月より)
- ② 第1弾のNFTアートを販売(2月6日より)

### 派生した取組

- フィードバック生成AIとの創作活動(IBM×GJセンター)
- 重度の脳性まひのあるこどもの表現活動(東北その後:松本理沙×ファブラボ仙台)

## 本事業で得られた【成果】

### 表現とケアとテクノロジーのこれからを考える

表現にふれること、表現しあうこと、これらの選択肢を広げ、自分自身や周りの人たちとの関わりに変化が起きるテクノロジーの活用方法を提案しまし

た。また、アートとケアの観点からテクノロジーをとらえなおし、アートとケアとテクノロジーの可能性を拡張することができました。

### 生きている、という感覚を参加して共に感じる

単に完成されたエンターテインメントを圧倒されながら見るという経験ではなく、中に入り込んでいく感

覚を創出し、パフォーマンス体験と観客の鑑賞体験を重ね合わせる機会を提供しました。



音声生成AI「Neutone」を使用した音遊び風景 (撮影:衣笠名津美)



「WAVE:なみのダンスとMR」のパフォーマンス風景



「とけていくテクノロジーの縁結び」のパフォーマンス風景 (撮影:丸尾隆一)



Good Job! Digital Factoryで発行したNFTキャラクター「グッドジョブさん」の例

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

当法人は、1970年代より、障害のある人の能力と社会的イメージを向上させるためにさまざまなアート・プロジェクトを実践してきており、今日までに国内外の障害のある人のアート活動に関わる団体と個人のあいだに広範囲な情報ネットワークを形成してきました。また、テクノロジーの観点でいえば、2017年度から日本財団「デジタル技術を活用した障害者のクリエイティブな仕事づくりの開発」受託を契機に、3Dプリンターやレーザーカッター、IoTなどのデジタル技術を活用した障害のある人の新しい仕事づくりを開始。長崎県など全国7カ所の福祉事業所や技術力のある団体(大学や企業)と連携して、製品開発や人材育成を実施してきました。これまでに得たノウハウを活かし、2022年度より本事業、Art for Well-beingプロジェクトを推進し、先進事例をつくりながら、アートとケアとテクノロジーのこれからを模索しています。

一般財団法人たんぽぽの家 所在地 奈良県奈良市  
団体URL: <https://tanpoponoye.org/> 事業URL: <https://newtraditional.jp/>

新しいものづくりのあり方や伝統工芸の可能性を模索するNEW TRADITIONAL (略称:ニュートラ)プロジェクトを展開していくための人材育成事業です。障害のある人をはじめ誰もがものづくりの楽しみにふれる環境をつくる人材を育成すること、またその仕組みを広く発信、共有することを目的としています。人材育成の対象として、伝統工芸、伝統文化、伝統産業を伝えるミュージアム(博物館、美術館、伝統工芸館、伝統産業会館等)の職員や伝統工芸を学ぶ美術系大学の教員や学生、地域振興やまちづくり、観光などにかかわる自治体等の職員、デザイナーなどを想定しています。

## 本事業で実施した【内容】

### ニュートラの学校〈入門編〉

ニュートラの活動を普及するためのセミナーを2地域で開催。事例報告や講義を通してこれからのものづくりに必要な視点を学ぶと共に、セミナーの前後で各開催地域でのものづくりに関するリサーチを実施しました。

#### ●ニュートラの学校入門編 in佐賀

開催日:2023年11月11日(土)  
会場名:SAGA CHIKA/佐賀県庁地下ラウンジ  
講師:前川 雄一・前川 亜希子(HUMORABO)、田中淳・伊藤友紀(tui Co.,Ltd.)、北島敬明(PERHAPS\_design)、原田祐馬(UMA/design farm)

#### ●ニュートラの学校入門編 in新潟

開催日:2023年11月30日(木)  
会場名:新潟市美術館 講堂  
講師:迫 一成(hickory03travelers)、安部 剛(Good Job!センター香芝)、高野賢二(クラフト工房La Mano)

### ニュートラの学校〈実践編〉

ものづくりを通して地域にある拠点をひらき、多様な人たちをつなげながら新しい視点でものづくりや地域の価値を高めることができる力をつけることをめざして実施しました。15名の参加者は、フィールドワークや複数の講座で学んだことをもとに、多様な人が体験することのできるものづくりのプログラムや商品、仕組み等を立案しました。

#### ●フィールドワーク&レクチャー

開催日:2023年11月18日(土)、19日(日)  
場所:愛知県名古屋有松地域

#### ●相談会(オンライン)

開催日:2023年11月28日(火)、12月6日(水)

#### ●企画発表&検討会(オンライン)

開催日:2023年12月10日(日)、17日(日)  
プラトク講師:磯村司(INAXライブミュージアム スタッフ)

#### ●公開企画発表会

開催日:2024年1月14日(日)15:00~19:30  
会場名:FabCafe Nagoya

アドバイザー:浅野翔(デザインリサーチャー)、井上愛(NPO法人 motif代表)、岩城鮎美(多治見市美濃焼ミュージアム学芸員)、佐藤一信(愛知県陶芸美術館館長)、高橋孝治(デザイナー)、水上明彦(さぶらん生活園園長)

定員:15名  
参加費:6,000円

### ラーニングプログラム・アウトリーチプログラム

伝統工芸や地域でのものづくりに関する教育普及に関心のあるミュージアム職員と共に、ラーニングプログラムを開発・実施・検証(①②)しました。日常的にミュージアム等に行くことが難しい人たちにむけて、伝統工芸等を扱うミュージアムや職人と連携し、アウトリーチプログラムを行いました(③④)。

開催日:①2023年7月17日(月・祝) ②2024年3月3日(日)  
③2024年3月11日(月) ④2024年3月17日(日)

会場名:①多治見市美濃焼ミュージアム ②大東市立歴史民俗資料館  
③Good Job!センター香芝 ④TSURUMIこどもホスピス

協力:①岩城鮎美(多治見市美濃焼ミュージアム学芸員)  
②森井綾乃(大東市立歴史民俗資料館学芸員)  
③尾崎織女(日本玩具博物館学芸員)  
④山崎伸吾(京都伝統産業ミュージアムコーディネーター)、中村佳之(京こま職人)

### エキステンジプログラム

京都市立芸術大学美術研究科の工芸系学生、と福祉施設でものづくりに取り組む障害のある人が、互いの創作現場を歩き来しながら「たたく」という行為をテーマに交流し(①)、活動報告のトークを行いました(②)。

開催日:①2023年10月12日(木)、10月31日(火)、11月9日(木)、12月7日(木)、12/21(木)、2024年1月25日(木)  
\*大学院の授業「特殊演習」の枠内で実施  
②2024年3月8日(金)

会場名:①京都市立芸術大学、たんぽぽの家、Good Job!センター香芝  
②FabCafe Kyoto

協力:森野彰人(京都市立芸術大学教授/陶磁器)、安藤隆一郎(京都市立芸術大学准教授/染織)

## 本事業で得られた【成果】

### 福祉と伝統工芸をつなぐ人材育成プログラムの展開・応用・普及の可能性

地域振興やまちづくりにかかわる人、福祉・伝統工芸・地域をつなぐデザイナー、ミュージアムの学芸員、学生といった、伝統的なものづくりに関心をもつさまざまな世代、領域を対象に、期間や内容の異なる人材育成プログラムを行うことができました。各プログラムの進め方、仕組み自体を比較検討し、対象や地域の現状に即して内容を更新しながら、人材育成プログラムを普及していきます。



大東市立歴史民俗資料館での河内木綿糸紡ぎワークショップ 撮影:衣笠名津美



TSURUMI こどもホスピスでの京こまつくり体験ワークショップ



京都市立芸術大学とのエキステンジプログラム

### 実践的な力をつける人材育成プログラムの充実に向けて

特にニュートラの学校〈実践編〉では発表会終了後も、参加者が立案した企画の進展をコミュニケーションアプリを活用して、参加者・アドバイザー・事務局で共有し合っています。事業としての着地点をどこに置くのか、どこまで参加者をフォローアップしていくのか。参

加者どうしがコミュニケーションをとりやすくするための仕組みやツールの検討、企画の立案だけでなく実現までを視野にいたれたプログラム構成の検討など、人材育成事業としての充実を図り、社会に対する波及効果を高めるために考えるべき課題が明確になりました。



多治見市美濃焼ミュージアムでのラーニングプログラム 撮影:河合秀尚



ニュートラの学校〈実践編〉公開企画発表会 撮影:岡松愛子

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

ニュートラの学校〈実践編〉では、プログラムの検討にあたって実行委員会をひらきました。実行委員会はデザイナーや福祉関係者、美術館関係者で構成し、地域の伝統的なものづくりや、福祉と芸術文化活動、美術館の教育普及活動の現状など踏まえ、人材育成の対象やプログラム構成を議論しました。また、京都市立芸術大学との取り組みは学生が継続して参加しやすいよう、授業の一環として位置づけました。このように人材育成の対象や枠組みによって様々な立場の人と議論を重ね、より有効なプログラムになるよう検討しました。

特定非営利活動法人鳥の劇場 所在地 鳥取県鳥取市  
団体URL: <http://www.birdtheatre.org> 事業URL: <https://www.birdtheatre.org/gikyoku-disability/>

鳥の劇場は、2013年から、障害のある人とない人が一緒に演劇創作を行う「じゆう劇場」という活動をしています。これを通じて、演劇創作の場を作る充実感が、障がいのある方の喜びとなることを目の当たりにしてきました。本事業は、この「じゆう劇場」の活動を、「戯曲創作」に広げるべく、NYのクイーンズシアターの「Theatre for all」という取り組みを参考にしました。身体的な制約で、舞台上立つことができない方も、「戯曲創作」であれば参加できるため、短編のオリジナル創作戯曲を全国から公募しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 選考委員会の設置

開催日: 2023年6月11日(日)  
選考委員: 播磨靖夫氏(社会福祉法人たんぼぼの家理事長)  
大澤真幸氏(社会学者)  
森田かずよ氏(義足の女優・ダンサー)  
永山智行氏(演出家・劇作家・劇団こぶく劇場代表)  
ロブ・ウルビナーティ氏(劇作家・クイーンズシアター(アメリカ・NY))  
中島諒人(演出家・鳥の劇場芸術監督)

### 実施内容:

戯曲の公募条件やスケジュールの確認を行いました。

### 戯曲の書き方のチュートリアルビデオの作成・HPでの公開(日本語字幕・音声ガイド付き)

- 劇作家 永山智行氏(審査員): 事業HP上で公開
- 劇作家 ロブ・ウルビナーティ氏(審査員): 参加エントリー者のみ限定公開

### 事業連携紹介ビデオ作成・HPでの期間限定公開(日本語字幕・音声ガイド付き)

- タリン・サクラモーン氏(クイーンズシアター代表)

### 戯曲コンテスト実施の記者発表・戯曲コンテストのHP公開・エントリー受付開始

開催日: 2023年7月18日(火)

### 劇作家:大岡淳氏(静岡県舞台芸術センター)による、全2回のワークショップ

開催日: 2023年10月9日(月・祝) 10:00~11:30・  
2023年11月15日(日) 10:00~11:30

対象: エントリー者対象 参加費: 無料

### 実施内容:

- 「短編戯曲の実例からヒントを手に入れよう」参加者数28名
- 「短編戯曲の創作について相談してみよう」参加者数42名

### 公募作品受付期間

(応募者には、必ず参加エントリーをしてもらいました)

開催日: 2023年9月1日(金)~11月30日(木)

### 選考委員会: 受賞作の決定

開催日: 2024年1月22日(月) 18:00~20:00  
エントリー数: 501名  
応募作品数: 224作品  
入選作品: 6作品

### 受賞作を掲載した小冊子を制作・関係者に配布(音声も記録したCDも同時制作)

### 表彰式

開催日: 2024年2月26日(月) 11:00~12:30

#### [受賞作品]

- 最優秀賞『展覧会の絵』たかはしひでかず
- 優秀賞『Bamboo』モスクワカヌ
- 入選『サイパンに行こう!』麻田姉タロー  
『公園の出口にて』唄辺マキ  
『白箱の光合成』花守倫果  
『母と「わたし」のものがたり』千田恵子

受賞作品は、次年度にクイーンズシアター・鳥の劇場でのリーディング上演が決まっています。(クイーンズシアターでは数作品、鳥の劇場では全作品の上演)



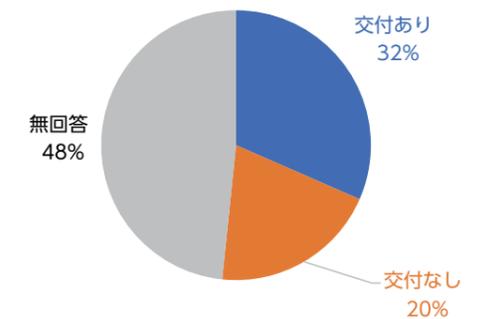
表彰式の様子

## 本事業で得られた【成果】

### 戯曲創作という分野で、障がいのある方の表現活動を促す

演劇的表現活動は、主に舞台上での活動が取り上げられることが多いため、障がいのある方が演劇で表現活動を行うには制約があるイメージがありますが、「戯曲創作」という別のアプローチで、演劇的表現活動が可能になるということ、多くの方に届けることができました。応募する際に、障害者手帳の有無について回答を求める欄を設けましたが、障がい者が戯曲に登場すれば、回答は必要ないとしたため、無回答の方が半数でした。残り半数のうち、交付ありと交付なしの方の割合は、交付ありの方が少しだけ多いという結果が出ました。グラフを参照。

#### ●応募者の障害者手帳交付割合

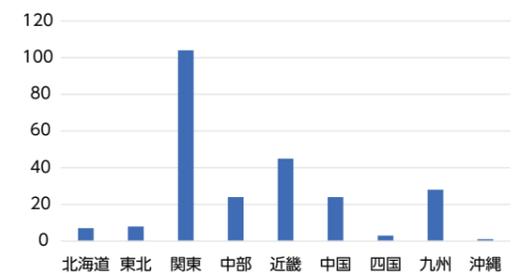


### 北海道から沖縄まで、全国からたくさんの応募があり、障がいをめぐる戯曲の創作への関心の高さがうかがえた

まずは、参加エントリー数と応募作品数の多さがその関心の高さを如実に表していると感じました。

ここまでの反応をいただいたことに、大変感謝していると同時に、今回の戯曲創作のように、障がいのある方の演劇的な要素を含む表現活動の選択肢を増やしていかなくてはならないと感じました。応募者の在住の地方別グラフを参照。

#### ●応募者住居地方別集計



戯曲の書き方ビデオ 永山智行氏



戯曲の書き方ビデオ ロブ・ウルビナーティ氏



短編戯曲の書き方ワークショップ 大岡淳氏

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

鳥の劇場は、演劇を創作する劇団かつ劇場なので、今まで培ったネットワークを活用し、本事業を実施するに至りました。公募した作品のその先が見えることで、応募のモチベーションを上げることができたのではないかと感じています。上演する場がなければ、表現活動としての最終の出来上がりが見られないし、その作品をブラッシュアップして、より良い作品にしていくこともできません。演劇の専門家たちが受賞作品を上演することを通して、作家へのフィードバックを行い、戯曲作家としての人材育成も行うことができると考えています。

戯曲の書き方ビデオや、公募期間中に行った劇作家によるオンラインワークショップなども、演劇を専門とする団体のノウハウを活かした取り組みです。結果、多くの方からご応募いただいたのではないかと考えています。

公益財団法人しまね文化振興財団 所在地 島根県松江市  
団体URL: <https://www.cul-shimane.jp> 事業URL: <https://shimane-itp.wixsite.com/website>

障がいの有無に関わらず芸術文化に触れ、自ら表現する喜びにふれる機会と場づくりを目的に島根県全域で行うプロジェクト。ユニバーサルな音楽会「にぎやかな日々」の開催、ダンスや音楽体験ワークショップやアウトリーチの実施を通じての交流の場づくりを展開。各地で開催する取り組みのノウハウや地域課題について、東西拠点劇場(東部:島根県民会館、西部:いわみ芸術劇場)及び県の障害者芸術文化活動支援センター等と共有することで、より広域かつ社会的な波及へ結びつけています。

## 本事業で実施した【内容】

### 今福座和太鼓アウトリーチ

開催日: ①令和5年7月10日/②令和5年9月7日

会場名: 島根県立浜田ろう学校

対象: 浜田ろう学校の児童生徒6名及び教員4名

#### 実施内容:

聴覚に障がいのあるろう学校児童生徒及び教員10名を対象に継続型の和太鼓体験授業を実施。講師に地元のプロ和太鼓奏者「今福座」を招聘し、全2回のプログラムを計画。音楽や和太鼓に向き合う姿勢を講師を通じて直接体感し、参加者自ら表現する楽しみを体験することを目的に実施しました。今回は浜田ろう学校70周年記念フェスティバルで演奏を披露し、式典のオープニングを飾りました。

### 「にぎやかな日々」益田会場

開催日: 令和6年1月21日(日)

会場名: 島根県芸術文化センター「グラントワ」大ホール

対象: 障がい児・者、及び家族、関係者、地域住民

参加人数: 240名(出演者含む) 参加費: 無料

#### 実施内容:

障がいの有無に関わらず芸術体験、鑑賞できる音楽会として開催。大ホールホワイエではメダルを作成するワークショップや出店販売を実施。午後からはコンサートに参加がしやすくなるしかけとして出演者によるオープニングイベントを大ホールホワイエにて開催。来場客を巻き込んで音楽パレードを実施しました。コンサートでは、出演者である「チリンとドロン」の会話や歌に合わせて要約筆記、手話通訳を実施。会場内に看護師1名を派遣しました。



コンサートの様子「にぎやかな日々」益田会場

### からだで話そう!田畑真希ダンスワークショップ ～障がいのある人もない人もいっしょに踊ろう!～

開催日: ①令和5年12月24日(土) ②令和6年1月13日(日)

会場名: 島根県民会館多目的ホール

対象: 視覚障がい者、知的障がい者を含む地域住民、関係者

参加人数: ①25名 ②18名 参加費: 無料

#### 実施内容:

視覚に障がいのある人とダンサー・振付家の田畑真希氏と共にはじめたダンスワークショップは、見える人と見えない人が一緒に創る公演制作等に発展してきました。今年度は障がいの種別を広げるなど新しい仲間を募集したところ、視覚、知的に障がいがある人を含む5歳～70代の方が集まり身体を使って交流することができました。2回目のワークショップでは、田畑氏のダンスワークショップに加え、音楽家のハブヒロシ氏も迎え多様な参加者が協力して館内で様々な音を探す「音を楽しむワークショップ」を行いました。



田畑真希ダンスワークショップの様子

## 地域との対話と連携から生まれる事業

いわみ芸術劇場は、多様な方々がホールや地域施設での鑑賞公演や表現の場を楽しめる事を目指して劇場のもつノウハウと機能を活かし、地域の様々な分野の専門家と連携しながら県西部ならではのバリエーションな取り組みを展開しています。今年度第3回目となる「にぎやかな日々」についてはこれまで地元音楽家中心のコンサート内容だったものを地元音楽家の人材育成も兼ねてプロのアーティストを招聘しグラントワの大ホールで公演を実施しました。アーティストが事前視察へ来館した際に地元音楽家との交流の場を設け、お互いに情報共有をしながら当日の公演を作り上げました。また公演中の来場者フォローとして地域で養護施設や介護施設で活動をされている皆さんにボランティアとして入っていただき公演中も来場者の様々な動きに対して対応をしても



パレードの様子「にぎやかな学校」吉賀会場

らいました。この様に今後も地域と連携し誰もが安心して表現や鑑賞の場に参加出来る事を目指して実施をしていきます。



今福座和太鼓アウトリーチの様子



ワークショップの様子「にぎやかな日々」益田会場

## 目の不自由な人を含む市民ダンサーたちとアーティストと共に場を作る

2016年に目の不自由な人とダンサー・振付家の田畑真希氏、島根県民会館の出会いによって生まれたダンス事業では、創作ダンス公演、映像制作、ワークショップ等行ってきました。様々な機会の積み重ねにより「ビヨン・タバニー」と名付けた地域の目の不自由な人を含むダンサーたちが、障がいの有無に関わらず安心して表現できる場所を自然に作り出しています。今年度から障がいの種別を広げ呼びかけたところ、知的障がいがある人の参加があり、ビヨ

ン・ド・タバニーが楽しみながら田畑氏と共に新しい参加者へのサポートを行う姿が印象的でした。音楽家のハブヒロシ氏による「音を楽しむワークショップ」でジャンルも広げつつ、機会を継続することにより、地域での障がいのない人も共にダンスや音楽を楽しみ、作品を創作したり、障がいのある人の表現活動をサポートができる当事者を含む人材がさらに育っていくことを期待しています。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

11月に人口6,000人ほどの吉賀町にある廃校を利用した施設で「にぎやかな学校」を実施した際に工夫したことは、実施した事のない土地で地域の方にこの事業を理解してもらうため、一人でも多くの地域の方と交流をし直接会って話をしたことです。その対話の中で地域課題について話し、地域にとって今何が必要なのかを一緒に考えた結果「にぎやかな学校」に必要なものや方向性が見えてきました。既に地域で障がい者支援活動をしている方々にも運営面でご協力をいただき、地域を巻き込んだ「にぎやかな学校」を実施することが出来ました。

団体名 国立大学法人 愛媛大学 URL: https://www.ehime-u.ac.jp 所在地 愛媛県松山市  
団体URL: http://treasure.ed.ehime-u.ac.jp 事業URL: https://ehimeuniv-cie.jp/syogai\_gakusyu\_bunkageijutsu/

事業概要

四国・中国・近畿ブロックの重度運動障害と知的障害を併せ持つ重症心身障害児および重度知的障害児者を対象に、学習の場を提供する「訪問カレッジ」と、学習の成果を他者と共有する「オープンカレッジ」を企画・運営しました。「訪問カレッジ」では、スタッフが利用者の一人ひとりに合わせた学びの方法を模索しながら、作品作りやスポーツ、歌や演奏のような表現活動に取り組みました。訪問支援を含んだ多様な学習活動を通じ、障害の程度が重い場合でも、主体的に参加できる社会や体制の構築を目指しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 訪問カレッジ@愛媛大学

- 開催日:** 2023年5月から2024年3月において、利用者の希望日を調整の上、月1回程度実施
- 会場名:** 愛媛県を中心とした利用者の希望する場所(ご自宅や入所施設等)や愛媛大学内、またはビデオ会議システム等を用いたオンライン実施
- 対象:** 四国・中国・近畿ブロックの重度運動障害と知的障害を併せ持つ重症心身障害児および重度知的障害児者を対象に、随時「入学」の受付をしています。参加費:無料

### 実施内容:

#### 【取組1】訪問カレッジ@愛媛大学

愛媛県を中心とした利用者(カレッジ生)の希望する場所(ご自宅や入所施設等)に大学のスタッフやボランティアが訪問し、一緒に様々な活動を実施する、訪問型の生涯学習支援です。

##### ①対面での訪問カレッジの例

- キーホルダーづくり:UVレジンやシール、ビーズなどを使ってオリジナルのキーホルダーを作りました。好きなものを自分で選び、小さな型の中に沢山散りばめていきます。終始、目をキラキラ、ニコニコしながら、好きなパーツには大きくうなづいて選択し、良いものを目指して試行錯誤する楽しさを味わっていました。
- おしゃれ講座:普段は生活介助や医療的ケアが生活の中心となりがちですが、本当はおしゃれが大好きなカレッジ生も。ヘアアレンジ・メイク・ネイルなどの活動を、ガールズトークを交えつつ、大学生ボランティアなど年齢の近いスタッフと一緒に行いました。ご家族から「髪を洗わないと言われて、ちょっと困りました」と伺い、カレッジ生さんの嬉しい気持ち、そこに確かな学習ニーズがあることが伝わってきました。
- 英語の学習も兼ねた歌のレッスン:大学で音楽を先行しているスタッフと一緒に、洋画の主題歌を練習。歌詞に含まれる英語の言い回しから外国語の面白さを知ったり、苦手な発音の練習、メロディーに合わせて歌うなど盛りだくさんの時間でした。(写真1)

##### ②オンラインでの訪問カレッジの例

- 演奏会:楽器の演奏できる人からそうでない人まで、複数名のスタッフとカレッジ生で演奏会を実施しました。外国の珍しい楽器など、好きな楽器を持ち寄って紹介し合い、新たな音や楽器の歴史を知るとともに、人と一緒に表現することの楽しさを体験しました。
- ハロウィンパーティー:季節にちなんだトピックとしてハロウィンを取り上げ、成り立ちや関連する用語についての知識を得ました。(写真2)

#### 【取組2】オープンカレッジ@愛媛大学

普段は在宅で家族や決まった支援者の方に囲まれて過ごすことが多いカレッジ生さんたちが、様々な人と出会い、他のカレッジ生と学習内容を共有します。

##### ①対面でのオープンカレッジ

- 2023年8月21日 「まるのつどい(夏)ー新しいパラスポーツを体験してみようー」  
文部科学省受託事業「学校卒業後の障害者の学びの支援に関する実践研究事業」として実施をしている、「コンファレンス まるのつどい」に参加し、視線入力装置やスイッチを使用したeポッチャや、野球のピッチング等様々なスポーツ種目にチャレンジしました。地元のプロ野球チームの選手も駆けつけてくれました。(写真3)
- 2023年8月22日 「1日!大学生体験」  
愛媛県内外のメンバーで愛媛大学城北キャンパスを散策しました。キャンパス内にあるミュージアムに入り、見たり触れたり感じたりといった体験型の学びに触れ、カレッジ生はいつかの学生気分。昔を懐かしむご家族ともども楽しい時間でした。その後、愛媛県障がい者ICTサポートセンターを訪問しました。

##### ②オンラインでのオープンカレッジ

- 2023年12月22日 「オンライン演奏&合奏会」  
愛媛県在住のアーティストに協力していただき、ピアノ及びエレクトーンの演奏をしていただきました。事前に参加者から募集した曲やクリスマスソングを鑑賞。カレッジ生みんなで合奏・合唱もしました。一人での活動も楽しいですが、みんなと一緒に表現すること、そこでのやりとりの楽しさは格別です。(写真4)

## 本事業で得られた【成果】

### 好きなアニメや漫画について色々な人と話したい!連携によって広がる可能性

訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学では、学習が本人主体の活動になっていること、ライフステージに応じた学びとして、カレッジ生の「やってみよう」や「夢」の実現にもつながっていくこと、などを意識して活動を行っています。今年度は、「やってみよう」の実現を支える取り組みの一つとして、分身ロボット「OriHime (オリヒメ)」を用いた就労支援プログラムに、おしゃべりが大好きなカレッジ生をお誘いしました。こちらは、本学も協力している愛媛県が実施する「ロボティクスによる障害者就労サポート」事業の一環として実施されたものです。

カレッジ生は、特別支援学校の先生や訪問カレッジのスタッフの強力なバックアップを受けながら、接客

研修への参加やOriHimeカフェでの接客に挑戦しました。企画に関わっていた企業関連の人や、来店してくれたお客さん、同じく障害をもつ先輩パイロットなど、これまでの生活では出会う機会がなかった多様なおとなと交流する貴重な体験になるとともに、「自分でも接客ができることがわかり進路の可能性が広がった。」「これからいろいろなことに挑戦しようと思います!」と自分の新たな可能性の発見にも繋がったようです。文化芸術活動を通して、本人の中にある多様な学びのニーズを支援者が把握し、自治体や地域で行われている様々な活動に繋げていくことができるのは、生涯学習の取り組みの魅力だと改めて感じています。(写真5)

### 一人ひとりと作った学びが、新たな学びたい人とそれに寄り添う人へ 本学では、支援者人材育成のためのknow-how提供を積極的に実施

令和5年3月発表の障害者基本計画において、「障害者が生涯にわたり教育やスポーツ、文化などの様々な機会に親しむことができるよう、訪問支援を含む多様な学習活動を行う学びの場やその機会を提供・充実する」と記載されています。障害のある方の文化芸術活動の取り組みは様々なところで実施されるようになってきていますが、医療的ケアが必要なために外出が困難な場合が多い、重症心身障害のある方の学びの支援に関しては、いまだ支援を行っている団体が少ないのが現状です。また、障害のある方の文化芸術活動の支援を実施している団体でも、重症心身障害があり、在宅で過ごされている方の訪問による支援に関しては、ご家族等から相談が来たが、知らないことが多く、どう対応していいかわからないといった相談を受けることがあります。本学HPや、文化庁HPで公開されているこちらの事例集を見て、研修依頼のご連絡をいただくこともあり、訪問型の学習の支援に関するニーズと理解のひろがりを感じました。

特別支援学校在学中には行っていた造形や音楽といった文化芸術活動や様々な学びが、卒業後に途切れてしまうといったことがなくなるよう、県内外を問わず研修や事例報告を実施しております。



【写真1】スタッフと歌の練習中



【写真2】ハロウィンについて



【写真3】夢のスポーツの祭典



【写真4】オンライン演奏会



【写真5】  
ロボットを操作してカフェでの接客中



【写真6】  
スイッチを活用した遊びの取り組み

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

重症心身障害児者の方は、言葉でのコミュニケーションに困難があったり、身振り等で意思を表出することが難しい場合も多く、他者と効果的にコミュニケーションをとったり、情報を収集していくためには、操作しやすいICT機器の活用が非常に重要です。愛媛大学では愛媛県障がい者ICTサポートセンターとも連携し、視線入力装置やスイッチの操作、トーキングエイド・文字盤などを活用したコミュニケーション方法の活用に必要な活動も行っています。(写真6)

NPO法人シアターネットワークえひめ 所在地 愛媛県松山市  
団体URL: <http://tne-ehime.org/>

精神疾患による幻聴幻覚を聞き取りし、絵や言葉にした《幻聴・幻覚カード》や幻聴幻覚ワークショップを開催。展示プロジェクト「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう。」展では、《幻聴・幻覚カード》の原画や幻聴幻覚ワークショップ等の映像、美術作家が精神障がいのある妹とその他の家族とともに制作した作品などを展示しました。精神障がいのある人たちの言葉に出会い、幻聴幻覚について知ることは「他人事にしない」社会にしていけるための活動です。

## 本事業で実施した【内容】

幻聴幻覚展示プロジェクト「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう。」展

開催日: 2023年7月13日(木)~7月30日(日)  
会場名: シアターねこ(愛媛県松山市緑町)  
来場者数: 548名(一般観客:382名 関係者(ボランティア、ギャラリートーク出演者、スタッフ等):166名)  
参加費: 無料

### 実施内容:

#### 展示作品

- ①「わたしの幻聴幻覚」プロジェクト 2021年~現在
    - ・映像《私の幻聴幻覚プロジェクト》
    - ・《幻聴幻覚カード》:原画:40点 スケッチ:16点
    - ・《幻聴幻覚4コママンガ》:3作品
    - ・《幻聴幻覚台本》:4作品
  - ②飯山由貴
    - ・映像《あなたの本当の家を探しにいく》2013年/33:53
    - ・映像《海の観音さまに会いにいく》2014年/21:17
    - ・映像《hidden names》2014, 2021年/25:40
    - ・飯山由貴ワークショップ《これはなんでも思っていることを書いていいカードです。》:32点
- 製作協力:医療法人社団 味酒心療内科、  
社会福祉法人 きらりの森、  
一般財団法人創精会 地域活動支援センターステップ、  
就労継続支援B型事業所 風のねこ

#### ギャラリートーク

7月15日(土)、7月16日(日)、7月23日(日)、7月29日(土)  
いずれも14:00~15:00  
出演:わたしの幻聴幻覚関係者等 延べ16名  
有門氏による幻聴幻覚台本による  
ワークショップ体験及びグループワーク  
7月15日(土) 16:00~17:00  
アンケート回収:252部 回収率:66%

シンポジウム「共に生きる社会ってなに? ~表現やアートができること」

開催日: 2023年7月22日(土)13:00~16:00  
会場名: シアターねこ(愛媛県松山市緑町)  
来場者数: 64名  
登壇者: 延べ8名 参加費: 無料  
実施内容:

13:00~13:45 第1部  
テーマ:「OUTBACKアクターズスクールの活動紹介」  
14:00~16:00 第2部  
テーマ:「共に生きる社会ってなに?~表現やアートができること」

### 幻聴幻覚ワークショップ

開催日: 第1回 12月18日(月)、第2回 12月27日(水)、  
第3回 2月1日(木)、第4回 2月2日(金)  
開催場所: 第1回、2回、4回:シアターねこ(愛媛県松山市緑町)  
第3回:地域活動支援センターステップ(愛媛県松山市美沢町)

参加人数: 延べ45名

実施内容:  
演劇的な手法を取り入れながら、他者の表現や言葉を聞き、自身の思いを語るそのプロセスを参加者や見学者と共有



幻聴幻覚表現ワークショップ

### 幻聴幻覚ヒアリング

開催日: 第1回 12月12日(火)、第2回 12月19日(火)、第3回  
12月21日(木)、第4回 1月30日(火)、第5回 2月7日  
(水)、第6回 2月8日(木)、第7回 2月13日(火)  
開催場所: 就労継続支援B型事業所  
風のねこ  
(愛媛県松山市緑町)

実施内容:  
精神障がいのある人同士の対話による幻聴幻覚カードの作成  
《幻聴幻覚カード》:7枚制作



幻聴幻覚カード

## 本事業で得られた【成果】

### 「他人展」きっかけに精神疾患・精神障がいの世界に気付く

精神疾患・精神障がいは、病気の症状に加え、偏見や病気・障がいの理解を得られない二重の社会的障壁があります。この障壁ゆえに自身の症状や生きづらさについて語れる当事者は、まだごく一部の人たちに限られています。

精神疾患・精神障がいは、一般的に知らない、わからないという人が今回のアンケートでも大半を占めていました。「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう。」展(以下、「他人展」)は、幻聴幻覚ワークショップの映像や幻聴幻覚を絵や言葉で表現した作品《幻聴幻覚カード》を観る、ギャラリートークで当事者の人たちの人柄にふれることにより、一般の人たちが精神疾患・精神障がいについて知る、その世界に気付くきっかけになりました。今後は、作品の展示を通して理解につながる機会を増やすこともできます。

また、「他人展」をきっかけに、当事者の人たちが地域のフォーラムで自身の症状や生きづらさ、今の暮らしや思いを語り、フォーラムの参加者との対話と交流が行われました。全ての人々が共に生きやすい社会にしていけるためにはこのような機会と時間が必要だと感じています。



チラシ:「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう。」展



展示会写真:「この病気にならないと理解できないと思います。どうせ、他人事でございましょう。」展



なんでも思っていることを書いていいカードです



シンポジウム:共に生きる社会ってなに?

### 他人展でない社会をアートを通して作りかえていく

「他人展」は、展示準備段階から記者の取材を受け、地元新聞に「幻聴幻覚」「統合失調症」というキーワードが掲載されました。新聞記事で知ったというご家族は、ギャラリートークに参加して当事者の人たちの思いを聞き、帰りに関係者に話したい、とにかく何か知りたい、という方々でした。それぞれの方の話を

お聞きし、情報提供や関係機関への橋渡しを行いました。「他人展」のような文化的イベントがきっかけで支援につながることもできる、他人展でない社会をアートを通して作りかえていく、その可能性を感じました。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

- 精神疾患・精神障がいのある人とともに作品をつくるという同じテーマをもったアーティストとともに作品の展示を企画したことにより、企画や展示手法が広がりました。また、アーティストのファンが全国から愛媛に旅して観に来ていただくことができました。
- 「他人展」の期間中、受付や会場担当が来場者に声をかけながら、アンケートの協力を呼びかけたことで多くの回収率につながりました。また、受付担当者が中心となり、日誌を作成し、来場者の様子やその日の出来事など、当事者の人たちと一緒に記録し、振り返りを行いました。
- 精神障がいのある人の表現活動を客観的に評価・分析して社会に発信していただける研究者が必要だと感じ、文化庁報告書の中でその必要性について記載したところ、地域精神医療における共創的芸術実践に関する研究者と出会うことができました。今後ゆるやかにつながりながら互いに協働していきます。



パーキンソン病と共に暮らす方々のQOL向上を目的としたダンス活動である「PDダンス®」を普及するため、令和元年度から継続中の基本の取り組み(過去事例集を参照)は5年度も継続して実施。そのうちの「月イチPDダンス」では、オンライン参加者が国内外の各地域におよび、今年度ついに豊岡市と熊本市において対面でのワークショップが実現しました。また、これまで「公開ワークショップ形式」としていた成果発表を、今回初めてオンライン出演者と現地出演者による「作品発表」として行いました。

## 本事業で実施した【内容】

### PDダンスin熊本「全国パーキンソン病友の会第46回熊本県支部総会」

開催日: 2023年5月20日(土)  
会場: 熊本市市民会館大会議室  
参加者: 70名  
対象: パーキンソン病と共に暮らす方々  
協力: パーキンソン病友の会熊本県支部  
参加費: 無料

#### 実施内容:

熊本から「月イチPDダンス」にオンラインで参加しているメンバーが発起人となり、パーキンソン病友の会熊本県支部総会への「PDダンス」招へいを企画していただきました。

### PDダンスカフェin豊岡「豊岡でパーキンソン病と暮らす方の交流会」

開催日: 2023年10月27日(金)、12月15日(金)  
会場: 27日/兵庫県豊岡総合庁舎保健所  
15日/芸術観光専門職大学実習棟スタジオ  
参加者: 27日/当事者4名 家族4名 保健所6名  
ダンストーク2名 学生3名 計 19名  
15日/当事者4名 家族3名 保健所2名  
ダンストーク2名 学生2名 計 14名  
対象: パーキンソン病と共に暮らす方々  
協力: 芸術観光専門職大学古賀研究室、  
豊岡健康福祉事務所、(一社)ダンストーク  
参加費: 無料

#### 実施内容:

本事業の効果検証においてご協力いただいた芸術観光専門職大学教授の古賀弥生さんをはじめとして、今回新たに地域の協力者の力を得ながら、ついに対面でのワークショップが実現しました。福岡で行っている「PDダンスカフェ」を基に当事者同士、支援者同士での交流とダンスを楽しみました。

### People Art Performance Vol.5出演

開催日: 2024年3月2日(土)  
会場: 福岡県立ももち文化センター  
対象: パーキンソン病と共に暮らす方々  
参加人数: 現地出演者/12名 オンライン出演者/10名  
県外からの遠征者/2名

#### 実施内容:

月イチPDダンス参加者のうち、県外から遠征して本番のステージに上がることを決断してくれた各地の仲間たちと福岡の仲間たちが集い、オンラインの出演者も交えてのダンス作品を発表しました。また、映像作品も盛り込みながら、例年同様の公開ワークショップも実施。新たな交流も生まれ会場との一体感も健在でした。その様子はウェブサイトにて公開する予定です。



People Art Performance vol.5 上演作品「光に、つままれて」 撮影:草本利枝

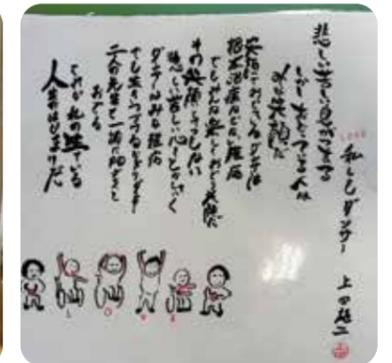
## 本事業で得られた【成果】

### PDハウスダンサーの輝き『好きだ PDダンスだ』『私しもダンサー』

過去5年間継続してきたパーキンソン病専門ホームである「PDハウス」での「週イチPDダンスワークショップ」。参加者のお一人がワークショップ後にご自身のお部屋に招き入れて見せてくださったのは、タイトルにある「PDダンス」への思いを綴った2つの詩(タイトルはご本人記載の通り)でした。その作品には「ダンサーはみな難病 でも生きつづけるかぎりダンサー」「これが私の生きている人生のはじまりだ」と綴られています。数年にわたって継続してきたからこそ、その成果が参加者に実感として伝わっていることがうかがえて、とても励みになりました。



PDハウスのダンサー「ぼーずさん」と自作の詩



PDダンスカフェin豊岡「豊岡でパーキンソン病と暮らす方の交流会」の様子



PDダンスin熊本「全国パーキンソン病友の会第46回熊本県支部総会」の様子

### オンライン参加の仲間たちが、県外から福岡遠征を決断し舞台に生出演!

コロナ禍を機にオンラインを活用したワークショップを継続してきたことで、全国各地や海外在住の方までへと参加者が拡大し、「誰もがどんな状況でもどんな場所からでも芸術活動に参加出来ること」を実現してきました。とはいえ、遠征してくれたメンバーは、「今までオンラインでしか会えなかった人と、一緒に踊ることができただけでなく、他の出演者やスタッフなど様々な人と会って話すことができ嬉しかった」と現地での交流を経て、実際に集う空間の尊さ、生の舞台に立つという緊張感や達成感を改めて感じていました。一方で、オンライン出演者同士もチャットで交流したり「一緒にステージに立っているみたい

だった!」との感想を言い合ったりしながらそれぞれが本番の空間を味わっていたようです。

これまで、公開ワークショップ形式のみでの出演でしたが、今回はじめてメンバーだけでの作品上演にも挑戦し結束力が強まったようにも感じます。また、衣装の準備にあたって参加者の一人から「パーキンソン病になってはじめて針を持った。(病気になってから)裁縫は出来ないと思い込んでいたけど、やってみてよかった!」との声も聞かれ、ダンス活動が新しい挑戦や発見につながり、日常生活に潤いを取り戻すきっかけになることも大きな成果のひとつであると確信しています。

## POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

これまで事業の中で「PDダンス」という言葉を使ってきましたが、この言葉の認知度を上げるため、普及するため、さらに、今後ファシリテーター育成時に正確にこの取り組みの趣旨や方向性を伝えていくために、委託事業としてではなく当法人独自に商標登録を取得しました。また、本事業での展開として参加者(当事者)からの積極的な企画提案が増えてきたことも特徴のひとつです。5年度の熊本県、豊岡市に続いて6年度に向けて徳島県や広島県で当事者による企画が動き出しています。

団体名 一般社団法人 琉球フィルハーモニック 所在地 沖縄県那覇市  
団体URL: <https://ryukyuphil.org/> 事業URL: <https://churasoundsconcert.wixsite.com/churasounds2023>

事業概要 障害のある人とその家族、関係者が安心してオーケストラコンサートを楽しめる環境づくりを目的として、音楽や福祉など各分野の専門家、障害当事者らによって構成される「ゆいまーるミュージックプロジェクト」を組織し、その実践の場として「美(ちゅ)らサウンズコンサート」を開催しました。5年目となる今年は、初の離島公演を自治体の共催や後援を得て実施。さらにこの公演では、障害のあるアーティストをゲストに迎え、その活動の場を拡充し、共演者との相互理解及び交流を深めていく場にもなっています。

## 本事業で実施した【内容】

### 「ゆいまーるミュージックプロジェクト」会議

開催日: 令和5年7月16日、令和5年11月5日、  
令和6年2月4日

場所: オンライン開催(Zoom)

対象: 「ゆいまーるミュージックプロジェクト」メンバー、冊子作成担当者、評価調査担当者  
現地担当者、琉球フィルスタッフ

参加人数: 延45名

#### 実施内容:

コンサート前の会議(2回)では、過去の公演を踏まえた改善箇所や新たな取組、公演内容、周知方法や評価指標などを協議。今回は、初の離島での開催となるため、開催地の福祉団体等の情報収集や周知方法、会場の環境の確認と対応策等を話し合いました。

また、公演後の会議では、振り返りと評価報告、冊子内容、次回へ向けての方針を話し合いました。

### 「美らサウンズコンサート 2023 in 宮古島」開催

開催日: 令和5年12月3日

場所: マティダ市民劇場

対象: 全ての障害・難病のある方、ご家族・介護の方等、一般の方(※申込時には障害のある方や関係者を優先)

募集定員: 600名

参加人数: 来場者数494名、出演者46名、関係スタッフ約40名  
入場料: 無料

#### 実施内容:

「ゆいまーるミュージックプロジェクト」の協議内容に沿ったコンサート運営を行いました。

マティダ市民劇場の前方客席を取り外し、その部分にフロアマットを敷き、オーケストラの前にフリースペースを設置しました。また、車椅子スペースは客席の真ん中の通路側に配し介助者と並んで座れるように考慮し、ストレッチャー席は客席前方の両脇の広いスペースに配したゾーニングを行い、ゆったりと鑑賞できる客席づくりを行いました。

さらに今回は、聴覚障害者の方のために予定していたヒアリンググループではなく琉球補聴器さんの御協力で最新のFM補聴援助システムを活用させていただきました。

また、これまで新型コロナウイルス感染拡大防止策として活用してきた琉球フィル独自のQRコードによる受付システムを今回も用いて、受付時の混雑を避けることが出来ました。

会場に2名の看護師(プロボノ)を配置するなど、安心して鑑賞できる環境づくりに取り組みました。

#### 公演内容

主催: 文化庁

共催: 宮古島市教育委員会

後援: 沖縄県、宮古島市、沖縄県社会福祉協議会、宮古島市社会福祉協議会、琉球新報社、沖縄タイムス社、宮古毎日新聞社、宮古新報、FMみやこ宮古テレビ、宮古島市文化協会、公益財団法人沖縄県文化振興会

協力: 琉球補聴器 宮古支店

受託/制作: 一般社団法人 琉球フィルハーモニック

出演: 指揮/福田 光太郎 ナビゲーター/當銘 直美  
ゲスト/砂川 昌太郎(唄・三線/発達障害/在宮古島)  
演奏/琉球フィルハーモニックオーケストラ

♪ ディーリアス: 小管弦楽のための2つの小品より春「はじめてのかっこうを聴いて」

♪ ロッシーニ: 序曲「ウィリアムテル」より「スイス軍の行進」

♪ グリーグ: 組曲「ペールギュント」第1組曲より

「朝」「オーセの死」「山の魔王の宮殿にて」

♪ 普久原 恒勇: 「芭蕉布」

○ リラックスタイム リズム遊び

ゲスト砂川 昌太郎 2曲

♪ 「豊年の歌(宮古民謡)」

♪ 「漲水のクイチャー(宮古民謡)」

♪ 坂本 英城: ゲーム「機動戦士ガンダム『戦場の絆II』」よりメインテーマ

○ 指揮に挑戦(会場2名)

♪ ドヴォルザーク: 交響曲第8番より第4楽章

アンコール

♪ 坂本 龍一: 「戦場のメリークリスマス」より「Merry Christmas Mr. Lawrence」

## 本事業で得られた【成果】

### 選曲から会場づくりまでバリアフリー化を実現

音楽療法士のアドバイスによる選曲・曲順(静かに始まって静かに終わり、落ち着いて退席出来るように)、チラシやプログラムには色覚障害のある人にもわかりやすい色使い、プログラムに読み上げアプリ用のテキストを掲載、手話通訳、点字プログラム、UDトークの活用、ゾーニングの工夫(自由な姿勢で

鑑賞できるフリースペース、ゆったりと鑑賞できる車いすやストレッチャーのスペース、周りの目を気にせず鑑賞できるスペースなど)、補助犬の入場可、演奏者へ障害のある人の反応等について事前周知を行い、来場者が演奏中の出入りや歓声・拍手等を自由に行えるようにしました。

### 開催地域等との連携

5年目となる本事業では、離島県である沖縄にとって重要な、初の離島公演を実施。地元の方を現地担当者に配し、開催地域の教育委員会や福祉課、特別支援学校、地元企業等の協力を得るための事前準備を行ってもらい、スムーズな連携が行えました。

特に宮古特別支援学校では前日リハーサルの会場提供や、宮古高校は打楽器の借用、就労支援事業所

のチラシポスティングや公演の周知、社会福祉協議会はボランティアの募集の協力、地元企業からは会場設営や機材の無償提供等の協力を頂きました。

また、地元の小中高校生や、一般の若い世代から熟年まで多くの方がボランティアに参加しました。宮古特別支援学校の先生方にボランティアリーダーをお願い出来たことは大きな力となりました。

### 芸術鑑賞の機会が増えるだけでなく相互理解や交流が深まる

出演者も鑑賞者も分け隔てのないコンサートを開催することを通して、下記の効果が期待できます。

- 障害のある人や関係者の芸術鑑賞機会の増加。  
宮古島ではフル編成のオーケストラ演奏を一般の方が鑑賞する機会が皆無に等しく、一般の方と障害のある人が音楽を楽しむ機会を共有することは、相互理解につながり、バリアフリーな芸術鑑賞機会の増加につながります。
- 障害のあるアーティストが活動できる場の拡充。

今回は宮古特別支援学校の卒業生がゲスト出演し、観客は大きく盛り上がりました。そのことは彼の後輩の大きな励みになったと伺いました。

- 音楽家同士の相互理解と交流の深化。
- オーケストラメンバーが障害の特性を理解することで安心感のある鑑賞環境形成が実現。
- 学生ボランティアの参加で福祉への理解促進。
- バリアフリー公演実施のノウハウの蓄積。

### これまで得られたノウハウを他地域でも活用できるようにしたい

地域の福祉関係者やオーケストラなど、さまざまな立場の方が障害者を対象としたコンサートを開催できるように、第1回目の公演からコンサートのノウハウなどをまとめた冊子を作成し、全国の福祉関連団体や主要ホール、オーケストラ等に配布。

今年度は、北海道や三重県などの自治体関係からバリアフリーなコンサートの開き方について問い合わせがあり、また、那覇市の担当者は本公演の視察に訪れ、来年度の開催を検討しています。



会場の様子



会場の様子



ボランティア打ち合わせ



ゲスト砂川昌太郎さんとの共演



宮古島市長表敬

#### POINT

### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

本プロジェクトメンバーのネットワークを活かし、開催地域の自治体や住民、福祉団体等と連携することができました。特に今年度は前回のホール公演の経験を生かした会場設営やゾーニングを行ったこと、現地に地元のスタッフを置くことにより、その方のネットワークも活用した細やかな対応や準備を行うことができ、公演成功の大きなポイントになりました。

当法人は演奏家で構成され、プロジェクトの立案・プログラム作りを行っています。演奏家ならではの「音楽の楽しさを届けること」「子どもたちの自己肯定感を育む一助」として、不登校やひきこもりを経験した子どもや若者と交流し、月に1回の音楽ワークショップで創作や音楽アンサンブルを定期的に行い、毎年2月に発表会を開催。子どもたち・若者たちが「やってみたい」と言える場づくりで、自己表現を後押ししています。今年度はこれまでの事業をふりかえり、関係者を招いてトークイベントも開催しました。

## 本事業で実施した【内容】

### 音楽ワークショップ

**開催日:** 2023年6月～2024年2月  
**会場名:** (那覇市) 中高生の居場所 那覇kukulu (うるま市) 中高生の居場所 うるまkukulu、小学生の居場所 b&gからふる田場、若者の居場所 コミュット!(就労支援B型)  
**対象:** 不登校やひきこもりを経験した子どもと若者、又は障害のある若者  
**参加人数:** 中高生の居場所(25名程度) 小学生の居場所(20名) 若者の居場所(8名) 参加費:無料  
**講師:** 鶴見幸代(作曲家)、大城伸悟(ピアニスト)、喜納 響(テノール)、平良明子(ピアニスト)、根間安代(クラリネット)

### 実施内容:

6月から毎月居場所ごとにワークショップを行い、子どもたちとの関係性を深めていきました。9月に合同ワークショップ「ワンデイ宿泊」を開催し、4つの居場所が集い、楽器体験と曲ごとに分かれてアンサンブルを体験、ミニ演奏会で互いの演奏を披露し、ワークショップの成果を共有しました。12月から発表会のプログラムに取り組み、居場所支援員もワークショップに参加し、子どもたちと一緒に音楽作りや楽器の演奏をすることで音楽が共通言語となり、音楽家が不在の時も練習したり楽器を教え合うなど、居場所に新しいコミュニケーションが生まれました。前回の発表会に参加した子どもも多く、彼らの新たな挑戦やステップアップしたい心を尊重して、支援員と調整を重ねながら進めていきました。

### トークイベント「音楽家が子どもとできること～音楽の力で織りなす支援の場、その軌跡と可能性～」

**開催日:** 2024年1月17日(水) 18:00～20:30  
**会場名:** 浦添市 アイム・ユニバース てだこホール 市民交流室  
**対象:** 音楽家、居場所・子ども食堂運営者、大学教員、公共ホール職員、コーディネーター他  
**参加人数:** 会場(20名) オンライン配信(60名) 参加費:無料

### 実施内容:

学校や家庭とは異なる、第3の居場所ですつながった子どもたちや若者たちと音楽家が行うワークショップについて、事業当事者とアートプロジェクトの関係者で話し合いました。事例報告では、当法人の事例と他府県での音楽ワークショップを活用した事例が紹介され、<居場所×音楽ワークショップ>のかけ合わせから見えてくる共通性が浮き彫りになりました。クロストークでは居場所や音楽家について活発な意見交換がありました。

**登壇者:** 大澤寅雄(文化コモンズ研究所)、柿塚拓真(神戸市民文化振興財団)、常盤成紀(堺市文化振興財団)、宮浦宜子(堺アーツカウンシル)、鶴見幸代(作曲家)、屋部千明(NPO法人ちゅらゆい)、大城伸悟・平良明子(楽友協会おきなわ)

**モデレーター:** 林 立騎(那覇文化芸術劇場なはーと)

### 成果発表会 「ゆかいな音楽家と、ときどきひきこもり 2024」

**開催日:** 2024年2月24日(土) 14:30～16:30  
**会場名:** うるま市 生涯学習・文化振興センター ゆらてく 多目的ホール  
**対象:** ワークショップ参加者と講師、沖縄県内の音楽家  
**参加人数:** 85名  
**入場料:** 1,000円  
**実施内容:**

発表会は6回目を迎えることができました。初めのころは、発表会への拒否感もあり苦労しましたが、回を重ねるごとに経験を積み、発表への意欲が高まるにつれて曲数が増え、時間内におさめることに頭を悩ませるようになりました。今年は居場所に新メンバーが多いこともあり「居場所の歌」を新たに創作し、子ども・若者、当事者の言葉で綴られた歌詞にメロディー・リズム・ハーモニーをつけて発表しました。ある居場所では、わかりやすく伝えたいとの思いからパワーポイントを作成し、子どもたちが主体となり内容作成・操作を演奏と共に披露しました。今年度は過去最高の出演者数で、出演者の一体感や高揚感もまた特別でした。

## 本事業で得られた【成果】

### 継続から生まれる自信、自己表現の芽生え

不登校や引きこもりを経験した子どもや若者、また、障害のある若者を対象に音楽ワークショップを実施しました。複数年にわたる事業の継続により、自主的に楽器の練習に取り組み、アルバイトをして楽器を購入する子どもも現れ、音楽活動が定着し個々の表現に積極的に取り組む姿が見られました。前回の発表会から楽器演奏を中心としたアンサンブルが増え、今年度も引き続き、三線・ギター・ウクレレなど演奏しやすい楽器を中心に、みんなで参加するスタイルが定着してきました。相手の音を聴き、息を合わせ音楽を演奏することでしか得られない楽しさを経験し年齢や性差、技

術などを超えた「一体感」を味わう機会になっています。これは子どもたちにとっての文化的な体験だけではなく、音楽家にとっても音楽を共有する「感覚」として、非常に新鮮なものです。「知らない子どもの演奏を聴いて涙が出た」という来場者からの感想にも表れているように、技術や虚栄心を超えた「純粋に演奏する/自己を表現する喜び」は人の心に響きます。表現する自分に出会うことで自信が生まれ、新しいことに挑戦する子どもも増えています。アルバイトを始める子、生徒会への立候補など、子どもたちと社会のつながりを創出する機会になっていると考えます。



発表会の集合写真



合同ワークショップイベント\_ミニ発表会



若者のワークショップ

### トークイベント「音楽家が子どもとできること」から見えてきた音楽ワークショップの可能性

トークイベントでは当法人の事例と他府県の音楽ワークショップの事例を共有したことで、場所や対象者が違って、音楽家に求められる姿勢や手法に共通する部分が多くあり、これまでの悩みが報われ、大変心強い思いをしました。後半のクロストークでは、音楽家の存在意義を中心に意見が交わされましたが、特にひきこもりや対人関係に自信のない対象者とのコミュニケーションについて、「人間関係はアンサンブル」と音楽をイメージした言葉が生まれ、距離の取り方、相手への気使いや寄り添い方について大きな学びがありました。音楽家自身が事業を言語化

したことで、より臨場感を持って伝えることができ、トーク場所や対象イベント終了後、この取り組みに興味を持つ音楽家から「激しく共感しました」「言葉がとて響いた」と反響がありました。オンライン配信では沖縄県内はもとより全国から申し込みがあり、音楽家、居場所・子ども食堂運営者、大学教員、公共ホール職員、コーディネーターなど様々な職種、層から関心が寄せられました。この事業のもう一つのテーマである「不登校の児童生徒への関心」を喚起することができたことも大きな成果でした。

### POINT

#### 本事業を実施する上で行った【独自の工夫】

不登校や引きこもりを経験した子どもや若者は精神的・体力的にゆらぎがあり、また事業所の方針もあり、音楽家の希望するプログラムを押し付けることはできません。また、子どもたちにはいつものルーティーンがあり、来月の予定や半年先の話ができることが「とても大事」だと、居場所の支援員よりアドバイスを受けました。変化する「ゆらぎ」と変化しない「いつも」、子どもたちの「リクエスト」と音楽家の「意向」をどのようにブレンドしてワークショップを運営していくか、臨機応変な対応が求められます。例年、ワークショップのファシリテーターを外部講師に任せていましたが、今年度より、当法人の音楽家も担当することにしました。準備をしていくものの、子どもたちのその時々状況に応じて柔軟に舵取りをしながらのワークショップは、音楽家の得意とするアンサンブルのようで、楽しく、時には手に汗握る展開もありますが、達成感は格別なものがあります。変えられないことは無理して変えずに、変えられるところは恐れずに、変化を受け入れて進んで行くことが大事だと思います。また、音楽家は時に、1音も演奏をせずに子どもたちと話だけをすることもあります。演奏をしないジレンマと、楽器を持たない私たちの人間性が剥き出しになる不安はありますが、一人の人間として向かい合うことが、彼らとの関係性を築く時にとっても大切な要素となります。

---

**令和5年度  
障害者等による文化芸術活動推進事業事例集**

---

発行日：令和6年3月

発行：文化庁参事官(生活文化創造担当)付共生社会推進担当  
〒602- 8959 京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町85番4

編集協力：株式会社KBC